

児童の書字活動における安定した運筆力の習得を 目指した実践研究——横画の右上がりの角度に注目して——

芹澤麻美子

はじめに

平成二十九年三月に新学習指導要領が公示され、小学校国語科書写第一学年・第二学年の学習指導要領には、「点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧を書くこと。」と示されており、学習指導要領解説には、「水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなど、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な指導を工夫することが望ましい。」と示されている。このように、運筆の指導を工夫し、早い段階で児童が点画を適切に書くことができるよう求められている。運筆指導に重点を置く理由について『明解書写教育』（二〇〇九年、全国大学書写書道教育学会）に、「正しく整った楷書を書くためには、まず文字を構成する一点一画を正しい筆使いで書くことが重要であり、これが小学校書写で毛筆を取り上げていく理由のひとつである。」と明記されている。点画を正しく書くことは、文字を整えて書くことに繋がる。また毛筆学習により、スムーズな運筆リズムを習得し、日常の書字活動に活かすことができる。

新学習指導要領を受けて、平成二十九年七月に児童が硬筆・毛筆で書く基本点画の実態調査を行った。その際に書かれた横画に注目すると、右上がりに書くことができない児童の割合が全体の半数以上を占めていた。横画を右下がりまたは水平に書くことにより文字の均衡は崩れる。

楷書の横画が右上がりになることについて、森郷水が『楷書の造形論』（一九八一年、日本教育研究センター）で以下のように述べている。

書写運動の支点となる指の関節、手首の関節、肘の関節及び肩の関節はすべて書写される線の右下の方向に位置しているわけであるから、無理のない自然な運動の結果として書写される横画は、厳密な水平線ではなく、右上がりになるのが普通である。

書字運動の中で横画は右上上がることが普通であると森は述べているが、横画を右上がりに書くことができる児童は、全体の半数に満たない。横画が右上がりになることは手の動かし方から考えると自然なことであり、また正しく整った文字を書くためには、横画が右上がりになることが必然である。

隷書の字形から楷書の字形への変遷で、文字の概形は横につぶれた形から縦に長い字形になり、左右相称に造られていた字形から左小右大の字形の取り方に変化した。右払いの出現など文字の形の変化に伴い、横画は右上がらなければ字形は整わない。それにも関わらず、児童が書く文字の横画は上がらない。

以上より、本研究では、児童の書字活動における横画の角度の実態調査を行い、表出した点画の形態にとどまらず、文字全体を書く中で、横画の角度と姿勢や持ち方との相関関係について研究する。児童が横画を右上がりに書くことができない文字の傾向や規則性についても考察し、運筆指導法を提案する。

I 研究の背景と目的

本研究の背景には、児童が書く横画が右上がらないという実態がある。そこで実態調査を取ることとした。児童が書く横画の角度の実態調査を取り、その結果を踏まえて、効果的な指導法を提案する。右利きであれば、書字運動の中で左から右に線を引く際に横画が右上がることは自然である。したがって児童の書く横画も右上上がることが自然である。しかし、児童が書く文字の横画は半数近くが右上がらず、ましてや右下がりになる書き方の児童もいる。

児童が書く横画の研究については、「硬筆・毛筆の基本点画の書き方に関する考察——硬筆・毛筆に共通する書き方に着目して——」『研究紀要 第二十三集』（二〇一八年、日本教育大学協会全国書道教育部門）に、基本点画の練習で書く一本の横画の角度を計り調査を行った。その際に計測した横画は右上がって

いない書き方が半数以上だった。しかし、この研究で調査した横画は、文字の中にある横画ではない。本研究では、児童が書く文字の横画の角度の研究を進める。

横画が右に上がらない原因として平成二十九年七月の調査から既に二つの原因が明らかである。一つ目は姿勢である。鉛筆での書字例を挙げると、脇を閉めて書字をする児童や机と顔の距離が一〇センチ程の児童は横画が右に上がっていなかった。二つ目に鉛筆の軸が倒れる方向に問題があった。硬筆で書字する際には軸が書字者の右肩方向に倒れることが自然であるが、児童が鉛筆で書字する際、書字者とは反対側に軸が倒れている児童が全体の三分の一以上見られた。これ以外にも、児童の横画が右に上がらない原因として活字の影響などが考えられる。以上の三点についてより精度の高い実態調査を行う。実態調査の分析を受けて授業実践を行い、効果的な指導法を考案する。

この分野の先行研究として、落合一郎「児童の書写の実態に関する発達研究——硬筆かな文字の計量的分析を通して——」『書写書道教育研究 第十五号』（二〇〇一年、全国書写書道教育学会）、落合一郎「児童の書写の実態に関する発達の研究Ⅱ——硬筆かな文字の計量的分析を通して——」『書写書道教育研究 第十六号』（二〇〇二年、全国書写書道教育学会）がある。落合はひらがなの「き」の三画目の縦画の方向、「さ」「お」「む」の二画目の縦画の方向の差により、横画の角度にも差があることを明確に示している。「き」と「さ」は、縦画の方向が斜めであり、この場合は、横画が右に上がりやすいと説明している。「お」と「む」のように、縦画が垂直に進む場合は、横画が右に上がらないことを明確にしている。しかし、ひらがなのみの考察であるため、本研究では、漢字でも同様のことが言えるのか調査を実施する。

また、富澤敏彦の『六度法ノート』（二〇〇四年、小学館）がある。これは、ノートに印刷されている横の罫線が、六度右に上げて印刷されているノートのことである。富澤は唐代の楷書をもとに横画の右上がりの角度は五度から一度に上がることに、文字の均衡が保たれているという。そして自身の研究をもとに「六度法」を提案した。横画の右上がりの角度を六度とすることは、字形を整えるうえで有効な技術であると述べている。この六度法は、硬筆での実施であるが、毛筆でもOHPシートに六度の罫線を印刷した際に児童の文字に変化が現れるか授業実践を行う。

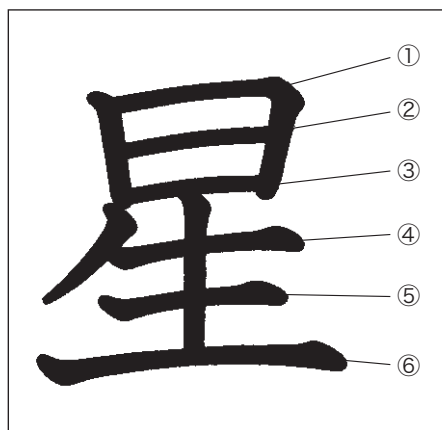
Ⅱ 研究方法

本研究では、児童の書字活動での横画の角度の実態調査を行い、その後授業実践を行う。対象学年は毛筆学習が始まる三年生から五年生とした。横画の実態調査は一回とする。本研究では、「星」字の横画を中心に調査を行う。「星」字には、折れに向かう横画、囲いの中に書く横画、縦画と交わる横画、左払いと接する横画、縦画と接する横画と様々な書字条件の横画が存在するため、「星」字を調査対象の文字とした。硬筆・毛筆ともに分析および考察を行う。硬筆では、横画が含まれる単体の漢字と縦書き、横書きで書く文章の横画の調査を行う。単体・縦書き・横書きの全てで「星」字を書き、横画の角度の調査を行う。その後、毛筆での分析及び考察を行う。三、四、五年生ともに、「星」字の一字を半紙に書くよう指示する。「星」字の見本は用意する。

実態調査では、横画が右に上がりにくい線の傾向や規則性の調査、運筆法についての調査を行う。また姿勢や鉛筆・筆の持ち方はカメラで撮影し執筆法の調査をする。

実態調査後に、児童が書く「星」字の横画の角度を全て計り調査を行う。その後、横画を右上がりを書くことができるよう、考察し実践する。硬筆・毛筆ともに富澤の『六度法ノート』に習い実践を行う。硬筆では、六度の斜角を引いた練習用紙を使用して、単体の漢字や文章を練習する。毛筆では、六度の斜角をOHPシートに印刷したものの上に半紙を置いて練習をする。横画は右に上がるということを言葉で伝えるだけでなく、実際に六度の角度を体験することにより、横画の角度が安定するのではないかと考える。実践研究は全二回とし、毛筆での実践が一回、硬筆での実践を一回とする。まとめ書きの文字は毛筆・硬筆ともに実態調査で書いたものと同じ文字とする。実践後に結果をまとめる。

【図1】「星」字の横画



III 児童が書く横画の実態調査

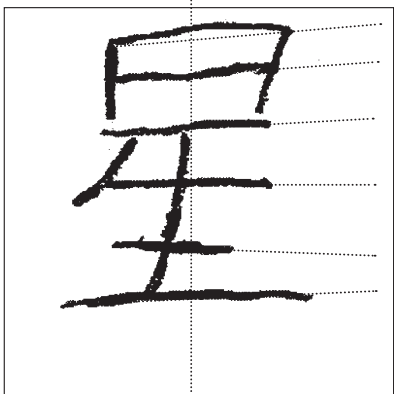
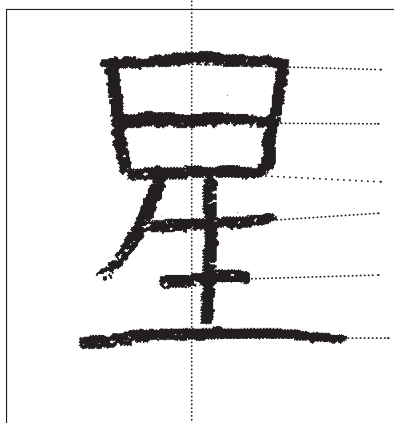
本研究では硬筆・毛筆の両面から調査を実施する。対象学年は、第三学年から第五学年である。第三学年が五四名、第四学年が九七名、第五学年が九五名、計二四六名の児童の横画を調査する。調査する文字は「星」字とする。「星」字は、三年生がすでに習得している文字であり、さらに横画以外の点画で児童の苦手意識が高い右払い、曲がりが入っていない文字である「星」字を選んだ。

「星」字には六本の横画がある(図1)。一本目は、二画目で折れを構成する横画(①)、二本目は、三画目で囲いの中にある横画(②)、三本目は、四画目で囲いを閉じる横画(③)、四本目は、六画目で左払いに接する横画(④)、五本目は、八画目で縦画と交わる横画(⑤)、六本目は、九画目で縦画と接する横画であり、最終画に書く横画である(⑥)。これらの角度を一画ずつ計り「角度比較表」にまとめ、さらに「硬筆・毛筆の角度比較」を作成した(表8、9)。

硬筆・毛筆ともに始筆の頭の部分と終筆の頭の部分を結んだ箇所を計った(図2)。硬筆は一度ずつ角度を計ったが、毛筆は墨の滲みや半紙の伸縮により、一度ずつ角度を計ることが厳しいと判断し

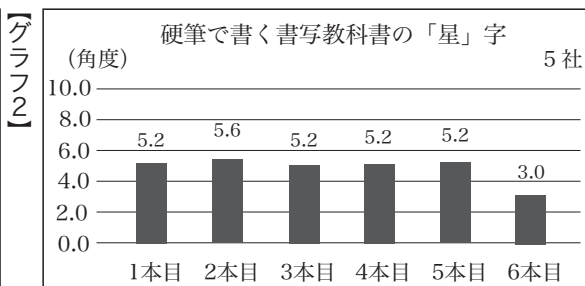
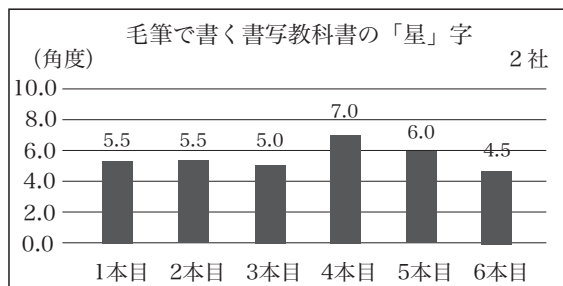
【図2】「星」字の横画の角度を計る位置

【硬筆】



【毛筆】





【グラフ2】

【グラフ1】

硬筆の学習

○記本点画の書き方に気をつけて漢字を書こう。

年 組 番 ()

秋	花
言	春
間	星
朝	清
風	空

○次の文をわくに、たて書きとよこ書きで書いてみよう。

理科のの学習で、星の動きに注意して観そくした。

①たて書き ↓

②よこ書き ※紙をたてにして書こう。 ↓

【実態調査シート】

たため、○ゝ二度の間は○度、三ゝ五度の間は三度、六ゝ八度の間は六度、九ゝ一度の間は九度、一〇ゝ一二度の間は一〇度……(以下同様)とした。

横画の角度を計る際、児童が書く「星」字の縦画を基準とすると、縦画が左に倒れている書き方、右に倒れている書き方などがあり、正確な横画の角度を計ることができない。したがって、縦の基準は、紙に対して横画の角度が何度になるかを計測することにした。

「星」字を正しく整えて書いた時の角度の見本として、書写の教科書に掲載されている「星」字の横画を計り、グラフにまとめた。硬筆で書く「星」字の横画は、五社の教科書から計測し、一本目から六本目までの平均角度は五度だった(グラフ1)。毛筆で書く「星」字は二社のみだが、一本目から六本目までの平均角度は五・六度だった(グラフ2)。書写の教科書の角度を基準とし、児童が書く「星」字をみていく。児童が書く「星」字の角度を調査した表をもとに、グラフを作成した。一本目から六本目までの各横画の角度の平均値を出し、グラフにまとめた。この表をもとに実態調査の結果をまとめる。

1. 児童が硬筆で書く横画の実態調査

硬筆で書く横画の実態調査では、単体で書く「星」字(グラフ3)、縦書きで書く「星」字(グラフ4)、横書きで書

【表1】第3学年～第5学年硬筆 全体の横画平均角度

	単体	縦書き	横書き
1 本目	4.1	5.3	5.8
2 本目	3.7	5.0	5.5
3 本目	3.5	5.2	6.0
4 本目	5.8	7.6	4.7
5 本目	4.4	6.8	6.5
6 本目	3.4	5.1	4.5
平均	4.2	6.0	5.5

く「星」字（グラフ5）の三つの書き方での調査を行った。縦書き・横書きは、文章の中にある「星」字のことである。各学年に分けて調査結果をみていく。

（1）第三学年硬筆「星」字の各横画平均角度調査結果

まず、第三学年が硬筆で書く「星」字をみていく。三つの「星」字の中で最も角度が上がらなかった横画は、単体で書く「星」字であった。縦書きで書く「星」字の六本の平均角度が六・八度、横書き六本の平均角度が六・八度に対して、単体の平均角度は四・〇度という結果だった。

単体、縦書き、横書きの全ての中で最も角度が上がっていた画は、四本目の左払いに接する横画である。それに対して、最も横画が上がらなかったのは、単体で書く「星」字では、三本目の囲いを閉じる横画、縦書きは、二本目の囲った形の中に書く横画、横書きは、六本目の最終画の横画である。縦書き、横書きともに囲う形の一から三本目の横画は上がりにくいことがわかる。それに対して、四、五本目の横画は比較的上がりがやすいことがわかる。

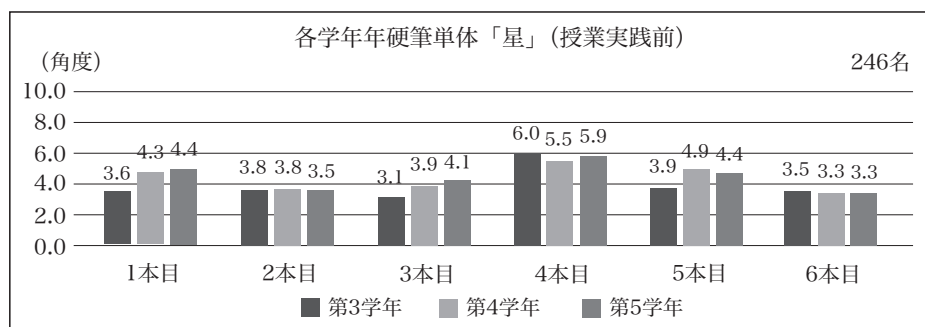
（2）第四学年硬筆「星」字の各横画平均角度調査結果

第四学年が硬筆で書く「星」字の中で最も角度が上がらなかった横画は、単体で書く「星」字である。単体の六本の平均角度は、四・三度、縦書きの平均角度は五・九度、横書きの平均角度も五・九度である。単体、縦書き、横書きで書く三つの中で最も角度が上がっていた画は、四本目の左払いに接する横画だった。次に上がる横画は、五本目の横画であり、四、五本目の横画は比較的右上がりに書いていることがわかる。最も右上がりにならない横画は、単体の書き方では六本目、縦書きは二本目、横書きは六本目となった。最終画である六本目の横画は、前半部分は右に上がるが、後半部分は少し下がっていることが適切な書き方である。したがって、単体の書き方と横書きの書き方のように最も横画が下がる画は、最終画の横画となるのが自然である。しかし、縦書きの三本目の横画は六本目より下がっているため、文字の均衡は崩れていることになる。

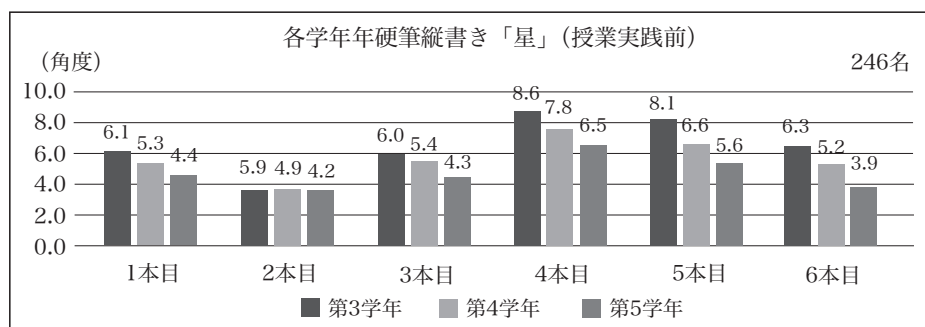
（3）第五学年硬筆「星」字の各横画平均角度調査結果

第五学年が硬筆で書く「星」字の中で最も横画の角度が上がらなかったのは、単体で書く「星」字である。単体の六本の平均角度は、四・三度、縦書きの平均角度は五・二度である。単体、縦書き、横書きともに四本目の左払いに接する横画が最も右に上がる。反対に、角度が最も上

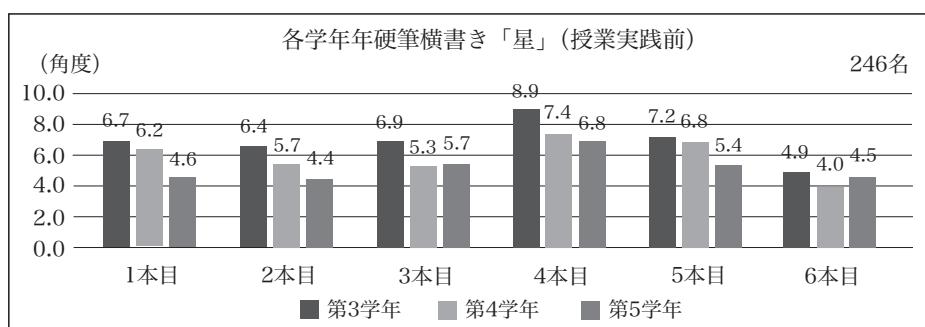
【グラフ3】



【グラフ4】



【グラフ5】



がらない横画は、単体の書き方では、最終画の六本目、縦書きも最終画の六本目、横書きは囲う形の中にある横画の二本目である。単体で書く「星」字は、四本目以外の横画は平均して、右上がりの角度が弱いことがわかる。縦書きは、四、五本目以外の横画が右上がりの角度が弱い。横書きは、一、二、六本目の横画が右上がりの角度が弱い。五年生が書く横画は、一、二本目がどの書き方でも横画の角度が右に上がっていない。

（4）全学年の硬筆「星」字の各横画平均角度の比較

第三学年から第五学年が硬筆で書く「星」字の横画の角度を比較する。「星」字の一本目から六本目までの全ての角度の平均を【表1】にまとめた。全体で最も横画を右上がりに書いていた横画は、縦書きで書いた四本目の左払いに接する横画が最も上がっていた。反対に最も右上がりになっていなかった横画は、単体で書いた六本目の最終画の横画だった。しかし、最終画に書く横画は、他の横画よりも少し下がるのが自然である。しかし、単体の最終画である六本目の横画とほぼ変わらない角度で書かれていた横画がある。それは、単体で書く囲いを閉じる三本目の横画が右に上がらない横画という結果になった。「星」字の上部、「日」の右下

は、縦画が少し出る形が適切であるが、三年生、五十四名中、二十七名の横画が縦画よりも出ていた。これも横画が下がってしまったひとつの原因であると考える。

単体、縦書き、横書きの横画の角度の平均値は、高い順から、

- ①縦書き ②横書き ③単体

という順になった。単体で書く「星」字の平均角度は、四本目の横画以外、どの学年も五度以下という結果になった（表1）。単体で書く文字を書いている児童の様子は、調査プリントの最初の方ということもあり、どの児童もゆっくり丁寧に書いていた。しかし、縦書き、横書きの文章になっていくと、時間配分も考えてか、段々書くスピードが上がってきていた。

縦書き、横書きのグラフからわかるように、学年が上がるごとに横画が下がっていく傾向にある。

2. 児童が毛筆で書く横画の実態調査

毛筆は、第三学年から第五学年まで「星」字の一字を半紙に書き調査を実施した。硬筆での調査では、見本は配布しなかったが、毛筆では見本を配布した。この理由は次の三点である。

- ・半紙に対してどの程度の大きさで書くかを示すため。
- ・ある程度、大きさを示さないと正確な調査が取れないため。
- ・各基本点画の書き方を示さないと、正しい「星」字が書けないと判断したため。

見本をみて児童に「星」字を書かせて調査を実施した。調査結果は【グラフ6】のようになった。各学年に分けて調査結果をみていく。

（1）第三学年毛筆「星」字の各横画平均角度調査結果

第三学年が毛筆で書く「星」字で最も右に上がっていた横画は、四本目の左払いに接する横画である。反対に、最も右に上がらなかった横画は、二本目の囲む形の中に書く横画、次に三本目の囲いを閉じる横画が上がらなかった。一、二、三、六本目の横画は四、五本目と比較すると右に上がりにくい傾向がある。

【表2】 第3学年～第5
学年毛筆 全体の横画
平均角度

	平均角度
1 本目	2.4
2 本目	1.9
3 本目	1.8
4 本目	3.8
5 本目	2.8
6 本目	2.3

(2) 第四学年毛筆「星」字の各横画平均角度調査結果

第四学年が毛筆で書く「星」字で最も右に上がっていた横画は、四本目の左払いに接する横画である。反対に、最も右に上がらなかった横画は、六本目の最終画の横画が右に上がっていなかった。四年生が書く横画は六本全ての横画が平均して右上がり弱い傾向がある。

(3) 第五学年毛筆「星」字の各横画平均角度調査結果

第五学年が毛筆で書く「星」字で最も右に上がっていた横画は、四本目の左払いに接する横画である。反対に最も右に上がらない横画は、三本目の囲いを閉じる横画である。次に二本目の囲む形の中にある横画が上がらなかった。四本目の横画が最も上がっているといっても、三・五度という結果であり、全体的に右上がり弱い傾向がある。

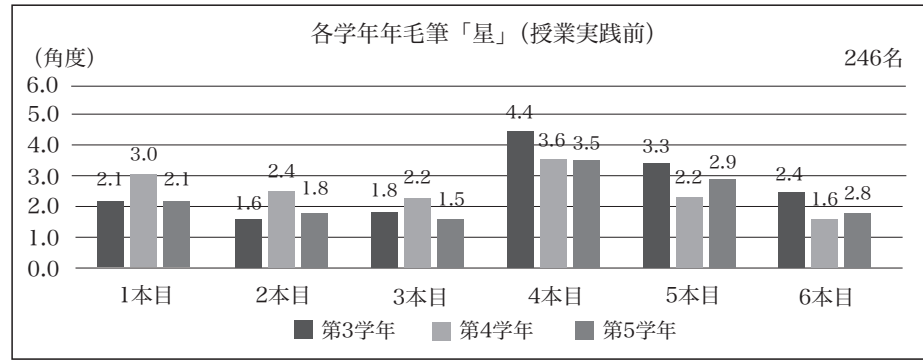
(4) 全学年の毛筆「星」字の各平均角度の比較

第三学年から第五学年が毛筆で書く「星」字の横画の角度を比較する。グラフから読み取れるように、最も右上がりになっている横画は、三年生が書く四本目の左払いに接する横画である。最も上がらなかった横画は、五年生が書く三本目の囲いを閉じる横画である。どの学年も一、二、三本目の横画が上がらず、二、三本目の平均角度が二度以下である。囲いの中にある横画、囲いを閉じる横画は右に上がりにくいという結果になった(【表2】)。

3. 硬筆・毛筆で書く双方の横画の比較

硬筆・毛筆で書く双方の「星」字を比較していく。毛筆が単体で書く文字であるため、比較対象とする硬筆の文字は、単体の「星」字のみとする。

学年ごとに、硬筆で書く「星」字の横画の角度が上がっている順に整理していくと【表3】の通りになる。学年ごとにみていくと、硬筆と毛筆の最も右上がりになっている横画から、右上がり弱い横画までの



【表4】各「星」字の平均角度

		第3学年	第4学年	第5学年
硬 筆	単 体	4.0	4.3	4.3
	縦書き	6.8	5.9	4.8
	横書き	6.8	5.9	5.2
毛 筆		2.6	2.5	2.4

【表3】横画の角度が上がっている順

硬 筆					
順位	第3学年	順位	第4学年	順位	第5学年
1	4本目	1	4本目	1	4本目
2	5本目	2	1本目	2	5本目
3	6本目	3	2本目	3	6本目
4	1本目	4	3本目	4	1本目
5	3本目	5	5本目	5	2本目
6	2本目	6	6本目	6	3本目

毛 筆					
順位	第3学年	順位	第4学年	順位	第5学年
1	4本目	1	4本目	1	4本目
2	5本目	2	1本目	2	5本目
3	6本目	3	2本目	3	6本目
4	1本目	4	3本目	4	1本目
5	3本目	5	5本目	5	2本目
6	2本目	6	6本目	6	3本目

※第4学年の硬筆・毛筆の4番目が同じ角度だったため、2つを4位とした。

高く、四年生と五年生の平均角度は同一である。単体で書く「星」字以外の硬筆縦書き、硬筆横書き、毛筆の「星」字の平均角度は三年生が最も高く、第五学年が最も低い値になった。つまり、学年が上がるにつれて横画が上がらなくなっていくということである。

横画の実態調査により、明らかに変わったことをまとめる。

- ・最も右上がりになる横画は、四本目の左払いに接する横画。
- ・最も右に上がらない横画は、三本目の囲いを閉じる横画。
- ・四、五本目の横画は比較的右に上がりやすく、一、二、三本目は右に上がりにくい傾向がある。
- ・硬筆・毛筆で横画が右上がりになる角度の順番が一致する。
- ・学年が上がるにつれて、横画は上がらなくなっていく。

以上が実態調査から得た結果である。これをもとに授業実践を行う。

順が一致していることがわかる。

硬筆・毛筆ともに最も右上がりになる横画は、四本目の左払いに接する横画だった。また、三本目の囲いを閉じる横画は、硬筆・毛筆ともに全学年が四番目以下という結果になり、上がりにくい横画ということがわかる。

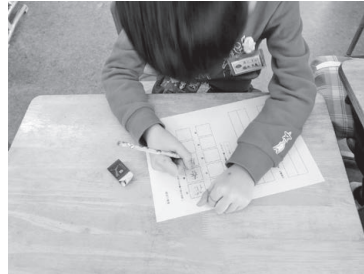
硬筆・毛筆の「星」字のそれぞれの横画の平均角度を出すと【表4】のようになる。

硬筆の単体で書く「星」字の平均角度は、三年生が最も横画の平均角度が

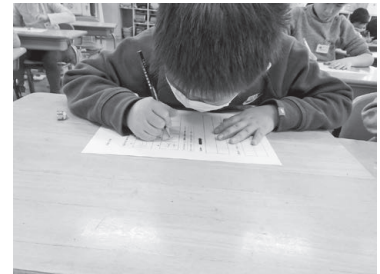
【図5】 鉛筆の倒れる方向が書字者と逆側の例



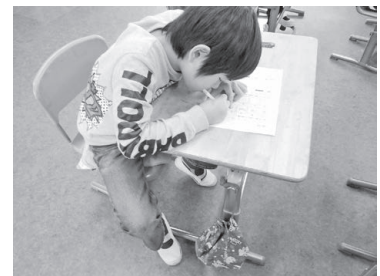
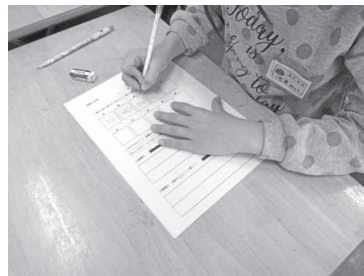
【図4】 鉛筆の持ち方が不適切な例



【図3】 机と顔の距離が近い例



【図6】 紙が曲がっている例



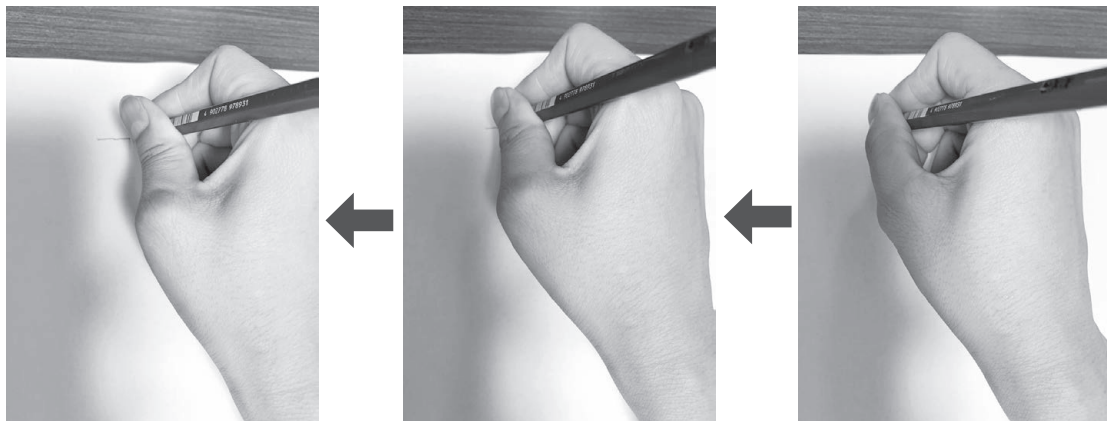
IV 横画が右に上がらない傾向と規則性

実態調査をもとに、横画が右に上がらない原因をあげる。本研究の調査から三つ考えられる。まず一つ目に、顔と机の距離にある。学年が上がるごとに、顔と机の距離が近くなつていく傾向がある。机の高さがあっていないのか、高学年の児童は腰を丸めて書いている様子がみられた（図3）。顔と机の距離が近いことにより、腕の可動範囲が狭まる。また近くで書字する文字をみていることにより、一本一本の線に気をとられて全体をみるができなため、字形が整わない。

二つ目に鉛筆の持ち方にあると考える。鉛筆を抱え込むように書く児童は、横画が上がっていない（図4）。また、鉛筆を適切な持ち方で持つと、書字者の右肩方向に鉛筆の軸が倒れるが、鉛筆の軸が書字者と逆側に倒れている児童、また紙に対して垂直に鉛筆を立てて書く児童が、各クラスに半数近くみられた（図5）。また学年が上がるごとに鉛筆の軸が倒れる方向が書字者の逆側の児童や、垂直に立てる児童の数が増えていた。

この原因のひとつに日常筆記具が考えられる。今回、調査を実施した学校では、学校内でシャープペンシルを使用することは禁止されているため、全ての授業で鉛筆を使用している。しかし、自宅や塾などでシャープペンシルを使用しているか調査をしたところ、学年が上がるとにつれて、シャープペンシルを使用している児童の割合が上がっていった。三年生は三十五％、四年生は六十％、五年生は九十一％の児

【図7】横画を書くときの児童の親指の使い方が不適切な例



童が学校以外ではシャープペンシルを使用していた。五年生になるとほとんどの児童が日常的にシャープペンシルを使用している。その理由として、

- ・ 芯を削らず使用できるため楽。
- ・ 太さが一定で書きやすい。
- ・ 細かい字が書きやすい。

というのが多くあがった。学年が上がるにつれて、書く文字数が増えていき、書字する文字の大きさも小さくなっていく。これにより、芯を削らずにすむシャープペンシルを使用する児童が多くなっている。

しかし、シャープペンシルを使用するにあたって、気をつけるようになることが芯を折らないように書くことである。芯を折らないようにするために、シャープペンシルの軸を立てて書くようになる。シャープペンシルの持ち方が軸を立てて書く鉛筆の持ち方に影響していると考えられる。

三つ目に親指の使い方が考えられる。硬筆で横画を書く時、始筆から終筆に向かう際に、手首を動かして横画を書くことが適切な書き方である。しかし、書字している児童の様子は、親指にグッと力を入れて、終筆の方向に押している様子が多く見られた（図7）。

学年が上がるにつれて、親指で鉛筆を押しながら横画を書いている児童が増えていく。親指で押しながら送筆を書く際、第一関節を曲げるようにして書いていた。このことから、始筆から終筆に向かう横画は下がっていくことになる。

V 横画を安定して右に上げるための授業実践

本授業実践では、実態調査を踏まえて、最終画以外の横画の角度を五度から六度の間に安定して上げられるように効果的な授業を実践する。硬筆・毛筆ともに授業は一回ずつとする。毛筆、硬筆の順で授業を行う。授業計画は以下の通りである。

1. 日時【第一時限】

第三学年 平成三十年 十一月十四日(水)
一組(二五名) 二組(二九名) 計五四名
第四学年 平成三十年 十一月十六日(金)
一組(三三名) 二組(三一名) 三組(三三名) 計九七名
第五学年 平成三十一年一月 十六日(水)
一組(三〇名) 二組(三二名) 三組(三三名) 計九五名

【第二時限】

第三学年 平成三十年十一月二十一日(水)
一組(二五名) 二組(二九名) 計五四名
第四学年 平成三十年十一月二十三日(金)
一組(三三名) 二組(三一名) 三組(三三名) 計九七名
第五学年 平成三十一年一月二十三日(水)
一組(三〇名) 二組(三二名) 三組(三三名) 計九五名

2. 学年

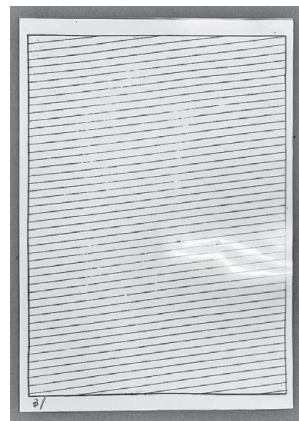
三学年(計五四名) 四学年(計九七名) 五学年(計九五名) 総計二四六名
3. 単元名

【第一時限】毛筆で正しく整った文字を書こう！
【第二時限】硬筆で正しく整った文字を書こう！

4. 単元目標

本単元では、児童が硬筆・毛筆で書く横画の角度を六度前後に安定して書けるようにすることを目標とする。児童が硬筆で書く横画は、左払いに接する横画は上がりやすく、囲む形の中の横画と囲いを閉じる横画は右に上がりにくい傾向があった。こうした実態調査を踏まえて、授業を実践する。

【図8】 6度の罫線を印刷したOHPシート



【図9】 鉛筆に輪ゴムをつけて書く書き方



5. 单元について

① 題材観

横画を安定して右にあげるための手段として、毛筆では、六度の罫線を印刷したOHPシートの上に半紙を置き練習する方法をとる（【図8】）。硬筆での実践は、六度の罫線を印刷した紙に文字を書いていく。また、硬筆では持ち方も横画が右に上がらない原因のひとつと考えられる。適切な持ち方に変えるため、輪ゴムを使用する。輪ゴムの使用方法是【図9】の通りである。

児童の様子から、文字の横画が右上がりになることを理解できていないようである。また児童自身が書く横画が上がっていない、角度が様々な方向に向いていることに気づいていない。そこでまず、横画は右に上がらないと文字の均衡が保たれないこと、角度がおおよそ等しい値でないと整った文字が書けないことを理解できるように導く。最終的に横画が六度に近い角度で右に上がり、角度が安定することを目標とし、授業を実践したい。

② 児童観

授業に対し意欲的であり、毛筆では筆を持って楽しく書いている様子が見られる。また硬筆でも課題に対して主体的に取り組む姿が見え、「もっと上手になりたい」など意欲的な意見を頻繁に聞く。授業中は質問に対して積極的に発言をする児童が多い。文字を整えて書くポイントを説明すると、多くの児童が理解し真剣に書字活動に取り組む。

一方で筆を適切な持ち方で持つことに三年生はまだ慣れていない児童が多い。硬筆も同様である。四、五年生は毛筆の持ち方は概ね正しい持ち方で持つことができているが、鉛筆になると適切な持ち方ができる児童は数名である。

また、書いている途中で姿勢が崩れてくる児童が半数以上を占める。「姿勢はどうか」と注意を促すと姿勢が崩れている児童は自ら気づき直すことができる。しかし、また時間が経つと姿勢が崩れてしまう児童が大半を占める。

③ 指導観

横画の角度が平均して六度近く上がるように指導する。まず、横画が右に上がらないと正しく整った文字が書けないことを児童に理解させた上で授業を進めていく。授業実践で、硬筆・毛筆で横画を右に上げることができるようになること、またさらに、日常生活で書字する文字が安定した角度で右上がりに書けるところまで繋げたい。

硬筆・毛筆ともに姿勢・持ち方も横画の右上がりの角度に影響しているため、正しい姿勢・持ち方になるように指導を行う。

6. 本時の展開

【第一時限 毛筆の授業実践】

(1) 本時の目標

- 横画が六度近く右に上がることを理解する。(知識・理解)
 - OHPシートに印刷された罫線に沿って横画を引くことができる。(技能)
 - 課題文字を横画が六度前後の角度になるように、文字を書くことができる。(技能)
 - 児童自らが自分の書く横画の角度を理解し、課題に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 学習の展開

	時間	主な学習活動	指導上の留意点	具体的な評価規準
導入	五分	○本時のめあてを確認する。 ○毛筆課題(三年「馬」、四年「白馬」、五年「白鳥」)の見本を配布する。	○道具の準備ができているか確認する。	
展開	二十五分	○試し書きを一枚する。 ○正しく整った文字を書くには横画を安定して六度にあげると丁度良いことを伝え、OHPシートを配布する。 ○OHPシートの上に半紙を載せて横画のみを練習する。 ○横画の角度に気をつけて課題	○OHPシートの正しい使い方を教師が実践しながら教える。	○OHPシートを使用し、主体的に練習しているか。 ○横画の角度に気をつけて課題に取り組んでいるか。

展開	二十五分	まとめ	十分
	○書く。 ○姿勢、持ち方の確認をし、まとめ書きをおこなう。	○正しい姿勢、持ち方ができていない児童に指導する。 ○姿勢、持ち方に気をつけながら課題に取り組んでいるか。	○半紙に本時の毛筆課題を書き提出する。 ○片付け ○まとめ書きで提出した課題

(3) 本時の評価基準

- 横画が六度近く右に上がることが理解できたか。(知識・理解)
- OHPシートに印刷された罫線に沿って横画を引くことができたか。(技能)
- 課題文字を横画が六度前後の角度になるように文字を書くことができたか。(技能)
- 児童自らが自分の書く横画の角度を理解し課題に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度)

【第二時限 硬筆の授業実践】

(4) 本時の目標

- 毛筆と同じように硬筆でも、横画が六度近く右に上がることにより、正しく整った文字が書けることを理解する。(知識・理解)
 - 六度の罫線が印刷された補助プリントに沿って、横画を右に上げて文字を書くことができる。(技能)
 - 正しい姿勢・持ち方で書字することができる。(技能)
 - 児童自らが自分の書く横画の角度を理解し課題に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- #### (5) 学習の展開

導入	時間	主な学習活動	指導上の留意点	具体的な評価規準
	五分	○本時のめあてを確認する。 ○プリントを配布し、硬筆で試書する(自分の名前)。	○鉛筆で書いているか確認する。	

まとめ	展 開	
	二十五分	
	○自分が書いた横画の角度に目を向ける。 ○六度の罫線を印刷した補助プリントを配布する。 ○横画は六度前後に上がることによって文字が正しく整うことを伝え、正しい姿勢、正しい持ち方で習った漢字を横画の角度に気をつけて練習する。 ○輪ゴムを配布し、使い方を説明する。 ○輪ゴムをつけた状態で短い文章を書く。 ○最初に書いた自分の名前を書く。	○横画が上がつているか、また角度が安定しているか見るように指示する。 ○姿勢、持ち方が適切ではない児童に指導する。 ○輪ゴムの付け方が適切であるか机間指導する。 ○腰が丸まっている児童、顔と机の距離が近い児童がいたら指導する。
十分	○実態調査を取った時と同様のプリントを配布し、まとめ書きをする。	○輪ゴムは外して、持ち方に気をつけながら書くことを指示する。 ○横画の角度に気をつけて名前を書くことができるか。 ○横画の角度、姿勢、持ち方に気をつけて文字を書くことができるか。

(6) 本時の評価基準

- 横画が六度近く右に上がることが理解できたか。(知識・理解)
- 横画を六度近く右に上げて文字を書くことができたか。(技能)
- 正しい姿勢・持ち方で書字することができたか。(技能)
- 児童自らが自分の書く横画の角度を理解し課題に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度)

7. 毛筆の授業実践の様子と結果

毛筆の授業実践では、OHPシートに六度に上げた罫線を印刷したものを配布した。罫線の色を黒色で印刷したため、黒い下敷きの上に置くと罫線が見えなくなってしまう。そこで、OHPシートの下にコピー用紙をつけて、半紙を上にも置いて見えるようにした。

児童の書いている様子をみて、今回の実践結果の効果と問題点を整理する。

【OHPシートを使用した効果】

- ・罫線が印刷してある上に半紙を置くことにより、六度の角度が明確であり、横画を容易に右上がりに書くことができる。

- ・OHPシートは墨が入らない素材であるため、何度も練習することができる。

- ・同じ間隔で罫線が印刷されているため、文字の横画の間隔を等しく書くことができる。

【OHPシートを使用した問題点】

- ・一度書くと、OHPシートに墨がついているため、一回ずつ布やティッシュで拭かなければならない。

- ・OHPシートに印刷してある横画が全て六度の罫線のため、最終画の横画も他の横画と同じように六度右上がってしまう。

以上がOHPシートを使用した効果と反省点である。横画の角度をどの程度上げたら良いかが児童には難しいため、一目で角度が明確であるOHPシートは効果的だった。しかし、罫線に気を取られすぎて、半紙に対して文字が大きくなる、文字がいつもよりも正しい字形で書けていない児童もみられた。OHPシートの使用は、三年生の毛筆が始まった時期に横画で練習することが適切であるという印象を受けた。

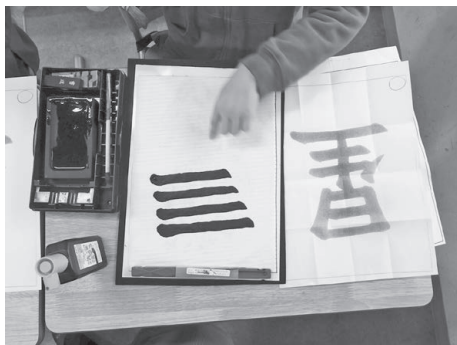
授業実践を終えた児童から、「横画の角度がわかりやすい」、「横画の間隔が等しく書ける」という意見があった。反対に、「印刷してある線が気になり、上手く書けない」、「いちいち拭くのが面倒くさい」という意見が上がった。

本授業実践では、OHPシートはあくまで練習の段階で角度を確認するために使用するものであり、まとめ書きでは使用していない。OHPシートを使用した練習段階で横画の角度は右上がりであること、六度前後に上げることが丁度良いことを理解させることが重要であると考えた。

8. 硬筆の授業実践の様子と結果

硬筆の授業実践では、六度右上げた罫線を印刷した補助プリントを配布した。今回、横画を右上げることを理解し、角度を確認することに重点を置きたかったため、文字の見本は用意していない。罫線を印刷した用紙に横画の角度に気をつけながら練習をした。児童の様子から、補助プリントを使用して文字

【図10】 授業実践の様子①



【図11】 授業実践の様子②



を書くことにより、横画の角度が安定するため、普段より上手に書けているという児童が多かった。

硬筆の実践での反省点は、最終画の横画も上がってしまうことである。授業実践の以前に実施した授業で、最終画の横画は上げるとか上げないかを児童と一緒に考え、結果上げない方がよいという結論にいたったが、やはり六度の罫線が印刷してあると、釣られて上がってしまった。最終画が横画ではない文字であれば、六度の斜角を印刷したプリントは効果的である。

また、輪ゴムを使用して鉛筆の持ち方の改善を試みた。児童に多い鉛筆の持ち方の問題点は、【図4、5】のような持ち方である。鉛筆を抱え込むようにして持つ児童、鉛筆を書字者と逆側に倒して書く児童など、半数以上の児童が不適切な持ち方で書いている。この不適切な持ち方は、横画が右に上がらないことや横画の角度が安定しないことに繋がっていると判断し、本研究では持ち方の改善を行った。輪ゴムをつけることにより、不適切な持ち方の児童は、手が痛くなるため、自然と適切な持ち方になっていた。しかし、輪ゴムを外して文字を書くと、だんだんと持ち方が不適切な持ち方に戻ってしまった。

硬筆の授業実践で横画の角度を六度近くまで上げて安定させることと、輪ゴムを使用して持ち方の改善を試みたが、どちらも一度の実践だけで改善するのは困難である。低学年の早い段階から鉛筆の適切な持ち方の指導に重点を置き、その後に横画の角度について実践し、中学年までに自然と横画が上がっている状態であるのが理想的である。

VI 授業実践後の横画の調査

授業実践後に児童が書く「星」字の横画の角度の変化があったか調査を行った。この調査方法は、授業実践前と同様に「星」字での調査を行った。調査で使用した硬筆の補助プリントも授業実践前に使用したプリントと同じもので調査を行った。毛筆も半紙に「星」字を単体で一文字書く調査を行った。

1. 授業実践後に児童が硬筆で書く横画の調査

実態調査での結果を踏まえ、横画の角度が安定して六度に近くなるように児童に指導した。また、硬筆では持ち方、姿勢、机に置く紙の位置などを指導し授業を行った。その結果、実践後に児童の硬筆文字が変化したかみていく。調査結果を【グラフ7】【グラフ8】【グラフ9】にまとめた。

(1) 第三学年硬筆「星」字の各横画平均角度調査結果

単体の「星」字からみていくと、最も右上がりになる横画は、五本目の縦画に交わる横画である。逆に最も右上がりの角度が弱い横画は、六本目の最終画の横画である。書写教科書に掲載されている「星」字の横画の角度の調査結果（グラフ1、2）と比較すると、四、五本目がやや上がりすぎたようだ。他、一本目から三本目の横画は安定しほぼ等しい角度となった。

縦書きの「星」字は、最も右上がりになる横画は、四本目の左払いに接する横画である。反対に最も右上がりの角度が弱い横画は、六本目の最終画の横画である。縦書きは、単体の書き方よりも全体の横画の角度が比較的同じ角度になり安定した。

横書きの「星」字は、最も右上がりになる横画は、四本目の左払いに接する横画である。最も右上がりの角度が弱い横画は、六本目の最終画の横画となった。この結果は、縦書きの書き方と同じ結果であり、六本目の最終画の横画以外、全体的に角度が近い値になり安定した。

三つの書き方ともに、最も右上がりの角度が弱い横画は、最終画の六本目という結果になった。単体の六本の横画の平均角度は、六・六度、縦書きの平均角度は七・五度、横書きの平均角度は、七・一度である。三つの書き方とも六度以上という結果になった。

(2) 第四学年硬筆「星」字の各横画平均角度調査結果

単体で書く「星」字で最も右上がっている横画は、四本目の左払いに接する横画である。次に五本目

の縦画と交わる横画が右に上がっている。反対に最も右上がりの角度が弱い横画は、六本目の最終画の横画である。一本目から三本目までの横画の角度に差はほぼない。

縦書きの「星」字で最も右に上がっている横画は、四本目の左払いに接する横画である。最も右上がりの角度が弱い横画は六本目の最終画である。単体で書く横画と同じ結果となった。四、五本目の横画の平均角度は大きく上がっている。

横書きの「星」字で最も右に上がっている横画は、四本目の左払いに接する横画である。最も右に上がっていない横画は、六本目の最終画となった。一本目から三本目までの横画の平均角度に差がほぼない。

三つの書き方ともに、最も右に上がっている横画は、四本目、最も右に上がっていない横画は六本目という結果になった。単体の六本の横画の平均角度は、五・四度、縦書きの平均角度は七・二度、横書きの平均角度は、六・二度である。三つの書き方の中で、縦書きに書く横画が最も上がっている。

(3) 第五学年硬筆「星」字の各横画平均角度調査結果

単体で書く「星」字で最も右に上がっている横画は、四本目の左払いに接する横画である。最も角度が右に上がっていない横画は、六本目の最終画の横画である。四本目、六本目以外の横画は、一度以上の差はなく、平均角度が近い値となった(表5)。

縦書きで書く「星」字で最も右に上がっている横画は、四本目の横画である。最も右に上がっていない横画は、六本目の横画であり、単体と同じ結果になった。また、一本目から三本目までの横画の角度に差はほぼみられない。

横書きで書く「星」字も、最も右に上がっている横画は、四本目であり、最も角度が右に上がっていない横画は、六本目である。

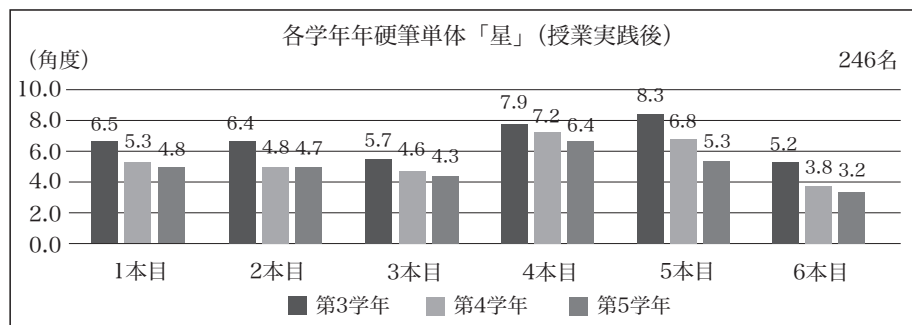
三つの書き方とも、四本目の横画が最も右上がりになり、六本目の横画の角度が最も右に上がっていない。単体の横画の平均角度は、四・八度、縦書きの平均角度は、四・四度、横書きの平均角度は、四・六度であり、三つの書き方の全てで、平均角度が五度以下となった。

【表5】 第3学年～第5学年硬筆 全体の横画平均角度

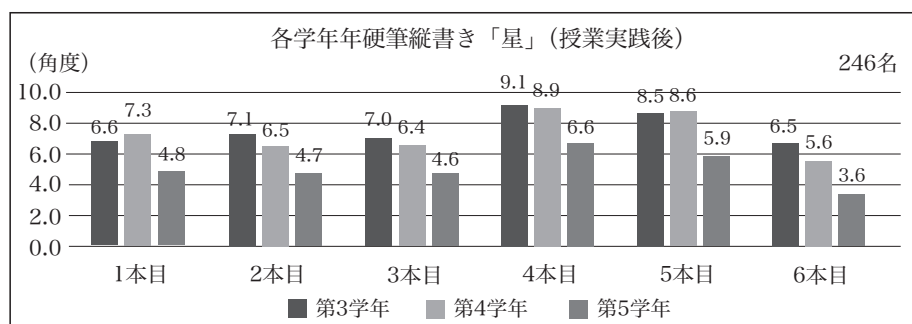
	平均角度
1 本目	4.5
2 本目	4.4
3 本目	4.0
4 本目	4.8
5 本目	4.6
6 本目	2.8

（1）第三学年毛筆「星」字の各横画平均角度調査結果

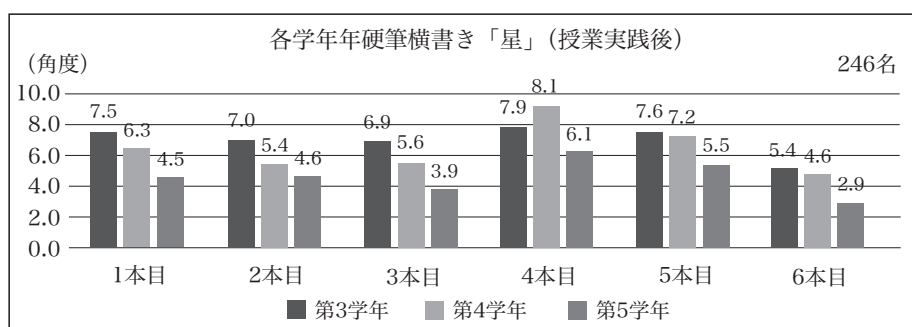
（グラフ10）。調査方法は、実態調査と同じ方法で授業実践後に「星」字を半紙に書かせた。実態調査と同じ見本をもう一度配布し調査を行った。



【グラフ7】



【グラフ8】



【グラフ9】

（4）全学年の硬筆「星」字の各横画平均角度の比較

第三学年から第五学年が硬筆で書く横画の角度を比較する。「星」字の一本目から六本目までの全学年での平均角度をにまとめた。全体で最も右上がりに書いていた横画は、縦書きの四本目の横画だった。反対に最も右上がらなかった横画は、単体の六本目の横画だった。六本目の横画は、教科書の文字から計測した【グラフ1】より、三度に近い横画が適切であるため、単体、横書きの六本目は適切な角度である。

また、一本目から五本目までをみると、単体の三本目以外の全ての横画で五度以上、上がっている。四本目は実態調査でも最も上がっていた横画だったが、同じように最も右上がっていて、他の横画よりも右上がりの平均角度が高くなっている。

単体、縦書き、横書きの横画の平均角度は、高い順から、

- ① 縦書き
- ② 横書き
- ③ 単体

の順になった。これは、実態調査と同じ結果である。やはり、単体で書く「星」字の横画は右に上がりにくいようだ。

2. 授業実践後に児童が毛筆で書く横画の調査

授業実践後に毛筆でも児童が書く「星」字の調査を行った

三年生が毛筆で書く「星」字で最も右に上がっている横画は、四本目の左払いに接する横画である。最も横画の角度が右に上がらない横画は、六本目の横画である。六本目の横画は二・七度と平均角度が低くなっているが、他はグラフのごとく、ほぼ近い値になっている。

(2) 第四学年毛筆「星」字の各横画平均角度調査結果

四年生が毛筆で書く「星」字で最も右に上がっている横画は、四本目の左払いに接する横画である。最も横画の角度が右に上がらない横画は、六本目の横画である。四本目の横画が最も上がっているが、一、二、三、五本目の横画も平均角度が四度以上であり、四本目の横画と大きな差はない。

(3) 第五学年毛筆「星」字の各横画平均角度調査結果

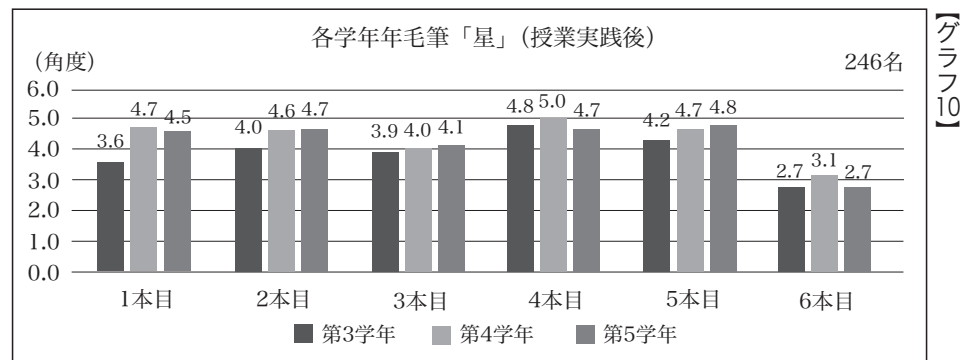
五年生が毛筆で書く「星」字で最も右に上がっている横画は、五本目の縦画と交わる横画である。最も横画の角度が右に上がらない横画は、六本目の横画である。五本目の横画の平均角度は四・八度であり、一本目から四本目までの横画の平均角度も四度以上であるため、差はほばない。

(4) 全学年の毛筆「星」字の各横画平均角度の比較

第三学年から第五学年が毛筆で書く「星」字の横画の角度を比較する。グラフから読み取れるように、最も右上がりになる横画は、五度の四年生が書く四本目の横画だった。反対に、最も右に上がらない横画は、二・七度の三年生と五年生の六本目の横画である。六本目の横画は、四年生が書く横画も三・一度で三、五年生とほとんど差はなく上がっていない。グラフをみると、一本目から五本目まで全ての横画の平均角度が四度の中に収まっており、大きく差があることもなく、どの画も近い値となっている。

3. 硬筆・毛筆で書く双方の横画の比較

硬筆・毛筆で書く双方の「星」字を比較していく。実態調査同様に、毛筆の「星」字は、単体で半紙に



【表7】硬筆・毛筆の「星」字平均角度

		第3学年	第4学年	第5学年
硬 筆	単 体	6.6	5.4	4.8
	縦書き	7.5	7.2	5.0
	横書き	7.1	6.2	4.6
毛 筆		3.9	4.4	4.2

【表6】硬筆で書く「星」字の角度が上がっている順

硬 筆					
順位	第3学年	順位	第4学年	順位	第5学年
1	5本目	1	4本目	1	4本目
2	4本目	2	5本目	2	5本目
3	1本目	3	1本目	3	1本目
4	2本目	4	2本目	4	2本目
5	3本目	5	3本目	5	3本目
6	6本目	6	6本目	6	6本目

毛 筆					
順位	第3学年	順位	第4学年	順位	第5学年
1	4本目	1	4本目	1	4本目
2	5本目	2	1本目	2	5本目
3	2本目	3	5本目	3	6本目
4	3本目	4	2本目	4	1本目
5	1本目	5	3本目	5	2本目
6	6本目	6	6本目	6	3本目

※第4学年の硬筆・毛筆の4番目が同じ角度だったため、2つを2位とした。

硬筆・毛筆の「星」字それぞれの横画の平均角度を出すと【表7】のようになる。

硬筆の単体、縦書き、横書きで書く平均角度は、三年生が最も高く、四年生、五年生の順に平均角度が下がっていく。毛筆で書く平均角度は、四年生が最も高く、五年生、三年生の順に平均角度が下がっていく。硬筆においては、学年が上がるにつれて、横画の平均角度が下がっていく結果となった。

授業実践後の調査結果を踏まえて、明らかにになったことをまとめる。

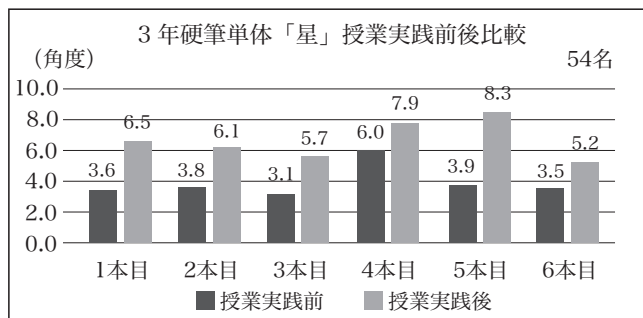
- ・最も右に上がっている横画は、四本目の左払いに接する横画。
- ・最も右に上がっていない横画は、六本目の最終画の横画。
- ・三本目の囲いを閉じる横画は右に上がりにくい傾向がある。

硬筆は、学年が上がるに連れて横画の平均角度が下がっていく。

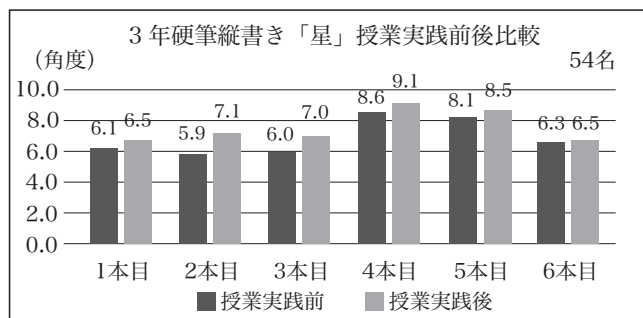
書き調査データとして取ったため、硬筆も単体で書く「星」字のみ比較していく。

学年ごとに硬筆で書く「星」字の角度が上がっている順に整理していくと、【表6】の通りになる。

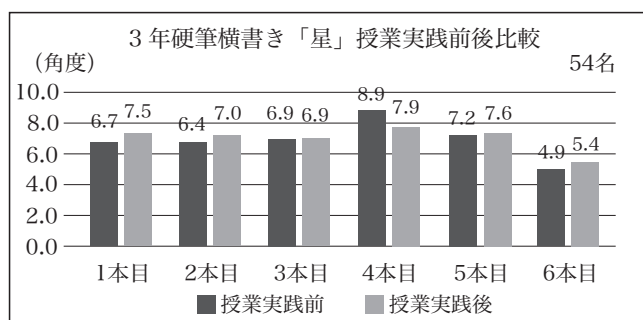
硬筆・毛筆ともに最も横画の角度が右に上がらないのは、最終画の六本目だった。また、実態調査で三本目の囲いを閉じる横画は、硬筆・毛筆ともに全ての横画で四番目以下だったが、授業実践後の結果も同じように、三本目の横画は四番目以下になった。



【グラフ11】



【グラフ12】



【グラフ13】

以上が授業実践後に調査をしたデータから得た結果である。これを踏まえて実態調査のデータと比較していききたい。

VII 授業実践前と授業実践後の比較

児童が書く横画の角度の実態調査をとり、調査から得た結果をもとに横画が平均的に右に上がるように実践を行った。授業実践後に実態調査で取った調査データと同じ内容を児童に書かせた。本稿では、授業実践前後の比較を行う。

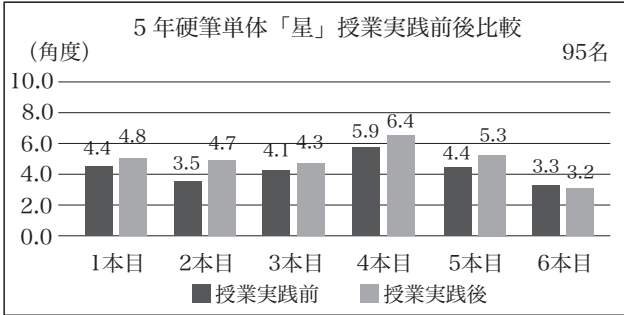
1. 硬筆で書く「星」字の授業実践前後の比較

ここでは学年ごとに硬筆で書く「星」字の授業実践前後の横画を比較する。「星」字の一本目から六本目までの各横画の平均角度を出したグラフを参考に比較していく（グラフ11～19）。

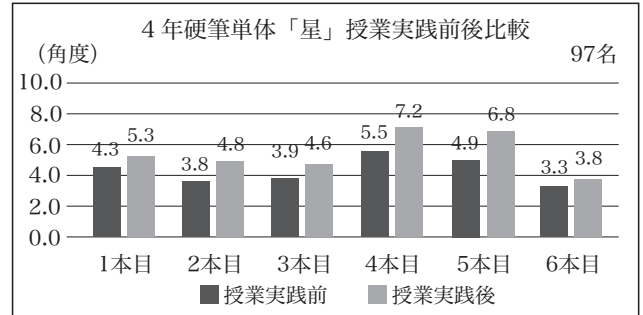
（1）第三学年が書く「星」字の授業実践前後の比較

授業実践前の調査で、第三学年が書く「星」字で最も右に上がっていた横画は、単体は五本目の縦画と交わる横画、縦書きは四本目の左払いに接する横画、横書きは四本目の左は左払いに接する横画だった。授業実践後に最も右に上がっていた横画は、単体では五本目、縦書き・横書きでは四本目である。授業実践前後を比較すると、どちらも最も右に上がる横画は四本目もしくは五本目になった。

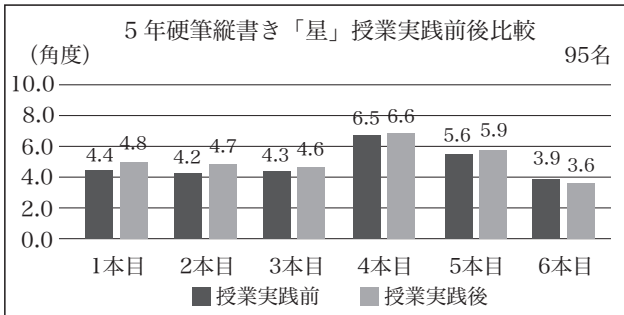
反対に最も角度が右に上がらない横画をみていく。授業実践前は、



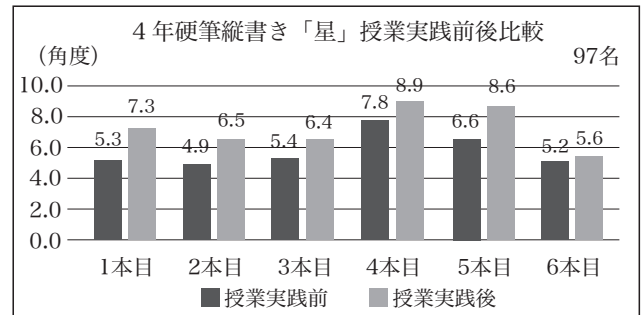
【グラフ17】



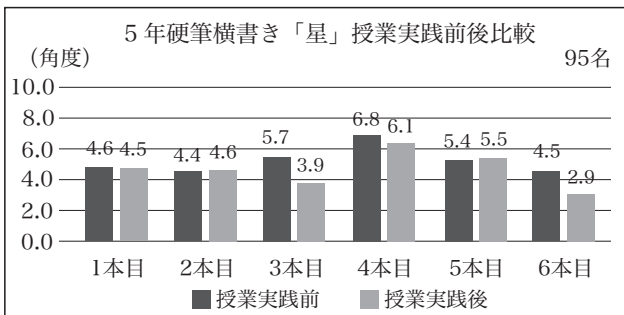
【グラフ14】



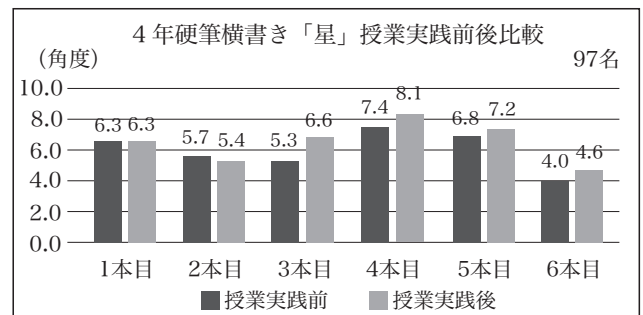
【グラフ18】



【グラフ15】



【グラフ19】



【グラフ16】

単体は三本目、縦書きは二本目、横書きは六本目だった。授業実践後は、単体・縦書き・横書き全ての書き方で六本目の最終画の横画が最も右に上がっていなかった。

実態調査では、右に上がりにくかった横画は、二本目もしくは三本目だったが、実践後のグラフをみると、他の横画の平均角度よりも多少低くなっているが、他の横画と大きな差はない。

全体で見ると、縦書き・横書きのグラフは実践前後であまり大きな差はみられないが、単体の書き方をみると、実践前は平均角度が四本目以外低い値だったが、実践後は一本目から五本目の横画はどの横画も六度に近い平均角度となり、安定している。

(2) 第四学年が書く「星」字の授業実践前後の比較

授業実践前に最も右に上がっていた横画は、単体・縦書き・横書きともに四本目の左払いに接する横画だった。授業実践後に最も右に上がった横画も単体・縦書き・横書きともに四本目が最も右に上がる横画だった。

最も角度が右に上がらなかった横画は、実践前は単体では、六本目、縦書きは二本目、横書きは六本目だった。実践後は単体・縦書き・横書きの三つの書き方とも六本目が最も上がっていなかった。

四年生が書く「星」字の単体は、実践前、全ての横画の平均角度が低く、特に一本目から三本目が低かったが、実践後に一、二本目は一度上がり、三本目は〇・七度上がっていた。縦書き・横書き

においても実践前より平均角度が上がっている。

全体でみると、どの横画も少しずつ上がっていることがわかる。しかし、単体で書く場合では平均角度がまだ低い結果となった。

(3) 第五学年が書く「星」字の授業実践前後の比較

授業実践前に五年生が書く「星」字で最も右に上がっていた横画は、単体・縦書き・横書きともに四本目の左払いに接する横画だった。実践後に最も右に上がっていた横画も単体・縦書き・横書きともに四本目の横画で最も右に上がる横画は、実践前後で変わらなかった。

反対に最も角度が右に上がらなかった横画は、実践前は、単体・縦書きは六本目、横書きは二本目だった。どの書き方でも平均して一、二、三本目は平均角度が比較的低くなっている。実践後は、三つの書き方とも六本目が最も右に上がっていない横画となった。

五年生が書く横画は、授業実践前後で大きな変化はない。一度以上の誤差が出た横画は、単体の二本目、横書きの三本目、六本目のみだった。横書きの三本目に關しては、実践前より実践後の方が下がるという結果になった。

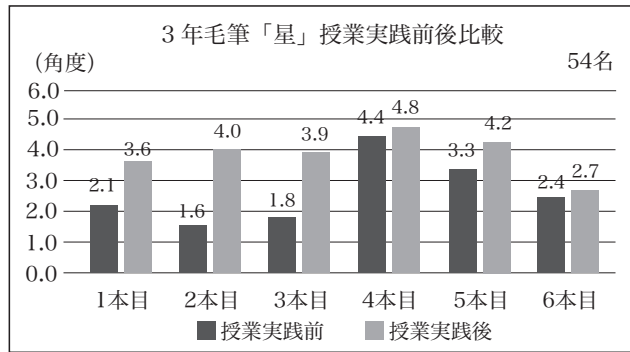
2. 毛筆で書く「星」字の授業実践前後の比較

授業実践前に調査したデータと授業実践後に調査したデータをもとに【グラフ20、21、22】を作成した。このグラフをもとに実践前後の横画の角度を比較していきたい。

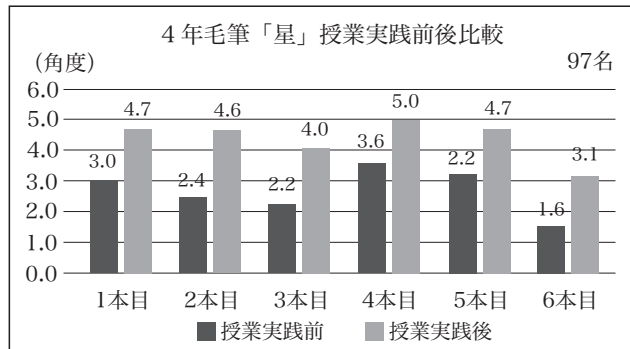
(1) 第三学年が書く「星」字の授業実践前後の比較

授業実践前に三年生が書く横画は、二本目、三本目の横画の平均角度が二度以下と非常に低い結果だった。他の横画も四本目の左払いに接する横画以外は平均角度が低かった。実践後には二本目、三本目の平均角度が低かった横画が二度以上上がった。また、六本目以外の横画の平均角度が比較的近い値になり安

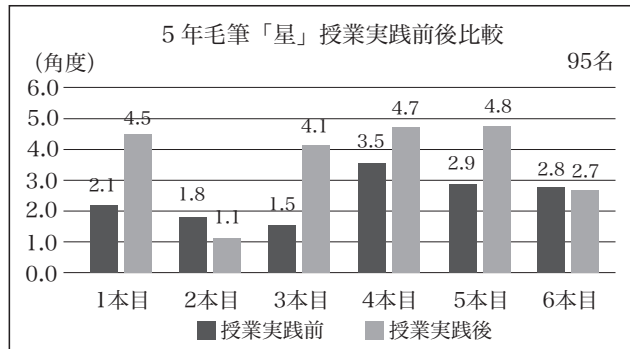
【グラフ20】



【グラフ21】



【グラフ22】



定した。

（2）第四学年が書く「星」字の授業実践前後の比較

実践前に四年生が書く「星」字の平均角度は高い値でも四本目の三・六度であり、他の横画は三度以下となつてゐる。全体的に平均角度が低かった。実践後には、六本目以外の横画が全て四度以上になり、角度にも大きな差はない。

（3）第五学年が書く「星」字の授業実践前後の比較

五年生が書く「星」字の実践前の調査結果では、他学年と比較すると最も平均角度が低い値になつてゐた。実践前の平均角度をみると、二・三本目の平均角度は一度台であり極めて低い値となつてゐる。実践後には、一本目から五本目までの横画が全て四度以上となり安定した。六本目に関

しては、実践前より〇・二度低くなつた。

以上が硬筆と毛筆の授業実践前後の比較である。また、個人での変化も【表9】にまとめた。この表は、児童が書く「星」字の横画の六本の角度をすべて足した数字を基に作成した。六本の横画を全て足して〇度以下が「一」、一から六度の間が「二」、七から一三度の間が「三」、一四から二〇度の間が「四」、二一〜二七度の間が「五」、二八〜三四度の間が「六」、三五〜四一度の間が「七」、四二〜四八度の間が「八」、四九〜五五度の間が「九」、五六度以上が「一〇」とした。

書写教科書に掲載されている「星」字の横画のデータより、足すと「六」の二八〜三四度が適切な値となる。中には、角度が安定せずに横画が右下がりの角度と右上がりの角度を合わせて「六」の値になつてゐるものもあるが、多くは、安定した横画を引いている「星」字は、「六」となつてゐる。この表から、

授業実践前	授業実践後
角度が右に上がった	
角度が安定した	
角度が右に上がりすぎてしまった	
角度が右に上がった	
角度が右に上がった	
角度が右に上がりすぎてしまった	
角度が安定した	
角度が安定した	
角度が上がらなかった	

【図13】硬筆の「星」字の授業実践前と実践後の比較

授業実践前	授業実践後
角度が安定した	
横画が右に上がった	
横画が右に上がった	
横画が下がってしまった	
角度が安定しない	
横画の角度が上がっていない	

【図12】毛筆の「星」字の授業実践前と実践後の比較

六〇%の児童が、実践前よりも実践後の角度が安定している。上がり過ぎてしまった児童や中には数名、下がってしまった児童もいるが、この表より、全体の平均の横画が安定しただけでなく、児童個々でも横画が安定して上がったことがわかる。

おわりに

本研究は、小学校第三学年から第五学年が書く横画の角度の実態調査をもとに授業実践を行い、その効果を授業実践前後の文字と比較することで明らかにした。今回は、「星」字のみを比較の対象として調査を行った。実態調査で明らかになったことをまとめる。

- ・単体・縦書き・横書きの書き方の中で、横画が最も上がらなかった書き方は、単体で書く「星」字。
- ・学年が上がるにつれて横画が右に上がらなくなっていく。
- ・囲いの中に書く横画と囲いを閉じる横画は他の画に比べて右に上がりにくい。
- ・左払いに接する横画、縦画と交わる横画は右に上がりやすい。
- ・横画の角度が安定していない。

実態調査の結果をもとに授業実践をした。横画の角度が安定して上がらない児童の文字が多くみられたため、最終画の横画以外が全て六度に近い角度で上がることを目標とし、授業を考案した。毛筆ではOHPシートに罫線を印刷し、その上に半紙を載せて書く実践を行った。OHPシートの利点は、何度も書くことができ、六度の角度が容易に理解できることである。しかし、一度書くとOHPシートに墨がついてしまうため、一回ずつ拭きとらなければならない。拭き取る作業に時間をとられるため、短い授業時間の中で行うには、一考が必要である。

硬筆は、六度の罫線を印刷した紙に書字をした。硬筆では、紙に直接書くため、横画の角度がわかりやすく書きやすかったという意見が多く上がった。

硬筆・毛筆ともに授業実践の結果、横画が安定して上がるようになった児童が増えた。一方で、最終画

の横画も罫線につられて上がってしまう児童や、横画が右上がりになりすぎてしまう児童もみられた。

書写教科書の横画の角度の平均は、五度から六度の間が平均の角度であるが、実践前の児童が書く「星」字の横画は、六本の横画の角度が安定せず、二度以下から八度以上という横画の角度に大きな差があった。実践後は、どの学年も横画の角度が安定した。特に毛筆では、授業実践の効果を大きく感じた。筆で大きく書くことにより、字形を考え、横画を安定して右に上げることができたのではないかと考える。

横画が右に上がらない、安定しない原因として、姿勢や持ち方、また児童自身が正しく整った文字を書くために横画が右に上がるということを理解できていなかった部分が大きかったようである。児童自身が正しく整った文字を書くために横画は同じ角度に安定して上げなければ、文字は整わないことを理解させることが重要である。

本研究の実態調査で、姿勢や持ち方が適切でない児童が多くみられた。正しい姿勢や適切な持ち方は、正しく整った文字を書く上で重要であると考ええる。今後は、姿勢・持ち方を改善する実践を行い、児童が書字する文字の向上を目指したい。また、今回の実態調査で書字した文字に目を向けると、横画だけでなく、縦画の傾きにも文字が整わない問題があると考ええる。横画だけでなく縦画の問題点も調査していきたい。

〈先行研究〉

- 1 諸井春畦『楷書恰好論』博文館、一九一五年
- 2 森郷水『楷書の造形論―書美の原質を探る―』日本教育研究センター、一九八一年
- 3 落合一郎「児童の書写の実態に関する発達的研究―硬筆かな文字の計量的分析を通して―」『書写書道教育研究 第十五号』二〇〇一年、全国書写書道教育学会
- 4 落合一郎「児童の書写の実態に関する発達的研究Ⅱ―硬筆かな文字の計量的分析を通して―」『書写書道教育研究 第十六号』二〇〇二年、全国書写書道教育学会
- 5 富澤敏彦『六度法ノート 富澤敏彦の「美しい文字を書く技術」』小学館、二〇〇四年
- 6 全国大学書写書道教育学会編『明解書写教育』萱原書房、二〇〇九年

【表8—1】第3学年「星」字の硬筆の授業実践前後の比較

単位							授業実践前							単位							授業実践後							単位											
縦書き							横書き							縦書き							横書き							縦書き											
①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥						
1	0	1	1	3	4	3	0	4	3	5	4	4	0	1	2	3	2	-5		1	7	7	6	3	4	1	2	4	4	6	9	0	6	4	4	5	3	3	
2	10	12	10	9	9	7	6	3	12	5	8	9	6	6	6	10	8	6		2	4	7	5	8	10	7	0	3	5	10	6	9	3	3	4	3	6	2	
3	6	8	6	8	8	9	4	5	4	5	5	5	2	9	10	8	8	7	4		3	7	6	6	7	6	5	4	5	5	11	9	5	10	9	7	7	1	1
4	7	6	1	6	-4	-5	14	5	8	6	3	7	10	-1	8	7	4	4		4	7	5	4	8	10	1	9	6	5	11	11	9	9	15	9	13	9	8	8
5	4	0	1	5	4	-3	3	1	2	6	3	5	4	10	12	20	15	10		5	5	5	5	9	7	6	11	10	9	11	9	7	0	9	10	9	-6	2	
6	-4	3	-3	3	3	1	4	5	7	11	5	3	3	-3	0	3	3	0		6	8	6	9	7	7	6	5	4	8	11	10	6	4	0	7	1	3	0	
7	6	6	6	6	6	6	1	2	1	8	3	0	11	7	4	5	4	8		7	2	3	4	6	5	5	3	7	6	7	5	4	10	9	11	9	9	1	
8	3	-1	8	6	-6	-3	4	3	6	4	4	3	6	-2	4	0	4	-2		8	3	12	13	6	12	9	-5	1	2	6	-1	0	-2	7	6	-20	7	1	
9	-1	0	5	1	3	1	7	8	7	7	6	7	12	12	12	13	11	8		9	-4	-4	0	5	6	0	0	1	2	1	0	1	3	3	3	2	1	-4	
10	3	4	5	7	7	5	9	7	6	11	5	-1	9	6	12	4	5	6		10	7	15	11	9	9	6	17	25	17	15	12	12	13	15	12	13	14		
11	0	-1	3	4	4	3	3	5	6	7	3	2	7	5	2	3	3	4		11	4	1	3	2	5	2	-1	2	5	5	4	4	3	8	3	3	4	1	
12	1	5	5	7	12	6	14	14	14	14	14	14	10	7	10	12	20	10		12	6	5	5	5	6	-2	9	8	5	8	10	-5	9	6	5	11	10	7	
13	8	3	3	7	2	5	6	7	3	13	6	8	0	5	10	6	0	2		13	12	13	12	13	15	5	1	5	15	14	11	9	10	11	15	14	9	4	
14	-3	-3	0	6	-5	3	3	0	3	8	10	2	1	2	0	6	-2	0		14	9	8	6	7	9	9	8	7	5	6	14	9	-7	7	4	3	5	6	
15	1	4	4	13	10	10	4	7	7	7	4	5	7	4	26	10	7	6		15	4	1	5	11	7	1	19	8	8	9	10	11	4	7	8	12	12	3	
16	7	7	3	5	4	6	9	11	12	7	11	3	7	10	8	8	10	3		16	8	5	6	9	10	1	5	5	4	11	10	4	5	6	5	4	5	6	
17	0	4	-1	1	1	0	0	2	2	6	5	4	3	4	4	6	4	4		17	5	0	0	2	1	2	-1	0	-1	-1	-1	0	0	0	-5	0	2	6	
18	2	1	1	7	9	7	-2	0	3	0	3	-4	13	6	10	5	4	3		18	5	3	6	4	6	7	6	4	7	5	6	8	7	3	0	3	-6	9	
19	0	-1	3	3	3	1	3	10	9	11	7	7	11	11	7	6	10	5		19	4	4	3	2	4	1	7	7	8	9	9	7	15	10	10	13	15	4	
20	0	0	0	7	3	-3	4	4	6	9	4	4	4	6	7	12	3	2		20	7	8	6	10	15	8	13	12	8	9	7	0	3	11	-1	0	3	3	
21	11	7	5	9	3	3	11	14	13	17	13	8	12	13	14	15	5	5		21	3	3	4	2	3	6	1	3	4	5	3	5	7	6	6	5	5	1	
22	3	1	1	1	3	2	12	6	7	6	4	7	9	2	1	10	7	8		22	3	3	1	1	4	1	6	5	4	2	2	3	7	3	1	4	2	2	
23	9	8	5	7	14	3	6	7	7	7	7	8	5	7	10	7	10	6		23	5	4	0	4	11	6	2	3	3	3	5	10	9	-3	0	1	10	9	4
24	2	3	0	4	-2	0	3	0	2	7	4	3	0	3	1	2	1	4		24	9	10	10	15	14	10	7	9	9	10	15	14	10	15	10	10	13	15	15
25	2	2	2	6	4	6	6	2	10	11	10	9	5	3	3	11	5	4		25	13	14	7	12	9	9	7	13	7	12	10	14	13	11	9	10	7	5	
26	-2	2	4	9	10	6	10	12	10	13	15	14	1	4	5	4	4	4		26	10	8	4	7	7	5	12	11	11	8	8	5	17	12	11	12	10	6	
27	4	4	5	3	9	6	8	8	5	15	13	12	10	14	6	19	13	20		27	0	1	-1	4	5	4	4	3	5	11	10	12	5	6	6	7	13	12	
28	4	7	3	10	8	2	1	3	4	4	4	6	5	7	7	9	8	6		28	9	14	7	12	7	7	7	7	7	11	10	10	10	8	8	15	13	15	12
29	3	2	1	5	5	5	9	8	7	12	20	9	10	10	6	13	14	8		29	8	5	7	7	7	6	1	15	7	11	17	15	15	10	9	10	7	9	
30	9	6	5	7	7	1	8	7	6	12	7	4	7	10	11	11	3	3		30	5	6	6	4	5	3	9	8	8	8	6	4	11	10	11	9	8	6	
31	2	10	5	6	5	2	9	9	8	7	8	4	6	6	6	4	8	3		31	7	7	7	8	8	5	10	5	10	13	6	7	4	5	4	6	6	1	
32	5	6	5	5	5	5	12	10	6	10	9	9	-2	0	3	5	4	-1		32	14	10	9	9	6	5	9	9	8	-2	9	9	-3	9	6	14	5	4	1
33	7	5	5	5	11	9	8	8	6	10	18	15	9	9	10	10	10	15		33	15	12	10	20	21	20	15	11	20	12	19	12	10	10	9	7	18	11	10
34	5	5	9	6	5	3	2	1	10	10	5	5	3	4	6	6	6	3		34	3	4	5	8	2	0	3	5	5	5	4	2	4	6	5	6	9	-3	
35	10	10	-1	6	3	1	15	12	11	10	15	9	9	8	-4	10	5	5		35	4	-1	-5	13	10	8	13	9	14	10	12	9	2	5	5	10	4	-3	
36	1	0	2	5	5	5	3	3	3	7	6	5	9	7	3	10	5	6		36	10	13	16	23	25	13	10	12	11	13	23	10	16	15	15	16	17	10	
37	5	9	4	5	10	3	4	4	4	5	11	5	5	3	1	5	5	1		37	7	7	4	10	15	5	15	13	15	14	12	13	0	1	3	15	23	7	
38	1	1	3	5	4	5	6	3	8	4	10	5	5	12	12	6	6	6		38	9	7	12	10	5	10	5	9	3	7	10	10	7	14	12	20	2	10	
39	-1	-1	0	-1	3	0	-4	0	0	0	4	3	-1	0	-1	0	-2	-1		39	2	4	5	2	3	5	-4	-1	-2	5	-3	1	-1	-6	-5	-2	1	-4	
40	7	5	3	8	6	3	9	10	8	11	10	10	5	4	3	15	9	10		40	10	7	4	12	11	2	8	7	6	11	10	6	5	4	3	3	5	4	
41	-4	-5	0	0	0	1	-1	-3	-1	5	5	4	-1	1	5	5	5	4		41	0	-2	1	1	4	-1	5	5	4	9	1	7	4	-1	2	-1	-1	5	
42	4	9	5	11	10	9	5	7	10	9	10	7	5	5	5	10	7	7		42	13	11	8	20	15	13	11	15	20	12	7	6	20	16	15	15	21	11	
43	1	1	-1	2	3	-1	10	5	5	9	7	6	10	10	9	10	12	5		43	5	5	4	9	7	2	6	5	5	9	6	2	16	4	3	6	7	3	
44	14	15	10	20	20	9	17	15	10	25	21	13	21	22	26	35	25	10		44	12	10	23	10	16	11	18	18	27	20	12	7	22	16	13	24	14	17	
45	5	0	0	1																																			

【表8—2】第4学年「星」字の硬筆の授業実践前後の比較

	単体						授業実践前						横書き						単体						授業実践後						横書き							
	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥		
1	-2	0	2	4	3	4	3	1	0	3	3	3	5	6	5	10	6	3	1	2	0	3	5	1	0	2	3	4	8	6	5	4	4	6	7	6	5	
2	1	0	0	1	0	0	-1	0	0	14	6	3	3	2	1	9	5	1	5	3	2	5	3	4	6	5	9	10	10	6	5	4	3	5	9	5		
3	0	0	0	8	2	2	-1	0	-1	8	2	0	5	5	5	15	9	1	3	-2	0	2	3	0	-4	5	-5	-1	0	-2	-5	5	7	7	7	6	4	
4	3	4	3	-1	-3	3	3	0	-1	3	6	4	9	4	-2	5	5	5	4	1	-1	-1	-2	-3	-6	5	0	3	5	4	3	-4	5	5	5	5	5	
5	4	4	6	3	3	-1	9	5	4	5	5	5	9	5	4	1	7	0	5	5	2	2	4	2	3	13	9	8	12	15	5	13	10	9	10	9	4	
6	6	4	10	5	2	8	0	4	2	4	5	4	5	3	5	5	5	0	6	2	0	10	5	6	5	3	0	5	4	6	9	10	9	10	8	5		
7	0	0	5	7	3	1	8	13	14	12	12	9	5	10	10	9	10	6	7	15	8	6	8	15	10	13	13	13	13	25	12	17	15	13	10	13	9	
8	1	4	6	4	4	3	-3	-1	0	2	2	2	-1	2	2	2	2	-3	8	5	3	2	2	4	0	7	7	7	6	7	-1	3	5	5	4	4	3	
9	6	5	7	4	4	5	7	6	5	9	7	5	13	9	5	9	8	3	9	4	6	3	2	11	0	5	12	8	6	15	7	6	5	9	12	14	2	
10	5	4	4	4	4	4	4	4	4	6	7	4	9	5	5	4	13	0	10	9	7	3	10	6	3	3	8	2	10	10	-3	8	6	5	9	6	2	
11	7	3	5	5	6	3	2	4	5	4	6	4	3	3	4	4	7	2	11	19	12	5	6	10	6	19	17	11	15	12	13	7	6	6	9	10	7	
12	2	3	0	3	3	5	2	2	2	3	8	7	5	3	3	3	5	5	4	12	10	7	8	10	20	8	8	8	6	25	9	11	-1	3	10	11	16	5
13	0	3	4	5	3	2	5	4	6	9	5	3	5	5	5	7	7	2	13	8	7	3	9	5	4	6	7	5	8	5	1	11	7	5	10	6	3	
14	0	6	3	10	1	2	4	3	5	12	7	5	5	7	7	4	3	-2	14	5	9	6	7	8	3	5	5	7	10	9	5	12	10	7	12	9	10	
15	5	0	0	8	0	2	5	5	3	3	6	4	5	4	4	7	5	3	15	5	5	5	8	5	-2	7	6	3	7	7	3	1	3	3	5	3	1	
16	5	4	4	4	5	2	0	-1	0	1	2	3	-1	0	0	4	0	-1	16	6	5	4	10	6	0	10	5	6	6	6	6	7	4	-2	13	8	2	
17	8	9	6	4	12	5	5	8	9	9	18	20	9	10	12	12	13	15	17	2	3	5	11	14	11	6	8	8	12	11	9	13	13	10	14	15	14	
18	4	1	2	3	4	4	7	7	6	9	10	9	3	5	0	5	5	6	18	5	7	8	7	10	3	9	10	10	5	15	9	13	14	13	13	9	10	
19	7	8	5	8	6	5	3	4	5	7	7	5	7	10	9	15	8	1	19	6	6	3	7	10	8	11	10	13	11	15	9	8	10	12	13	9	10	
20	10	10	10	10	16	11	14	5	21	-3	10	6	7	10	9	15	8	1	20	7	5	5	8	8	-1	5	5	0	10	15	0	12	8	5	13	9	0	
21	9	8	9	9	12	4	8	6	13	12	10	8	5	5	5	6	9	6	21	9	14	9	13	11	6	15	19	21	17	15	10	19	15	17	15	5		
22	0	6	4	8	8	5	7	4	5	9	9	4	-1	1	3	5	5	6	22	3	3	4	9	10	6	1	3	5	16	15	7	4	3	3	9	8	7	
23	12	2	2	5	8	10	6	7	6	13	10	12	3	7	5	4	12	11	23	7	8	9	7	20	9	9	8	20	9	16	18	5	7	9	7	10	14	
24	6	7	5	7	9	10	15	10	8	13	14	15	5	10	13	10	12	10	24	1	11	9	10	12	9	10	1	11	9	11	11	7	8	10	12	13	9	
25	4	7	5	5	0	4	-1	1	3	5	1	1	1	2	2	2	5	2	25	6	7	9	8	9	0	8	7	6	11	13	8	5	7	0	9	7	4	
26	4	0	8	5	0	0	5	5	7	7	5	4	9	6	5	9	11	5	26	4	4	3	4	4	-1	9	5	5	9	12	8	9	3	2	9	6	0	
27	9	5	7	7	8	6	10	11	12	14	15	11	12	12	10	7	10	3	27	8	5	3	10	11	-1	14	12	10	15	13	6	14	15	10	13	19	3	
28	0	1	0	0	3	-2	3	-4	0	2	4	2	2	1	-4	0	0	-2	28	6	6	5	13	0	5	5	4	5	5	5	6	-3	2	3	5	4	-3	
29	2	1	2	3	3	4	-1	0	0	2	2	3	-1	-2	-2	0	-10	-5	29	5	3	4	8	11	3	2	-1	-2	6	5	1	9	5	5	4	-3	5	
30	0	2	3	5	5	2	2	4	4	4	4	2	0	1	2	2	3	2	30	-1	2	1	7	6	0	5	4	6	6	8	0	9	10	10	11	9	3	
31	7	5	5	6	6	3	9	6	7	7	5	3	8	10	14	9	9	4	31	3	3	2	4	5	0	12	-1	5	10	5	5	2	0	0	5	1	1	
32	6	5	3	7	7	0	3	5	5	5	5	-1	5	5	5	12	7	-1	32	9	9	6	19	15	5	10	11	11	15	10	3	5	5	5	10	5	3	
33	9	7	4	10	6	0	10	10	10	13	13	6	5	15	6	22	20	12	33	10	7	10	18	12	10	1	3	9	12	10	6	6	8	10	9	5		
34	3	3	5	5	5	0	15	13	12	12	7	7	2	3	4	5	5	-3	34	6	7	8	9	9	1	14	18	15	18	16	16	8	11	10	12	13	9	
35	4	4	5	4	5	3	5	5	5	4	3	3	8	1	2	10	5	1	35	4	1	-2	3	0	4	5	4	4	3	4	2	5	5	5	5	5	3	
36	4	5	5	4	4	1	5	5	7	9	8	0	10	0	5	9	5	0	36	6	8	6	5	8	0	7	6	5	6	7	1	1	2	3	5	6	0	
37	-5	-4	-1	0	2	2	3	5	5	10	7	7	-4	0	-2	7	4	5	37	0	1	8	6	6	5	4	3	5	5	8	9	-2	-1	0	1	3	2	
38	6	7	10	10	8	6	15	15	12	15	14	12	12	11	13	13	12	12	38	8	5	5	3	1	4	9	10	11	12	5	8	4	4	3	4	4	1	
39	2	3	10	8	9	6	-2	1	5	7	7	7	5	9	7	4	5	2	39	5	4	10	8	1	4	8	9	10	5	14	6	8	-2	4	4	4	6	
40	10	10	15	14	14	7	12	5	5	18	10	5	10	8	10	10	12	10	8	40	13	12	13	18	16	15	14	10	12	13	12	10	10	10	15	9	5	
41	-2	3	-1	0	-1	-1	5</																															

【表8—3】第5学年「星」字の硬筆の授業実践前後の比較

授業実践前													授業実践後																											
単体						縦書き						横書き						単体						縦書き						横書き										
①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥					
1	6	5	0	5	5	3	7	5	3	5	6	4	7	7	6	9	8	7	1	4	4	5	5	4	3	-1	3	4	7	4	4	-1	1	9	9	10	4			
2	1	1	5	8	5	3	5	3	4	10	5	6	4	5	6	7	9	7	2	7	3	3	11	6	6	5	5	10	15	16	11	13	13	10	12	17	10			
3	6	10	13	15	7	5	14	16	15	20	14	15	16	14	10	18	25	15	3	5	9	5	15	9	5	8	12	6	7	16	10	5	7	3	3	6	2			
4	10	9	7	5	10	3	14	10	12	13	15	10	7	11	10	12	9	7	4	9	5	4	4	4	4	3	7	5	6	7	5	6	4	3	9	0	6			
5	3	12	5	8	9	10	5	4	5	7	5	8	8	5	5	5	4	2	6	0	10	6	8	6	-3	13	10	5	7	20	5	12	11	10	15	18	7			
6	10	8	9	13	11	9	8	9	10	8	9	11	14	9	9	13	15	7	7	5	5	4	6	5	5	8	8	10	12	12	7	4	4	2	11	5	-4			
7	7	3	4	3	4	0	5	0	1	7	5	2	10	10	8	8	7	3	7	6	7	6	7	5	2	2	0	7	1	2	0	3	2	1	3	1	0			
8	5	5	6	9	5	2	2	0	0	12	9	3	1	3	3	4	4	6	10	6	5	5	9	8	6	-1	2	4	2	2	3	0	-1	0	0	1	2			
9	0	2	5	8	5	1	6	0	3	5	1	2	4	0	12	7	-2	4	11	9	8	10	9	6	2	11	5	6	10	10	4	8	12	6	5	9	0			
10	5	3	7	6	7	5	0	-1	-1	8	8	6	8	5	5	7	4	4	12	4	6	4	3	1	0	3	10	6	6	7	5	0	4	2	5	3	0			
11	3	-5	4	5	-8	0	5	0	0	-1	0	1	12	7	8	9	2	4	13	7	4	5	5	3	0	9	10	6	9	10	7	3	5	5	5	7	5			
12	3	3	5	7	5	2	12	7	3	5	10	0	7	4	2	8	8	4	14	10	5	7	7	10	4	2	3	12	12	11	0	11	10	8	15	14	1			
13	0	0	-3	6	5	3	5	1	3	7	3	0	1	4	5	4	4	4	15	7	3	1	3	5	3	5	-1	3	5	5	3	3	0	1	1	4	1			
14	9	5	3	4	4	4	-3	3	4	4	5	0	11	5	5	6	6	3	16	-4	0	1	3	5	4	4	3	-1	4	4	2	-1	4	3	3	3	0			
15	10	8	9	10	7	3	7	7	-1	6	10	7	9	5	20	11	11	10	17	5	7	6	5	10	6	4	6	10	6	14	4	11	11	10	0	11	6			
16	4	3	3	2	0	0	16	11	12	5	3	7	9	6	13	8	6	8	18	9	3	2	8	10	7	10	10	9	8	3	13	3	10	3	3	8	5			
17	13	5	9	5	5	4	9	9	12	14	10	13	11	10	15	14	17	17	19	6	6	7	7	7	8	9	13	16	10	7	10	9	12	11	12	10	3			
18	8	10	4	10	9	10	12	9	10	12	9	9	8	12	15	8	10	7	20	14	7	7	9	5	4	3	4	5	10	3	3	0	8	6	6	6	1			
19	5	5	10	7	7	10	8	6	5	5	11	4	6	7	6	5	5	6	21	5	5	4	7	10	0	8	8	8	10	9	5	6	6	5	6	5	0			
20	9	8	9	9	9	4	22	20	22	20	19	12	4	12	7	15	13	15	22	11	9	11	14	12	8	9	11	9	16	13	10	9	9	10	12	12	14			
21	7	6	3	3	7	7	0	2	2	5	5	4	10	11	12	17	7	16	23	5	4	0	5	4	4	4	4	0	-3	-2	1	1	3	2	3	9	5	10		
22	12	13	17	15	13	10	-1	0	-3	3	1	-1	9	6	6	8	8	1	24	5	6	5	6	4	0	4	6	4	1	5	5	1	1	2	1	5	3	0		
23	7	1	5	11	10	10	6	5	6	7	6	0	12	8	7	6	9	7	25	3	1	0	0	-4	0	7	7	0	0	8	4	5	1	0	1	4	1			
24	5	3	5	8	3	25	5	4	7	5	3	1	3	0	1	3	3	-2	26	-2	2	8	1	2	-4	26	-2	-24	-25	-8	-15	-10	6	-5	-7	1	0	-1		
25	8	6	5	6	7	3	6	10	10	6	9	2	6	6	6	11	5	3	27	11	8	11	8	8	5	28	2	6	5	9	7	6	5	4	3	3	11	8		
26	11	12	13	11	8	2	5	4	7	5	3	4	3	2	5	9	3	5	29	5	4	6	7	6	6	30	2	2	2	3	4	4	5	3	1	5	3			
27	2	11	7	5	7	1	-5	-5	-3	1	1	-2	4	3	3	6	5	3	31	22	10	12	20	21	21	32	5	5	10	9	5	5	-2	0	0	2	1	-3		
28	3	0	4	-1	5	0	0	5	4	7	1	0	3	2	5	9	3	5	33	5	5	1	1	-2	-4	34	5	4	5	5	5	-5	6	6	7	8	4	1		
29	3	1	1	7	4	1	-8	-9	-3	4	-4	-2	3	2	5	9	3	5	35	-5	-3	-3	-2	3	3	36	0	7	5	5	9	1	5	6	3	2	7	6		
30	6	9	5	8	9	5	4	4	8	7	6	3	4	4	8	7	6	3	37	3	-1	-3	0	-5	2	38	8	9	7	10	6	3	4	5	9	11	11	7		
31	6	6	8	9	11	11	10	13	10	12	13	14	10	3	5	8	6	6	39	6	0	5	1	-4	1	40	10	2	4	2	5	2	-2	-2	-4	-5	-8	-5		
32	0	0	4	5	0	6	1	5	4	4	-1	-1	41	5	2	1	4	5	42	5	2	1	4	5	2	43	3	10	1	10	6	5	2	1	1	-1	0	0	-5	
33	5	0	-1	2	5	0	0	1	-3	-1	0	-1	44	-1	-1	-3	0	-1	45	-2	-1	0	0	-2	-1	46	9	7	8	7	7	3	4	6	7	6	5	4		
34	6	2	0	5	0	3	2	2	4	4	4	6	47	6	7	3	-3	10	48	3	5	4	11	9	5	49	7	3	-3	10	5	-8	0	-2	1	0	0			
35	0	0	-2	3	-3	0	3	3	1	1	1	2	50	1	1	0	4	-1	1	2	5	5	11	9	10	51	4	4	13	7	5	1	9	5	5	7	7	3		
36	4	2	0	5	1	1	0	5	5	4	11	6	52	5	13	12	3	10	53	5	4	4	6	0	2	54	6	9	6	10	8	5	9	9	19	11	15	3		
37	8	6	7	2	5	4	-1	2	6	4	3	4	55	8	5	7	10	10	55	8	5	7	10	10	6	56	4	1	0	5	4	2	1	-2	-1	5	3	3		
38	5	5	9	8	10	9	8	6	6	5	10	3	57	6	3	4	6	5	1	58	-1	8	2	10	7	5	58	-1	8	2	10	7	5	6	5	5	8	13	6	
39	6	4	4	5	2	4	0	1	6	2	0	1	59	3	3	2	8	1	2	60	-3	0	0	2	3	-1	61	2	4	9	4	0	0	3	8	11	-7	3	3	
40	4	1	5	0	0	1	0	1	5	4	4	4	62	0	4	9	4	0	0	62	0	4	9	4	0	0	63	6	1	3	4	5	8	4	4	5	6	5	-1	
41	3	1	4	7	5	0	0	1	2	1	2	2	64	1	0	1	1	-4	2	65	9	10	10	10	6	6	65	9	10	10	10	6	6	5	5	2	1	0		
42	-1	-2	-2	1	-3	-2	0	1	2	1	1	2	66	-1	-1	2	4	3	-1	66	-1	-1	2	4	3	-1	67	10	9	11	14	10	9	9	9	9	13	10	10	
43	2	1	3	6	6	5	2	2	2	10	5	5	68	3	5	3	8	8	7	69	-2	-1	1	5	4	0	70	2	5	5	5	4	3	5	10	6	4	5		
44	8	2	7	7	3	-3	0	1	2	10	5	5	71	3	1	5	4	3	3	71	3	1	5	4	3	3	72	6	0	0	3	6	1	3	-1	-2	2	4	2	
45	-3	1	-1	-1	-1	-1	-3	-2	-4	-2	0	-3	73	3	2	3	10	8	1	73	3	2	3	10	8	1	74	10	18	10	18	17	5	7	3	2	1	9	1	0
46	3	2	0	2	5	-1	2	2	2	5	6	3	75	3	2	1	9	1	0	75	3	2	1	9	1	0	76	6	6	6	6	6	3	6	5	3	9	6	4	
47	-3	-3	0	2	-4	1	-4	0	-2	-1	-2	0	77	2	5	-5	15	6	4	77	2	5	-5	15	6	4	78	0	9	7	10	5	5	0	3	1	10	4	3	
48	0	-3	2	7	10	5	6	1	6	2	0	1	79	-1	-1	8	5	6	8	79	-1	-1	8	5	6	8	80	-2	1	0	0	3	2	2	2	2	2	2	2	
49	10	8	4	5	4	4	0	1	6	2	0	1	81	9	10	10	10	6	81	9	10	10	10	6	7	6	82	5	4	8	6	4	12	5	4	8	6	4	12	
50	5	-2	-1																																					

第3学年「星」毛筆													
授業実践前							授業実践後						
	①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥
1	-3	0	-3	0	-3	-3	1	3	3	0	0	0	0
2	9	3	3	9	15	0	2	3	3	-3	3	3	0
3	3	6	0	6	3	6	3	6	3	3	9	6	3
4	-15	0	3	-9	-9	0	4	-3	3	6	6	-3	0
5	0	0	0	3	6	3	5	-3	-3	-3	0	0	3
6	-12	-9	-6	-3	0	6	6	0	6	6	6	6	0
7	0	9	3	6	3	3	7	0	3	6	0	0	0
8	-6	-6	-6	-3	-15	-9	8	3	3	3	6	6	3
9	6	-6	-3	0	3	3	9	3	3	3	0	3	0
10	0	12	0	3	9	0	10	3	3	0	0	0	0
11	6	6	6	9	9	3	11	3	6	3	9	6	0
12	3	0	3	-3	-3	-3	12	6	6	3	3	0	0
13	-6	-6	-6	18	15	0	13	3	6	3	6	3	0
14	6	0	0	3	3	3	14	0	3	6	6	6	3
15	0	0	6	9	9	3	15	6	6	3	3	6	3
16	12	-3	6	6	0	6	16	3	3	6	6	0	0
17	3	0	0	9	-3	3	17	6	6	6	3	6	0
18	-3	-3	3	0	3	-3	18	9	12	6	6	6	6
19	-6	-9	-6	0	-3	-6	19	0	0	0	3	3	0
20	9	15	9	18	15	15	20	0	0	0	3	0	0
21	6	0	0	6	9	9	21	0	0	3	0	0	0
22	-6	-3	-6	0	-9	0	22	3	3	0	3	0	0
23	18	15	15	15	15	12	23	3	3	3	3	3	0
24	3	6	3	3	3	0	24	0	0	0	0	0	0
25	6	6	3	6	12	9	25	3	3	3	6	6	3
26	0	-3	0	0	-3	3	26	3	3	0	3	3	0
27	6	3	3	3	3	0	27	9	6	3	6	3	6
28	-3	0	3	3	3	-3	28	3	3	0	6	6	3
29	3	0	3	3	3	0	29	3	0	3	9	6	3
30	0	3	3	6	3	0	30	0	0	3	0	3	6
31	6	0	3	6	3	0	31	6	6	6	6	9	0
32	6	3	3	0	9	15	32	3	0	12	6	18	3
33	3	3	3	6	6	15	33	6	6	6	6	6	9
34	0	0	0	3	3	3	34	3	6	3	6	6	6
35	6	3	6	3	3	6	35	3	6	6	6	3	-3
36	0	-6	0	0	-3	-3	36	0	0	6	6	6	6
37	0	0	0	6	3	3	37	6	6	6	6	3	6
38	9	6	6	6	6	3	38	9	6	6	6	6	3
39	9	9	6	9	9	6	39	6	6	6	9	6	6
40	3	3	6	6	6	6	40	6	9	6	12	9	6
41	6	9	6	9	12	9	41	6	6	6	9	9	6
42	0	3	3	6	3	6	42	3	3	3	0	-3	-3
43	0	0	0	9	15	3	43	3	0	3	-3	9	3
44	3	3	3	6	-6	-3	44	6	6	6	6	0	3
45	3	3	0	0	0	-6	45	3	0	3	3	0	3
46	3	3	0	6	0	0	46	6	6	6	6	3	3
47	0	-3	0	3	3	-3	47	3	3	6	6	6	3
48	6	6	9	18	9	9	48	6	3	3	6	6	6
49	3	0	0	3	3	3	49	6	6	6	9	6	3
50	0	0	0	3	0	0	50	3	3	3	6	0	6
51	12	9	6	6	6	0	51	6	6	6	6	6	3
52	0	3	3	6	3	6	52	3	6	6	6	6	9
53	0	-3	0	-3	-3	-3	53	6	6	6	6	6	3
54	-3	-6	-6	-3	-3	-3	54	6	6	3	3	6	6
2.1 1.6 1.8 4.4 3.3 2.4							3.6 3.8 3.8 4.7 4.1 2.8						

2.1 1.6 1.8 4.4 3.3 2.4

3.6 3.8 3.8 4.7 4.1 2.6

第4学年「星」毛筆													
授業実践前							授業実践後						
	①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥
1	3	3	3	3	-6	0	1	3	-3	3	6	9	3
2	0	0	-3	3	3	-3	2	3	3	6	3	6	6
3	-6	-9	-3	-3	-3	-3	3	-3	-3	-6	3	-3	-3
4	3	3	3	-3	3	-3	4	6	6	3	6	6	3
5	3	0	0	3	0	-3	5	6	6	0	6	3	0
6	6	-3	3	3	-3	0	6	6	6	3	6	3	3
7	0	0	3	3	3	-3	7	6	3	6	6	3	3
8	0	-3	-3	0	-3	-3	8	3	3	3	3	3	0
9	6	6	3	6	6	3	9	3	0	0	6	6	3
10	3	0	6	6	0	-3	10	9	12	12	6	6	-3
11	3	6	6	6	6	-3	11	6	6	6	6	9	3
12	9	6	6	3	6	3	12	6	6	6	9	9	6
13	3	3	6	9	9	6	13	3	6	3	9	3	3
14	6	0	-3	-3	0	3	14	6	6	6	3	3	0
15	3	3	0	0	0	0	15	6	6	6	6	9	3
16	3	0	0	0	0	-6	16	3	6	0	6	6	3
17	-3	6	6	0	-9	0	17	3	0	3	3	3	3
18	12	12	6	6	3	-3	18	3	6	6	6	6	3
19	0	3	0	0	-9	-3	19	0	-3	-3	-3	0	-3
20	6	6	6	6	3	6	20	6	3	3	9	6	3
21	6	3	3	6	6	9	21	12	6	3	6	6	9
22	3	3	0	6	6	6	22	6	9	3	9	15	6
23	3	3	-3	0	0	0	23	3	-6	-3	3	3	3
24	-6	0	-3	0	6	15	24	6	9	6	9	6	6
25	9	3	-3	3	3	0	25	9	9	6	15	9	9
26	3	3	3	6	3	6	26	3	6	6	3	3	3
27	0	3	0	6	6	0	27	0	-3	3	3	6	3
28	3	0	6	3	0	0	28	6	3	0	6	6	3
29	-9	-3	-9	-6	-3	0	29	-3	-3	-3	3	0	0
30	6	3	3	6	0	-9	30	3	0	0	3	6	0
31	3	3	3	-3	3	3	31	3	6	6	3	3	3
32	0	6	3	3	-6	-3	32	3	3	3	6	0	3
33	3	0	0	3	-6	-3	33	3	6	0	3	0	0
34	6	3	6	3	6	6	34	3	3	3	6	3	0
35	0	0	0	3	3	-3	35	6	6	6	6	6	3
36	-3	-3	0	3	6	3	36	6	6	3	0	0	0
37	3	3	3	6	6	6	37	6	3	3	3	6	3
38	3	0	0	6	9	3	38	3	6	6	6	3	3
39	3	0	3	0	3	3	39	6	6	6	6	12	0
40	3	0	0	6	3	-3	40	3	6	3	3	0	0
41	-6	-3	6	3	3	0	41	-3	-3	0	0	0	3
42	3	3	3	3	-6	3	42	3	3	3	3	3	3
43	6	6	-3	3	-3	9	43	3	3	9	6	0	0
44	3	-3	-3	3	0	0	44	6	6	0	3	-3	0
45	6	9	9	9	9	6	45	6	6	6	6	6	3
46	3	3	0	6	6	3	46	6	6	6	6	6	6
47	6	3	6	6	6	3	47	3	3	6	3	6	3
48	3	-6	-6	3	-3	-3	48	6	6	6	6	6	3
49	3	-3	-3	-3	0	0	49	6	0	0	3	3	3
50	3	6	0	6	6	3	50	6	6	3	3	6	6
51	3	3	3	3	3	0	51	3	3	6	6	3	3
52	9	9	6	12	12	9	52	6	9	6	0	12	6
53	9	9	9	6	3	0	53	6	6	6	3	0	0
54	3	0	3	0	-3	-3	54	6	6	6	9	9	6
55	3	3	3	3	0	3	55	6	3	0	3	0	0
56	6	9	6	9	6	6	56	6	3	6	6	3	3
57	6	0	-3	0	-3	0	57	0	0	0	3	3	0
58	3	0	3	6	3	0	58	6	6	6	9	3	3
59	6	12	12	9	15	9	59	3	9	6	6	9	3
60	3	0	0	3	-3	0	60	6	6	3	0	6	3
61	0	0	3	6	0	3	61	3	6	0	6	3	0
62	0	0	-3	3	3	3	62	3	0	0	0	3	0
63	6	6	3	6	3	6	63	3	3	0	0	0	0
64	3	3	3	6	6	6	64	3	3	3	3	3	0
65	0	-3	-3	3	3	0	65	3	0	0	3	6	3
66	6	6	0	0	-6	-3	66	3	3	0	3	0	3
67	0	0	3	6	6	3	67	6	9	6	6	6	3
68	6	6	3	6	3	3	68	3	6	6	3	6	6
69	12	12	12	12	12	6	69	9	9	6	6	6	3
70	-3	0	0	-3	-3	0	70	0	0	3	0	0	0
71	0	-3	-3	6	0	-3	71	0	0	0	3	3	3
72	3	-3	-3	6	3	3	72	3	3	6	6	6	3
73	3	6	12	12	12	12	73	12	9	9	12	12	18
74	-6	-3	0	-6	-6	-6	74	-3	-3	3	6	6	9
75	3	3	3	6	9	6	75	3	9	6	9	3	3
76	0	0	-3	0	-3	0	76	18	12	9	3	6	0
77	6	6	3	6	6	0	77	9	0	6	3	9	3
78	0	6	6	6	6	0	78	3	3	3	3	9	18
79	3	3	6	3	3	3	79	0	0	3	3	0	0
80	-3	-3	0	0	-3	3	80	6	6	6	6	6	9
81	9	6	3	6	3	3	81	9	9	6	6	3	6
82	-3	6	3	0	0	-3	82	6	6	3	0	3	0
83	6	3	0	6	3	-3	83	12	6	6	6	6	3
84	6	6	3	6	6	0	84	3	3	-3	3	3	0
85	9	12	12	12	18	15	85	6	9	6	9	12	13
86	-3	-3	-3	0	3	3	86	12	15	15	12	9	18
87	3	0	3	3	-3	3	87	6	6	6	6	3	0
88	6	3	3	0	3	3	88	6	6	3	3	0	3
89	9	12	12	0	0	6	89	3	6	6	6	3	0
90	6	3	3	6	3	0	90	6	6	3	3	9	3
91	9	6	9	6	6	3	91	6	6	6	9	6	6
92	0	-3	6	0	-3	-6	92	3	3	9	6	0	0
93	3	3	3	6	6	6	93	6	6	6	6	6	6
94	3	0	-3	3	3	0	94	3	9	12	9	12	6
95	3	3	0	3	3	6	95	15	15	12	12	12	6
96	0	0	0	3	3	3	96	6	6	6	6	6	3
97	3	2	4	3	6	2	97	0	3	3	6	4	3
3.0 2.4 2.1 3.6 2.2 1.7							4.7 4.6 4.1 5.0 4.7 3.3						

3年				
	授業実践前		授業実践後	
	硬筆	毛筆	硬筆	毛筆
1	3	1	6	2
2	10	7	7	3
3	7	5	7	6
4	3	1	7	3
5	3	3	7	1
6	2	1	8	5
7	7	5	5	3
8	3	1	9	5
9	3	2	2	3
10	6	5	10	2
11	3	7	4	5
12	7	1	5	4
13	6	3	10	5
14	1	3	8	5
15	8	5	6	5
16	6	5	7	4
17	2	3	3	5
18	5	1	6	8
19	3	0	4	2
20	3	10	9	2
21	7	6	5	2
22	3	1	3	3
23	8	10	6	4
24	3	4	10	1
25	5	8	10	5
26	6	1	7	3
27	6	4	3	6
28	6	2	10	5
29	5	3	7	5
30	7	4	6	3
31	6	4	8	6
32	6	7	9	8
33	8	7	10	7
34	6	3	5	6
35	6	5	6	5
36	4	1	10	5
37	7	3	8	6
38	4	7	9	7
39	1	8	5	7
40	6	6	8	8
41	1	9	2	8
42	8	5	10	2
43	2	5	6	4
44	10	2	10	5
45	7	1	6	3
46	5	3	5	6
47	2	1	9	5
48	9	10	8	6
49	6	3	9	7
50	5	2	4	5
51	1	7	5	6
52	8	5	6	7
53	8	1	8	6
54	8	1	5	6

角度の合計の値	
56 以上	10
49～55	9
42～48	8
35～41	7
28～34	6
21～27	5
14～20	4
7～13	3
1～6	2
0 以下	1

4年				
	授業実践前		授業実践後	
	硬筆	毛筆	硬筆	毛筆
1	3	2	3	5
2	2	1	5	5
3	3	1	1	1
4	3	2	1	6
5	4	2	4	5
6	7	2	6	5
7	4	1	10	5
8	5	1	4	4
9	6	6	5	4
10	5	3	7	8
11	6	5	10	7
12	4	6	10	8
13	4	7	7	5
14	5	2	7	5
15	4	2	5	7
16	5	1	6	5
17	8	1	8	4
18	4	7	7	6
19	7	1	7	1
20	10	6	6	6
21	9	6	10	8
22	6	5	7	8
23	7	2	10	2
24	8	3	10	8
25	8	4	7	10
26	4	5	4	5
27	8	4	7	3
28	2	3	7	5
29	4	1	6	1
30	4	3	4	3
31	6	3	4	5
32	6	2	10	4
33	7	1	10	3
34	5	6	7	4
35	5	2	3	6
36	5	2	6	4
37	1	5	5	5
38	8	5	5	5
39	7	3	6	7
40	10	3	10	4
41	1	2	7	1
42	6	3	5	4
43	5	4	8	5
44	5	1	4	3
45	5	8	6	6
46	1	5	3	7
47	4	6	6	5
48	8	1	5	6
49	2	1	3	4
50	6	5	6	6
51	6	4	9	5
52	6	10	2	7
53	4	7	7	5
54	6	1	4	8
55	2	4	5	3
56	3	8	5	5
57	10	1	9	2
58	4	4	4	6
59	7	10	6	7
60	8	2	6	5
61	3	3	3	4
62	2	2	2	2
63	5	6	4	2
64	3	5	2	4
65	3	1	8	4
66	4	2	4	3
67	10	4	9	7
68	5	5	5	6
69	5	10	3	7
70	3	1	5	2
71	6	1	6	3
72	4	3	10	5
73	7	10	7	10
74	7	1	8	5
75	3	6	3	6
76	5	1	1	8
77	1	5	3	6
78	10	4	7	7
79	8	5	10	2
80	3	1	4	7
81	7	6	10	7
82	1	2	4	4
83	10	4	6	7
84	5	5	3	3
85	4	10	9	8
86	6	1	7	10
87	5	3	7	5
88	7	4	10	5
89	7	7	10	5
90	5	5	3	6
91	7	7	7	7
92	6	1	9	5
93	9	5	2	7
94	8	2	7	9
95	5	5	2	10
96	5	3	5	6
97	5	4	8	4

5年				
	授業実践前		授業実践後	
	硬筆	毛筆	硬筆	毛筆
1	5	6	5	6
2	5	5	7	5
3	9	2	8	6
4	8	7	6	8
5	8	5	3	8
6	10	5	5	5
7	5	5	6	6
8	6	3	4	5
9	5	6	7	5
10	6	10	7	9
11	1	5	8	7
12	5	4	4	5
13	3	3	5	5
14	6	3	8	5
15	8	5	5	6
16	3	7	3	6
17	7	3	7	4
18	9	4	7	6
19	8	3	7	5
20	8	4	8	4
21	6	6	6	7
22	10	2	10	5
23	8	3	5	6
24	6	4	5	5
25	7	2	1	3
26	10	2	3	4
27	6	1	9	2
28	3	4	7	8
29	4	1	6	6
30	8	5	4	6
31	9	4	10	5
32	4	5	7	6
33	3	5	2	5
34	4	4	4	5
35	1	7	1	2
36	3	4	5	5
37	6	5	1	5
38	8	3	8	4
39	5	5	3	7
40	3	1	5	4
41	4	3	4	4
42	1	7	1	6
43	5	4	7	5
44	5	2	6	5
45	1	4	1	3
46	3	5	7	3
47	1	1	6	6
48	5	5	7	6
49	7	6	8	10
50	1	1	2	4
51	5	5	6	4
52	10	1	8	5
53	7	5	5	5
54	3	5	8	6
55	7	2	8	5
56	6	6	4	5
57	3	4	5	7
58	7	4	6	5
59	4	2	4	7
60	5	1	2	2
61	2	2	4	3
62	3	5	4	5
63	7	4	5	6
64	3	1	2	2
65	3	4	9	4
66	3	5	2	5
67	2	3	10	2
68	6	5	6	5
69	4	2	3	5
70	8	2	5	7
71	3	1	4	2
72	2	2	4	4
73	7	1	5	5
74	4	5	10	5
75	4	5	4	6
76	7	1	6	4
77	7	2	5	5
78	2	1	5	5
79	4	4	5	7
80	9	3	6	4
81	10	4	10	7
82	4	2	5	7
83	7	1	8	4
84	1	2	4	4
85	1	5	5	7
86	2	6	5	4
87	6	3	5	8
88	3	2	9	7
89	8	5	6	5
90	6	2	8	8
91	4	6	4	7
92	7	4	7	4
93	6	5	3	5
94	3	2	1	4
95	3	3	8	5

【表9】硬筆・毛筆の児童個人の「星」字の角度比較

河井荃廬研究年表 附河井荃廬著作目録

権田瞬一

はじめに

明治・大正・昭和の三代にわたり、書壇印壇に傑出した存在であった河井荃廬の篆刻芸術と中国書画や書籍の舶載における高い業績は、周知のところであるが、その実像は詳らかにされていない。

河井荃廬（一八七一一一九四五）は、初め名を得、字を子得といったが、のちに名を仙郎と改め、荃楼、荃廬そして荃廬と号した。別に蓑生、九節丈人、知幻道人、幻道人などと号し、堂号を忘荃楼、今是艸堂、宝書龕、継述堂などといった。匿名として、趙且雪、何蟬巢（叟）、管楷甫を使用した。京都の人。

篆刻は、初め篠田芥津に就いて浙派の風を学び、ついで呉昌碩を慕い、明治三三年初めて清国に渡り教えを受ける。以後秦漢の古典をはじめ、鄧石如、呉讓之、徐三庚、趙之謙、呉昌碩の近代的な様式を融合し高古で独自の作風を樹立した。

金石学、文字学、書画の鑑識に優れ、戦前の『書道全集』（平凡社）、『書苑』（三省堂）、『支那墨蹟大成』（興文社）、『増訂寰宇貞石圖』（興文社）等の監修に携わり、林泰輔との共著『亀甲獸骨文字』（商周遺文會）は甲骨研究の嚆矢として名高い。昭和二〇年（一九四五）三月一〇日、東京大空襲により自宅および多年蒐集する万巻の書籍、稀覯の書画は焼失し、荃廬の死も確認される。

印譜に『荃廬印存』（植松香城編）、『継述堂印存』（尚友会編）、『荃廬先生印存』（二玄社）、『河井荃廬の篆刻』（二玄社）などがある。



昭和一八年（一九四三）頃の河井荃廬

本稿は、戦前の書画雑誌や新聞、荃廬と交流のあった知識人たちの日記等を可能な限り探索し、事績を抽出、その実像を探るべく年譜を作成するものである。

これまでに編まれた年譜は野中穎僊の「河井荃廬年譜」(『河井荃廬展』一九九五年・古河市篆刻美術館)くらいである。小稿作成の際は、この先行年譜を参照しつつ、すべての事績の典拠を明示し、今後の荃廬研究に資するよう心掛けた。

今日までの荃廬研究は、西川寧、小林斗盦、松丸東魚、藤原楚水といった、聲咳に接した人物たちによるものが多い。これらの著述には人格化したものや時に感情的に見たものなどやや偏った印象が見られ、荃廬の実像と業績を表しきれないと考える。これは、自身の著述が少ないことに起因し、在世中の諸資料を活用した客観的な検証が行われてこなかったことに由来する。また、荃廬と直接的な接点のない人物による著述は、刻印についての作品論に終始しているものがほとんどである。

小稿は、戦前の一次資料をもとにその動静を整理し、年譜作成を通して荃廬の足跡をたどるものである。

凡例

- 一、本年表は、明治四年(一八七二)の生誕から昭和二十年(一九四五)の逝去、これに加え平成元年(一九八九)の港区虎ノ門三丁目の天徳寺における河井荃廬墓と高芙蓉墓の併置までを扱う。
- 一、年齢は数え年にて表記した。
- 一、各年の事績には可能な限り月日や季節等を記し、それに従い配列した。
- 一、事績の典拠が記述中に含まれない場合は、終わりに()でそれを示した。
- 一、荃廬研究に有用だと思われる文言は引用し、「」にて表記した。ただし、見出し以外における明らかな間違いについては訂正し引用した。
- 一、出版年の記載のない典拠は、事績に記された年月日を出版年とした。
- 一、典拠が多数の場合は、代表的な文献のみを示した。
- 一、典拠は次の原則により表記した。

荃廬の生まれた京都上京の略図、荃廬の生家は①妙満寺町にあった。(中田勇次郎『日本の篆刻』一九六六年 二玄社)



①典拠とした出版物(書籍・雑誌・図録・印譜等)で重要と思われるもの、頻出するもの、原典記述を示した方がよいと思われるものに関しては、事績記述後の(一)内に番号を附しその番号順に年表の後に別途掲出したので参照されたい。

②雑誌の表記は、煩雑さを避け適宜に巻数・号数・刊行年等を次のように略記した。

(例)『〇〇』第〇巻第〇号・〇〇〇〇年・〇〇〇社 ↓『〇〇』〇〇・〇〇〇〇〇・〇〇〇〇社

③同一の雑誌に関しては、初出のみ刊行年、出版社を示すが、以降の表記は雑誌名・巻数・号数のみとし、同年の刊行であれば刊行年を省略した。

(例)『××』×××××

一、『荃廬先生印存』より選んだ制昨年の判明している刻印は、煩雑を避け年表中には掲出せず、別途【附表1】に示した。

一、荃廬が公募篆刻の選者となり選出と短評を行った新聞・雑誌は、【附表2】に示した。

一、出版物(雑誌・書籍等)に掲載された荃廬収蔵品の主要なものは、参考として【附表3】に掲出した。

一、表記は新漢字を用いたが雑誌名・人名等には一部の例外がある。

河井荃廬研究年表

一八七一年(明治四年) 辛未 一歳

四月二八日 京都寺町二条南角の印判師、河井仙右衛門の長男として生まれる。名は幼名を徳松といい、篠田芥津への入門後はその諱の徳を避け、得松、または得とし、のち仙郎とする。姓は先世川井氏であったが、戸籍吏が記帳を河井と誤ったので、河井となる。(1)(2)(3)

一八七七年(明治一〇年) 丁丑 七歳

春 京都上京の第三十組小学校(後の柳池小学校)で学ぶ。この時の教官には神山鳳陽(一八二四〜八九)が迎えられた。(1)

一八八五年(明治一八年) 乙酉 一五歳

荃廬が呉昌碩に送った手紙の草稿（『高芙蓉・河井荃廬両先生瑩城完成記念冊』一八八九年・尚友会）

金石先生閣下 僕前不自檢得呈一書
先生不答其非礼辱 賜還者感荷尤已
僕最又郵寄拙刻印存意實任敬請
大正而今見 貴書中所刻印 先生而賜
侯如其詳註刻言固過獲不致當僕不寬
越洋治背 書中又曰漢子子得碧海茫
神山境 相拒遼闊雖晤何由照眼朕
不盡所云 情澤 滄海 上僕歎一遊
貴園中 大門 諸 貴 諭 有 幸 矣 而 未
果 予 无 他 僕 素 一 介 寒 生 因 不 能 支 其 費 而
已 故 竊 信 數 年 后 必 有 相 赴 之 期
先生山侯未有半面之識而 眷愛之厚既
累如此一讀再讀感極潛悲 淚下
先生更見 惠大作印存直泰直漢古
林蒼然妙不可言 高韻之既銘肝不
知所謝當子孫之世寶也僕每日數次反以
焉冥有 音容之想欣朕不徒揮手惟
憾印數希對此書易費耳 先生以
後每有大作為僕持印一葉 賜之所
幸无量蓋僕所不難類厚顏者恥之使

唯者言古今印例我國有稱寸齋所編杜
撰無難唯僕意蒙有年奉諸 先生鑒
之呈小篆鍾疏釋述一過為買嘆之寶也
大國鉅則授大 先生又自于林國歡
索方則奉命所僕之喜執其若上敢辭焉
時時幸之獨力伏祈 自重自愛
明治三十一年二月念四日 河井得碩首拜
封函二條係係五條長及田中敬堂而作致呈
堂后 盼是正上幸

卒業後 漢学者・詩人の林雙橋（一八二八〜九六）の門に入り、詩文を修める。（1）

一八八九年（明治二十二年）己丑 一九歳

この頃 篠田芥津（一八二七〜一九〇二）に入門する。（1）（4）

一八九〇年（明治二十三年）庚寅 二〇歳

この頃 師の篠田芥津は荃廬と同門の杉山雲津の二人に篆刻の頒布会を行なわせ、自ら推薦文を書いた。（1）

一八九一年（明治二十四年）辛卯 二一歳

〈この年の刻印は【附表1】を参照のこと〉

一八九二年（明治二十五年）壬辰 二二歳

この頃 篆刻漫遊の途次、岐阜に到り、青年篆刻家来ると大いに喧伝される。塩谷石華（名は其次郎、別号は石泓）

邸に半年程滞在する。（1）（4）

一八九三年（明治二十六年）癸巳 二三歳

〈この年の刻印は【附表1】を参照のこと〉

一八九四年（明治二十七年）甲午 二四歳

制作年の確証がある刻印は未見である。

一八九五年（明治二十八年）乙未 二五歳

一〇月 平安遷都一千百年大祭を記念し、川井木僊の名で朱文「建礼門」を刻す。（1）（5）

一八九六年（明治二十九年）丙申 二六歳

〈この年の刻印は【附表1】を参照のこと〉

一八九七年（明治三〇年）丁酉 二七歳

年末頃 呉昌碩への欽慕やみがたく、意を決して自刻の印影等を同封し一書を送呈する。（1）（2）

一八九八年（明治三一年）戊戌 二八歳

二月二十四日 呉昌碩からの懇切な復書、送上した自作印影に対する賞揚に感動し、早い機会に渡清して親しく教えを

乞いたい等、綿々と真情を書きつらねた手紙を送る。（2）

嘉平 篆書「秋盦」を揮毫、落款に「戊戌嘉平、荃廬篆」とある。（6）

一八九九年（明治三二年）己亥 二九歳

五月吉 日下部鳴鶴（一八三八〜一九二二）の楷書住所印を刻す。識語に「荃廬河井得、刻贈」とある。（5）

一九〇〇年（明治三三年）庚子 三〇歳

七月二十八日 父・仙右衛門歿（七一歳）。以降、印判の店舗を継いだが、店はほとんど番頭の野田盛吉や弟の章石に任

せ、自身は篆刻に精進した。（1）

九月 文求堂主人の田中慶太郎（一八八〇〜一九五二）と共に第一回目の渡清。初めて呉昌碩と対面し、その門に入

「秋盦」(二八歳作)、『高芙蓉・河井荃
廬岡先生瑩域完成記念冊』一九八九
年 尚友会)



る。以降、毎年のように渡清する。(1)

孟冬「荃廬先生刻印潤例」(羅振玉・汪康年同訂)を定め、中国人のために印を刻す。(1)(2)(4)(7)

この頃 杭州で王禔(福盦)や葉銘(葉舟)、樓欧誥(欧荻)らに印を刻す。これらの印影および側款拓は『日本何井
僊郎印譜』として成譜され、中国(杭州の図書館)に現存する。(8)

二月 朱白相関印「丁仁友」、朱文「鶴廬」を刻す。それぞれの辺款に「輔之先生属作、日本河井仙郎」、「荃廬」と
ある。(9)

同月 朱文「古杭葉銘」を刻す。辺款に「荃廬作」とある。(10)

一九〇一年(明治三四年) 辛丑 三一歳

〈この年の刻印は【附表1】を参照のこと〉

一九〇二年(明治三五年) 壬寅 三二歳

二月一日 羅振玉から電報を受ける。〔原文の旧暦表記を便宜的に新暦表記に改める〕(11)

一日 京都にて羅振玉を迎え、柊家に客寓する。(11)

三日 京都に滞在し、西京の教育機関を視察中の羅振玉を藤田某とともに奈良まで案内し、羅振玉、小村某、藤田
某と奈良観光を楽しむ。(11)

五日 大阪から神戸に船舶で向かう羅振玉を小村某とともに送り届ける。(11)

この頃 重野安釋博士等と相計り、狩谷掖斎創始の「説文会」を再興し、高田忠周(竹山)とともに講義にあたる。

(1)

二月二日 「晴。朝蔡君来訪、王維季亦来訪。下午伊藤・野浦諸君ト五山ニ遊フ。杭城市・西湖・錢唐江皆一眸ノ下
ニアリ、勝景尤妙」。(以下、翌年一月一九日の帰国まで、清国での出来事を日記にてたどる)(12)

三日 「雨。下午王維季ヲ訪問シ印譜数部ヲ観ル。方君根石印存尤銘心。帰途章伯綱ヲ養正書院ニ訪フ」。

四日 「晴。下午樓欧荻ヲ九曲巷ノ寓ニ訪フ」。

五日 「晴。上午樓・王二君、葉君品三ヲ伴ヒ来ル、金石ヲ談シ頗妙。即同道西湖ニ遊ヒ、藕香居ニ喫飯シ、飛来峰
ニ上リ、靈巖寺ニ遊フ、磨崖ノ刻象甚妙。帰途已ニ夜ニ入り、不期湖上ノ月ヲ観ル。此夜樓君ノ寓ニ晚餐ノ饗ヲ享
ク」。

六日 「曇。朝王君ヨリ篆書一幅ヲ送リ来ル」。

七日 「午後葉君品三ヲ元福巷ノ寓ニ訪フ。葉贈ルニ列仙印玩一本ヲ以テス」。

八日 「下午丁君ヲ訪ヒ、其藏書数万巻ヲ観ル。夕刻、丁善之、王維季来訪」。

九日 「晴。朝来游西湖・玉泉・清漣寺、寺中魚樂園ニ一尺有余ノ魚無慮数百尾、甚壯觀」。

一〇日 「晴。下午丁君来訪、偶出テ、曙スルコトヲ得ス」。

一日 「晴。下午葉君来訪」。

「荃廬先生刻印潤例」(『書論』第三二〇号 二〇〇一年 書論編集室)

荃廬先生刻印潤例

日本西京河井仙郎先生精倉史之學金石刻畫直摩秦漢人壁壘今將登蘇臺泛泉唐爰以刻印之費暫充舟車之費並與中邦人士廣結墨緣爲訂潤例錄之左方

石章每字銀六角 象牙竹木犀角每字銀一元二角
晶玉鑄銅每字銀三元五角
錢唐 羅振玉拜訂
庚子孟冬

「河井荃廬訪中日記」(『書論』第三〇号 一九九八年 書論編集室)

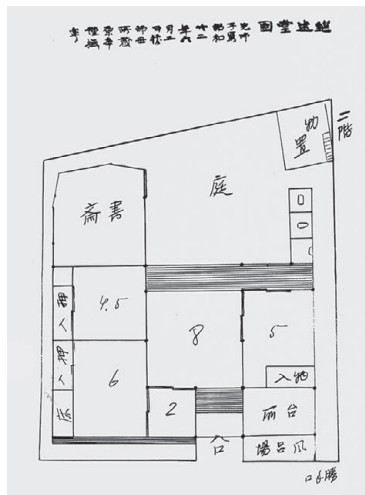
二日晴 荃廬先生酒至近來其酒下午伊賀野田訪君ト西山ノ湯ノ校以市西門餘慶江門一昨下アリ 餘慶市也
三日雨 下午至仙郎ノ府内レ印譜數部ノ觀ハ万景根在 仙郎ノ印存否 觀心印造章
伯綱ノ其長子也 坊フ
四日晴 下午樓頤教ヲ九曲臺ノ六六ノ酒フ
五日晴 上午樓王ニ着 葉長ニニナ伴ヒ才金不ノ僕レ 仙郎ノ印送西湖ノ遊ヒ 籍香云 次飯レ 最末出ル 上リ 葉長ノ手ノ酒フニ 葉長ノ刻分家甚時 餘慶市ニ已ニ 觀ハ 乃チ 不期 仙郎ノ日ノ觀ハ此夜 樓王ノ家ニ 晚飯ノ樂ヲ享ス
六日雨 仙郎王ニ着 葉長ノ手ノ酒フニ 葉長ノ刻分家甚時 餘慶市ニ已ニ 觀ハ 乃チ 不期 仙郎ノ日ノ觀ハ此夜 樓王ノ家ニ 晚飯ノ樂ヲ享ス
七日雨 仙郎王ニ着 葉長ノ手ノ酒フニ 葉長ノ刻分家甚時 餘慶市ニ已ニ 觀ハ 乃チ 不期 仙郎ノ日ノ觀ハ此夜 樓王ノ家ニ 晚飯ノ樂ヲ享ス
八日晴 仙郎王ニ着 葉長ノ手ノ酒フニ 葉長ノ刻分家甚時 餘慶市ニ已ニ 觀ハ 乃チ 不期 仙郎ノ日ノ觀ハ此夜 樓王ノ家ニ 晚飯ノ樂ヲ享ス
九日晴 仙郎王ニ着 葉長ノ手ノ酒フニ 葉長ノ刻分家甚時 餘慶市ニ已ニ 觀ハ 乃チ 不期 仙郎ノ日ノ觀ハ此夜 樓王ノ家ニ 晚飯ノ樂ヲ享ス
十日晴 仙郎王ニ着 葉長ノ手ノ酒フニ 葉長ノ刻分家甚時 餘慶市ニ已ニ 觀ハ 乃チ 不期 仙郎ノ日ノ觀ハ此夜 樓王ノ家ニ 晚飯ノ樂ヲ享ス
十一日晴 仙郎王ニ着 葉長ノ手ノ酒フニ 葉長ノ刻分家甚時 餘慶市ニ已ニ 觀ハ 乃チ 不期 仙郎ノ日ノ觀ハ此夜 樓王ノ家ニ 晚飯ノ樂ヲ享ス
十二日晴 仙郎王ニ着 葉長ノ手ノ酒フニ 葉長ノ刻分家甚時 餘慶市ニ已ニ 觀ハ 乃チ 不期 仙郎ノ日ノ觀ハ此夜 樓王ノ家ニ 晚飯ノ樂ヲ享ス

- 一四日「晴。朱輔臣ト初メテ訂交ス」。
- 一五日「晴。朱君葺煙及照相ヲ贈ル。下午野浦氏・朱君等ト同西湖ニ遊ブ。王君來訪、不晤」。
- 一七月「晴。葉君來訪、拓款ノ法ヲ授ク」。
- 一八日「晴。陳惠農・朱輔臣ト同ク高君ヲ訪フ、病アリ晤セズ」。
- 一九日「小雨。王君ヲ訪フ。同伯二面ス。同伯、唐樓志一部ヲ贈ラル」。
- 二一日「晴。王君、葉障伯ト同訪、障伯、品三ノ家叔也。此夜、学堂忘年会ヲ開ク、会スルモノ林琴南・林伯穎・齋藤大尉・山崎領事始メ無慮廿人」。
- 二二日「晴。夜、陳・朱二君ノ招飲ニ聚豐園ニ赴ク。十時帰寓」。
- 二三日「晴。午、褚・林・金ノ招飲ニ呉山ニ赴ク。呪文達公ノ祠アリ、巖石起伏、甚景二富ム、惜ラクハ荒廢久シク、復修膳ヲ加ヘス」。

一二月八日 師の篠田芥津歿(七六歳)。(13)

一九〇三年(明治三六年) 癸卯 三三歳

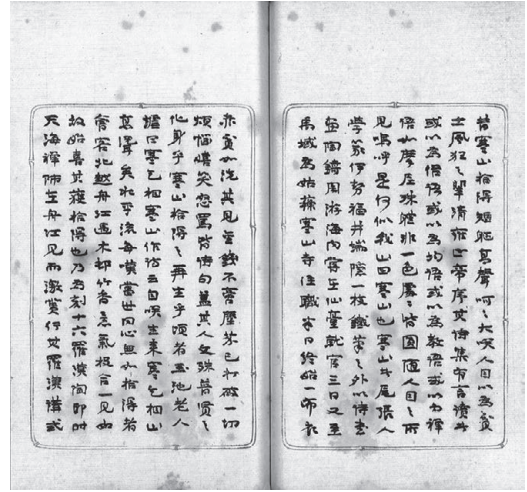
- 一月一日「曇。午前、領事館ニ赴キ、遙拝式ヲ行フ。下午、樓君來訪、偶出門曙セス」。
- 二日「晴。山崎領事重慶ニ赴ク、新旧領事送迎会アリ、余微恙ノ故ヲ以テ、辭シテ往カス」。
- 四日「蘇州王元常ヨリ五十元ヲ送り來ル、送費三角余」。
- 六日「晴。下午、鈴木君ト呉山ニ遊ブ。王・樓二君來訪、根石印譜ヲ贈ラル」。
- 七日「晴。朱兄ヨリ茶・松魚・藕粉・麻酥糖等ヲ送り來ル。使給四角」。
- 一一日「晴。夜大ニ飲ム。此日葉品三來ル、云不出三日、往滬」。
- 一五日「晴。鈴木・野浦諸君ト西湖ニ遊ブ」。
- 一八日「曇。下午、高子周・同子白・鮑少昆來訪、暢談。夕刻、孫「欠字アリ」來訪叙話。廿日礼拝ノ日ヲ以テ褚・金二君ト西湖ニ遊フコトヲ約ス」。
- 二一日「晴。下午、王福鑫ヲ訪フ。沈潤香ヨリ藕粉及家鴨一羽ヲ贈リ來ル、使給二角」。
- 二七日「晴。下午、王維季ヲ訪ヒ、數刻暢談、更ニ朱ヲ訪フ、雨ニ遇ヒテ帰ル」。
- 二九日「始メテ雪ヲシキ雪降ル。金九如ヨリ藕粉及扇子ヲ贈來、使一角。夜、伊藤・野浦・而鈴木四君大ニ余ヲ窘メ、令余復不能留杭、憤悶無已」。
- 三〇日「晴。高・王ヲ訪フ、均シク不在」。
- 三一日「雨。王維季ヲ詣ヒ、聞汪君先妣靈柩已杭ニ來ルト」。
- 一日「雨。丁・高・王・孫・樓・三宅・林・齋藤諸君ヲ訪ヒ告別ス。汪君ヲ華藏寺ニ訪ヒ晤ス、奠儀三元ヲ送ル」。
- 二日「晴。朝領事館ニ杉本・邨上二君ヲ訪ヒ告別ス。孫藕耕余力ヲ送ラ「ん」トテ特ニ來リ、湖筆一函、銘茶二罐ヲ贈セラル。教習等午飯ヲ受ラル。続キテ汪燕卿ヲ訪フ。吳常熟ヨリ、汪宜興ヨリ均シク今朝帰來レリト云フ。王



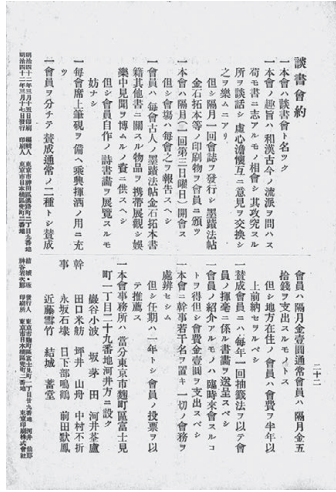
繼述堂図(前出『高芙蓉・河井荃廬両先生瑩域完成記念冊』)

- 淵士ヲ訪ヒ逢ハス、王元常ヲ訪ヒ又逢ハス、云今日起程上海ニ到ル。夜、鶴岡君經歷譚アリ、甚感」。
- 七日「晴。下午一点着申、直二本願寺ニ入ル。野浦君先在リ。夜、藏原君余ヲ挑ミテ友永ニ赴キ、宴ヲ張ラシム」。
- 八日「晴。朝、羅君ヲ訪フ、羅、張之洞ノ聘ニ応シ、武昌ニ赴キ農学会ノ幹事タルヨシ。羅君遠送ノ拓本数種ヲ収ス。林有壬ト同ク経世書院ニ葉翰君ヲ訪ヒ、田中招牌揮毫ノ依属ヲ為ス。王元常ヨリ土産物数種ヲ贈リ来ル。元常在泥一日、已ニ蘇ニ回ル、晤スル能ハス、遺憾無涯也」。
- 九日「晴。朝、岡本監輔翁ヲ岸田ニ訪フ。下午、野浦君ヲ送りテ埠頭ニ到ル。呉石潜ヲ訪フ、葉品三亦在リ」。
- 一〇日「晴。林有壬、周月山ヲシテ己属ノ葉潜ノ書ヲ齎シ来ル、偶不在ニテ晤セス」。
- 二月十一日「晴。朱伯良来訪、云王君信アリ特ニ往テ歉仄之意ヲ言ヘト。午後、張常惺ヲ仁慶里ノ寓ニ訪フ、叙談数刻」。
- 一二日「晴。張常惺ヨリ鐘鼎文一頁ヲ齎シ来ル。昨来寒氣殊ニ甚シク、殆忍フ能(ス)」。
- 一三日「晴。汪康年来訪、其弟明後日来晤ノ事ヲ約訂ス」。
- 一五日「晴。朝、汪君其弟洛年ト俱ニ来訪、新得拓本及竹鎮紙・墨等ヲ贈ラレ、洛年其自画ノ扇ヲ贈ル。一昨水躍入中スベキ筈ノ西京丸今朝始メテ入ル、人皆日曜或ハ月曜日ヲ以テ解纜スベキコトヲ云フ、我亦如此信シタリキ。昼飯後、郵船会社ニ到リ、之ヲ確ムレハ、曷料ラン、明未明出發スベキヲ以テ、今夜八時乗込マレタシ云云、勿迫行程ノ準備ニカ、ル。四時、張子簡来訪叙暢。山根立庵来訪。山根切ニ次便了マテ延セト云フ。九時乗込ム、松原君船マテ送り来リ、且ハンカチーフヲ贈セラル」。
- 一六日「晴。我ハ三等室ニ乗込ミタリ。乗客日本人十一名、西洋人一名、支那人十三名ノ少数、加之積荷甚少ク殆空船ノ有様ナルニ、波浪高ク甲板ヲ浩シ水船内ニ入ル。船動揺甚シク、人頭ヲ擡ルモノナク、貨物皆顛倒ス」。
- 一七日「晴。終日臥シテ食タモナサズ」。
- 一八日「晴。午前一二時頃着長崎、夜明クルヲ待チテ港内ニ入ル。上陸ス。山顛所々積雪アリ、道路泥濘、之ヲ人ニ問フ、日改歳以来連日雨雪、雨雪降ラサレハ風、殆晴天ナシ、今曉四時尚雪フル、日出ツルニ及テ始メテ霽ルト。二時、船ニ回ル。長崎ニ積雪ヲ見且連日ノシケハ実ニ廿年ブリノ事ナリト云」。
- 一九日「晴。陰暦元旦。旭日ヲ馬関ニ見ル。朝七時、馬関ニ着ス。昨長崎解纜後、海上海上頗平穩、四面峰巒皆白雪ヲ戴キ頗絶景ナリ」。
- この頃 東京の下谷に転居。(1)
- 一〇月 三井源右衛門(高堅、一八六七〜一九四五)の招きに応じ、京都寺町通りの家屋を弟の章石に譲り、東京麹町区富士見町の三井邸の庭に面した三畳間(茶席)に独居する。のち夫人の幸(園田湖城の母の姪)を呼びよせ、三井邸内の一隅に簡素な終の住居を構える(麹町区富士見町一丁目二十九番地)。(4)
- この頃 林泰輔、高田忠周、川合孝太郎等と「吉金文会」を起こす。(柳井寒泉「吉金文会その他」『印奴』3・1955・白紅社)

『羅漢印譜』の荃廬代筆題詞



『談書會約』（『談書會誌』第二集 一九〇九年 談書會）



一九〇四年（明治三十七年）甲辰 三四歳

二月 白文「戸倉稔印」、朱文「素亭」、朱文引首印「某室主人」を刻す。それぞれの辺款に「河仙郎刻」、「荃廬」、「荃廬作、甲辰二月」とある。(10)

この頃 西冷印社創立、印社構内の建設整備を始める。(14) (15)

一九〇五年（明治三十八年）乙巳 三五歳

夏 杭州（西冷印社）から帰ってきた友人より西冷印社創設の盛挙を聞き、渡清したい思いに駆られる。(15) (16)
六月一七日『日本』（日本新聞社）において「篆刻募集」欄を開始する。「河井荃廬」の名で浜村蔵六（五世）とともに選者を担当する。(17)

二〇〇二七日「篆刻募集」の選者名を「河井荃廬」とやまいだれで表記する。（『日本』5714～5721）
七月三日「募集篆刻当選」一五名を紙上にて発表し、当選者に「印材を本社へ送らるべし」と告知する。（『日本』5721）*以降の同欄選出者は【附表2】を参照されたい。

先行研究及び刻印の辺款等から、この欄で使われた「幻道人」、「玄道人」、「蒼羊子」、「忘荃子」は荃廬の別号と考えられる。

一九〇六年（明治三十九年）丙午 三六歳

四月三日 木村竹香輯・山田寒山刻『羅漢印譜』の題詞（浜村蔵六撰文）を代筆する。

「友人浜村蔵六として長い序文があつて、寒山尊者、北越舟江に竹香と云う拾得を得て云々の愛誦すべき雅文があるが、実はそれは河井荃廬の肉筆で、行文措辞から見ても荃廬、蔵六の合作になること疑いもなく、印壇の珍品である」。(山田正平「会津先生と私」『書品』79・1967・東洋書道協会)

暮春 蘇州に呉昌碩を訪ねる。篆書幅「宝書」は、落款から呉昌碩が荃廬に与えたものと考えられる。（『書勢』8・1・

大同書会）(18)

春薄 蘇州に遊び、杭州に出で、呉隱、葉銘、丁仁、王禔と西冷印社にて語る。(15)

浴佛日 「西冷印社記」を撰し記す。(15)

一九〇七年（明治四〇年）丁未 三七歳

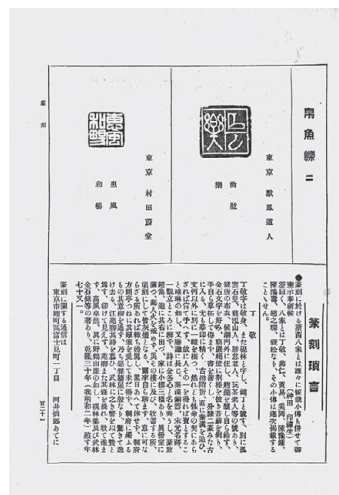
一月一五日『日本及日本人』篆刻募集欄「鉄筆一斑」で作品二点（備前・小橋吟瘦 日向・奥村竹亭）を選出し、短評を行う。（『日本及日本人』451）

同第四五一から五二七号の篆刻募集欄選者を浜村蔵六（五世）とともに交替で開始する。*以降の同欄選出者は【附表2】を参照されたい。

六月 談書會を設立。発起人、幹事として参加。自宅を事務所とし、『談書會誌』の編集にも携わる。（『談書會約』『談書會誌』2・談書會）(19)

この年 初世中村蘭台、浜村蔵六（五世）、岡本椿処、山田寒山等と「丁未印社」を創設する。(20)

『日本及日本人』『帛魚譚』『篆刻瑣言』(第五〇二号)



「鉄筆曆」の荃廬印影(『東京朝日新聞』第八四九七号 一九一〇年 朝日新聞社) 第

田鼠化爲鴛
河合荃廬刻

田鼠化して鴛となり傳説仕へ免 銅牛

刻者は京都の人。東京に住す。金石法帖の學に於ては天下刻者の右に出づるもの莫し。印史に通じ印篆に精しく、小學の書を涉獵耽讀する事刻者の如きは方今稀に見る所也。曩も南清江浙の間に遊びて篆刻を吳荃石に問ひ、漢銅印を宗として徽派浙派の外に一新生面を開けり。刻者の名は遠く北京官人の間に知らる。他人の刻する所一も意に中るものなし。其言ふ所鑒々典據あるを以て人陽には風すれ共陰に平なる能はず。中村不折刻者の筆迹を評して挽白流と名づく。其何の故なるを知らず。今年四十。

一九〇八年(明治四一年) 戊申 三八歳

三月 明治印学会設立。

「五世浜村蔵六、岡本椿所、中村蘭台、山田寒山とともに印学の發達を図ることを目的に創設される。」(『東京朝日新聞』7747)

一〇月一日『日本及日本人』の篆刻欄に「篆刻瑣言」の執筆を開始する。以後、第五二七号まで連載が続く。(同紙493)

一九〇九年(明治四二年) 己酉 三九歳

一月一〇日「続書論是非 不折氏の「書談」を読みて」を執筆。(『手紙雑誌』81・手紙雑誌社)

一五日「書談を読みて」を執筆。(『繪畫叢誌』261・繪畫叢誌発行所)

この頃「談書會誌」刊行開始。荃廬は學術顧問、事務局長、會計課長として献身的に働く。同誌は六〇号から「談書會集帖」に改題し、百号(昭和二年二月二八日刊行)で完結。(21)(22)

三月一日「書画に於ける篆刻の調和」を執筆。(『日本美術』121・日本美術社)

暮春 吳昌碩から、吳昌碩の肖像に題賛と款書を入れた作品を贈られる。(『書藝』5-1・平凡社)(18)

六月一〇日 日本美術協会の開催した健筆会(於上野公園)に丁未印社の五名(五世浜村蔵六、岡本椿所、中村蘭台、山田寒山)とともに参加。(『東京朝日新聞』8198、『美術新報』174)

七月二二日 農学校視察のため訪日していた羅振玉と朝日新聞記者の樋口勇夫とともに会食する。数日後に上野公園鶯亭にて開催の吉金文字会への参加を勧める。「原文の日付は旧曆のため、本稿では便宜的に新曆で記す」(23)(菅野智明「羅振玉と明治末葉の東京」『中国文化』74・2016・中国文化学会)

二六日 羅振玉とともに三井源右衛門の收藏する『文館詞林』を閲覧する。(23)

二九日 羅振玉を訪れる。(23)

三〇日 羅振玉来訪。『統古印式』を示す。(23)

八月三日 羅振玉を訪問。拓本二種を贈る。徳富蘇峰も同席。(23)

五日 新橋駅にて田中某、島田某らとともに羅振玉を見送る。(23)

一九一〇年(明治四三年) 庚戌 四〇歳

この年 印譜『印彙』に王福盦のために刻した白文印「印傭」と「琅邪季子」が掲載される。『印彙』は西泠印社創立記念事業として、一八九六年(光緒三二年、明治二九年)に開始された明清印人の印影の集大成である。(2)

一月八日 文行堂を訪問。店頭にて三村竹清と遭遇する。(24)

一五日 三村竹清来訪。再捺の蘇氏印略について話題にあがる。(24)

三月一日「回顧 河井荃廬氏に聴く 談書會、書勢の思出」を執筆。(『書道新聞』20)

四月一日「鉄筆曆」に、朱文「田鼠化爲鴛」と荃廬の略歴が掲載される。(『東京朝日新聞』8497)

趣味

[illegible][illegible]

「椿所君に蘭台寒山二氏を紹介せらる。河井仙廬君もあり。村田蔚堂もあり。芦野楠山、鳴雀、竹山、默鳳等も来る。床上には菊池惺堂氏、藏陳鴻寿の幅をかく。林谷之書画、芙蓉石の横物。他に印籍、印譜、篆書の書物等出品あり。古印もあり。京印も廿余顆出品され、内二顆は珍也。章字深手鈕は異獅子、花押。これは福祿寿鈕なり。別に卅一顆あり。封泥摹古陶片などあり。陶片は今戸焼之火消壺の欠けの如きに古文印押こゝある也」。(24)

「本年四月より東京朝日新聞社の銅牛という人 印癖家に乞うて鉄筆七十二候とて掲げ居る也 尤も初は芝の水月

堂山田寒山等にはかりたるにて 如何はしき人もありしを 後荃廬椿所などに相談ありて人選をなし 最初たのみ

れとの事 篆刻家より篆刻を頼まるゝ事 おかしき話也 予は其選に非ずとして 断りたるも強てとの事故受合う

二七日 三村竹清來訪。(24)

二月二六日『読売新聞』「趣味 篆刻の名手（一）」にて、当代の篆刻家中唯一の学者と称される

金石學に於て當代の篆刻家中唯一の學者としては矢張り京都の河中荃蘆氏であろう、曾て清國に渡り吳蒼石の門に

遊び斯道の蘊奥を極めた人謂はば篆刻界の新知識である。印は仲々に上手だけれども二三個しか刻らないで珍本古

書をぎつしり詰め込んだ、書齋に隠れて終日読書のみして俗事に閑せざる様だ、しかも家政甚だ豊かなるを某友い

ふかつて「印を刻らないでも君は豊かだから」と云つた風な珍談もあった。（『読売新聞』12224）

一二年（明治四四年）辛亥 四一歲

二月一六日 比田井天来、三村竹清がそれぞれ来訪。(24)

五月一六日「碧巖句印(第四則)」に白文印「応病与藥」が掲載される。(『東京朝日新聞』8897)

二五 日 「河井荃廬談 宋拓戲魚堂帖」が掲載さ

二年（明治四五年・大正元年）五月五日『印章補正』の序文を執筆

二八日 神田錦輝館において開会された談書會に出席。（『書苑』一〇・法書會）

二月八日 明治印学会『七十二候印存』刊行、「田鼠化為鴛」が載録される。

一三年（大正二年）癸丑 四三歳

七日 妻の幸死去。

篆刻家河井仙郎先生の内室ゆき子氏は永々病気の処七日午前二時死去せられたり」。(『筆之友』152・書道奨励協会)

『亀甲獣骨文字』巻一の表紙と冒頭頁（一九一八年 法書會出版部）



二月一二日 三村竹清来訪。竹清に趙之謙、楊沂孫、吳大澂等、印人の書画を見せる。(29)
 一九一七年(大正六年) 丁巳 四七歳

二月二日 「二月二日出発支那へ渡航せられし」と云う。『筆之友』201)
 四月 白文「日下東作章」、朱文「野鶴翁」、朱文引首印「願性延齡」を刻す。それぞれの辺款に「河井遷」、「荃廬改作」、「吾瓠子製」とある。この印について、日下部鳴鶴は「何年たつても刻しないあの河井君が珍しく二日で刻した」と語る。『筆之友』204)

四月一日 三村竹清来訪。(30)
 七日 上海に出発。(30)

五月初旬 中華民国より帰京。『書道及畫道』26)

八月二六日 三村竹清来訪。竹清に益田香遠が模刻した際に捺したという漢委奴国王印の印影を見せる。(31)

九月二〇日 三村竹清来訪。竹清より「不相変不平屋」と評される。(31)

十一月一日 「印章瑣談」執筆『書畫骨董雜誌』113・書畫骨董雜誌社)同日『書勢』第一巻第二号(十一月号、大同書会)の筆蹟募集(成績は大正七年元旦誌上発表)に際し、審査委員を担当。大同書会幹部(評議員及客員)に名を連ねる。

十二月五日 三村竹清来訪。竹清は荃廬宅について「八畳一間新築 二畳の外は板間にして本をつむ棚をつくれり」と回想。(31)

一九一八年(大正七年) 戊午 四八歳

四月五日 「神戸を出帆の八幡丸にて中国への渡航を予定」。『書勢』23)

二二日 三井源右衛門に書簡をおくる。(32)

五月上旬 中華民国より帰国。『書勢』26)

七月二八日 牧桜雲、三村竹清来訪。(33)

九月五日 『亀甲獣骨文字』巻一(法書會出版部)刊行。林泰輔との共著。

一〇月二〇日 高田忠周の古籀篇脱稿記念祝賀会において、漢字起源の資料として収蔵する殷代の亀甲獣骨(大片)を陳列。『書道及畫道』312)

十一月二日 川合孝太郎に葉書を送る。吉金文会の例会の場所と日程変更について。(個人蔵品を確認)

十二月二日 『亀甲獣骨文字』巻一(西東書房)刊行。林泰輔との共著。

一九一九年(大正八年) 己未 四九歳

一月二二日 三村竹清来訪。竹清は荃廬の住居について以下のように回想する。

「午後 仙郎君を富士見町に訪 相撲にてこのあたりにきはし 仙郎君はもこの富士見町之阪を下りきりたる角の二階屋二居たる也 故に仙郎は音便にて荃廬といいたり 今は荃廬也 表に竹へ河井と二字ほりたる標札がかけ

『藝苑』の表紙と荃廬收藏の趙之謙花卉図二点
 (『藝苑』第一編第二号 一九一九年 帝国美術社)



でありしも 昨年頃門札の規則出て、やかましくしかは 今は無雑作に自ら河井仙郎とかきし木札を打つけたり郵便物受之口の上へ宝書龕と六朝風の書をゑりし小札かく 旧は格子之上へ呉蒼石之篆に宝書龕とかきし ほりたる群青をさしたる横額をかけ置きしか 今は内へ入れたり 玄関置一畳 右は家人之通ひにて この三尺之襖は李邕之碑を貼りたり 向かつて左は客人之通い也 突当りは壁 朱にぬりて 石経峪之大字をあらわしたり 表より見れば板塀之上竹之緑葉少し見ゆ これは玄関わきの部屋之はきだし 二三尺之処へ四方竹を植えし也 客間八畳 床は置床 いつも清人之書画をかく 壁之方紫檀之書棚あり これへ白磁之布袋といふるめかしき置時計あり 庭之かなたへ書齋をつくられたり 庭といひて三坪斗り也 書齋之軒に梧桐を植う 便所のかたへ女竹数竿あり 漆ぬり之チャブ台を置き 相對してかたる也」。(34)

六月二日 羅振玉の送別会に参加。(7)

七月一日 收藏の「趙之謙花卉図」二幅がカラーで掲載される。『藝苑』12・帝国美術社
 晩秋 山田正平を伴い中国へ渡航。吳昌碩や徐星州と会う。(前出「会津先生と私」)

「河井先生は如何にも愛情に満ちた握手をされ、久闊を叙する挨拶をされて、我々は卓を圍んで腰を下ろした」。(山田正平「吳昌碩を訪ねる」『好古』20・1939・日本美術社)

一〇月一〇〜十一日 岡本椿所の葬儀に際し、郡司梅所とともに尽力。三村竹清も参列。(35)

二六日 上海から三井源右衛門にあて書簡を送る。(32)

二七日 杭州の趙之謙の墓を訪れる。(32)

一九二〇年(大正九年) 庚申 五〇歳

この年 新井琢斎入門。(香川鳳文『琢斎印譜』1972)

二月九日 三井源右衛門にあて書簡を送る。(32)

五月一六日 西神田倶楽部にて第六八回談書會を開く。收藏の「楊見山隸書幅」、「吳熙載書屏幅」が展観される。『談書會集帖』68)

一〇月一日 「支那現代第一流画家 吳杏芬女士傑作展覧会」(主催は書道及畫道社、会日は一〇月二〇日)を贊助する。『書道及畫道』5・10)

一九二一年(大正一〇年) 辛酉 五一歳

七月二〇日 『亀甲獸骨文字』巻一、巻二(商周遺文会)刊行。林泰輔との共著。

九月二日 三村竹清来訪。(36)

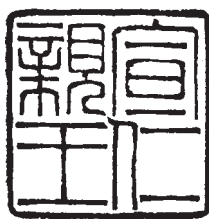
十一月三〇日 三村竹清来訪。吳淑娟(杏芬)の作品を「吳昌碩二よく似たり」と推奨。竹清から「仙良さんもうとうとう書画屋も新画屋になったりけり 可惜々々」と評される。(37)

一九二二年(大正一一年) 壬戌 五二歳

〈この年における荃廬の事績は、『談書會集帖』に収蔵品を掲載した以外は管見の限り確認できていない〉



「高松宮」「宣仁親王」（前出『河井荃廬の篆刻』）



一九二三年（大正一二二年）癸亥 五三歳

九月一六日 三村竹清来訪。（38）

一一月一六日 三村竹清来訪。（38）

一九二四年（大正一三年）甲子 五四歳

〈管見の限り、この年における荃廬の刻印、收藏品の出版物掲載は未確認である〉

一九二五年（大正一四年）乙丑 五五歳

七月一〇日 『大東美術』刊行開始。監修を務め自身の收藏品を掲載する。

一四日 三村竹清来訪。（39）

八月一日 荃廬が刻した松田南冥用印「松舒」、「秉濁夜遊堂主」が掲載される。（『書勢』98）

九月一六日 大正印会第一回例会、荃廬は不参加。

「東都各流派の篆刻家の発起に成る大正印会第一回を九月十六日午後一時より新宿園に開かれた。出席印人郡司梅所、高畑翠石、岡部香塙、山本碩堂、村田蔚堂、新聞静邨、飯田秀処、久保随処、高橋鶴山、岡本枕所、酒井支山の諸氏参考品を陳列し来会者には希望に応じ石印を席上篆刻或は揮毫せらる、印人外の来会者斎藤芳洲、渡辺雪峰両先生外三十余名にして午後六時晚餐を共にし大正印会の事業として印譜を発行し日本美術協会と対立して展覧会を開催する事を議決せり」（『筆之友』301）

一〇月一五日 大正印会第二回例会に参加。参考品として「楊沂孫篆書四幅対」を披露する。

「午後一時より上野韻松亭に於て開会す。出席者河井荃廬先生を初め高畑翠石、山本碩堂、新聞静邨、岡部香塙、飯田秀処、岡本枕所、岡村梅垞、関野香雲、小沢香古、酒井支山、山田正平の諸氏及守尾瑞芝堂、長沢喜兵衛の諸君の他二十余名にして各自席上篆刻をなし荃廬先生の批評を受け六時より晚餐を共にし新たに名誉員に今泉也軒、高田竹山、河井荃廬、中村不折、芦野楠山、足達疇邨の諸先生を推戴する事に決議し例会は毎月十二日上野韻松亭に開会する事とせり」（『筆之友』302）

十一月一二日 大正印会第三回例会に参加。

「上野韻松亭に於て開く。来会者今泉也軒、河井荃廬、蘆野楠山、足達疇邨の顧問を初め、印人にては郡司梅所、高畑翠石、服部耕石、山本碩堂、村田蔚堂、久保随処、飯田秀処、小沢香古、山田正平、新聞静邨、岡本枕書、岡村梅垞、関野香雲、酒井支山、の諸氏及高林五峰、渡辺雪峰、古筆了信の諸先生も来会し出陳の篆印に就て荃廬楠山疇邨三先生の批評あり」（『筆之友』303）

一九二六年（大正一五年・昭和元年）丙寅 五六歳

三月 白文「高松宮」、朱文「宣仁親王」、白文「海闊天空」、朱文「高松宮」、白文「宣仁親王」、朱文「至誠無息」を刻す。すべて無款だが、松丸東魚が高松宮家において確認した『御印譜』中の印箋に、「大正十五年三月河井仙郎」の書入れがあったという。（40）

五月一七日 三村竹清来訪。荃廬が肋膜炎を患ったという。(41)

六月五日 説文会に参加。

「午後三時より説文会を永楽町安田銀行知恵乃輪倶楽部に開く会するもの河井荃廬、樋口銅牛両氏をはじめ三十余人。川合幸太郎氏講演二時間」。(『筆之友』310)

一九二七年(昭和二年) 丁卯 五七歳

四月 神田の中華料理店第一楼にて行われた、林文昭收藏の石涛大画帖その他名筆の披露会に招待される。招待者…河井荃廬、犬養毅、関直彦、山本悌二郎、菊池長四郎、田口米舫、榊原鉄硯、林熊光、原田庄左衛門。(『詩書畫』3)

五月二八日 園田湖城に書簡を送る。(『書論』30・書論編集室)

九月七日 園田湖城に書簡を送る。(前出『書論』30)

一〇月二八日 『談書會集帖』第百号にて終刊。(21)

十一月二九日 吳昌碩歿(八四歳) (『東京朝日新聞』14923)

十二月一日 三村竹清来訪。

「朝 九段 河合仙郎氏へゆく 庭之隅之物置之上へ 二坪ばかり之中二階をつくれり 甚た雅也 廿九日 吳蒼石死したる由 電報ありしとて日々新聞記者 きゝにきたりしが其翌日之新聞に吳翁は柿を画くとかきし由 井上靈山といふ人くる 大阪すしを馳走になる平野へゆき板木を受とりて重川へよりて帰 琴女来 朝 お柳さん来りし由 長子吳藏龜も此夏頃死去 蒼石二知らせざりしといへは 其頃より病氣なりしなるへし」。(42)

この頃 吳昌碩逝去にともない某大新聞の美術記者より吳氏について取材を受ける。(『詩書畫』6)

一九二八年(昭和三年) 戊辰 五八歳

三月一日 大正印会の展覧会(於三越)が開催されるも、風邪にて欠席。(42)

三日 「篆刻の沿革及現状」を執筆。(『書道名鑑』美術日報出版部)

七月一日 「書・画・篆刻三絶」を執筆する。(『書道』1・1)

同月 戊辰書道会創立。主要な参画者は河井荃廬、丹羽海鶴、比田井天来、川谷尚亭、吉田苞竹、仁賀保香城。(20)

十一月 第一回戊辰書道会展の審査員を務める。(20)

二三日〜一二月二日 第一回戊辰書道会展の陳列参考品として、收藏品一二点「王鐸臨晋帖」、「陳洪綬臨晋帖」、「鄧琰楷書楚辭二章」、「奚岡草書姜白石詩」、「吳熙載臨漢碑四軸」、「陳鴻寿行書隰琴花屋四字」、「伊秉綬隸書藏密齋三字」、「錢伯垌行書七言詩」、「包世臣行書萃百花圖五樂詞」、「趙之謙隸書七言絕句」、「趙之謙寒松閣三字」、「趙之謙集瘞鶴銘字」を出品する。(『書壇』2・1)(43)

十二月一二日 大正印会例会に参加。

「高畑翠石先生宅に於て開く。河井仙朗先生の講義あり。出席者石井雙石、関野香雲、山本寸草の諸先生出席せり」。



居、新井琢齋。身、曾田香菴。百、岡部香塢。尺、群司梅所。樓、高畑翠石。上、新間靜邨。故、河井荃廬。眼、乙部吞海。萬、石井双石。卷、關野香雲。書、山本寸草。中、梅松香城。

書道全集 第一卷

（『筆之友』340）

一九二九年（昭和四年）己巳 五九歳

一月二日 大正印会例会に参加。

「午後より高畑翠石先生宅に於て開かれ、河井仙朗、郡司梅所、新間靜邨、山本寸草、関野香雲、望月楽天、新井翠竹の諸先生にして仙朗先生の講義あり。夕方散会す」。（『筆之友』341）

四月二日 大正印会例会に参加。

「高畑翠石先生宅にて開催。河井荃廬先生を初め、郡司梅所、服部耕石、石井雙石、郡司梅所、望月楽天、山崎芋月、中村蘭台、関野香雲先生外数名にして、村木虚空氏の寿山より出する各種の坑の原石を示して説明。大いに得る処あり。夕方散会せり」。（『筆之友』344）

秋 田口二州、長男誕生の挨拶に来訪。（田口二州「荃廬先生の事ども（一）」『書品』13・東洋書道協会）
一〇月二日 大正印会例会に参加。

「午後より翠石書院樓上に於て開く。来会者河井仙朗先生を初めとし臨時印会を上野に於て開催の相談をなし左の如き合作を共にせり」。（『筆之友』350）

一月三〇日 戊辰書道会展覽会にて菊池惺堂と会う。（44）

一九三〇年（昭和五年）庚午 六〇歳

一月二日 大正印会の初会に参加。

「午後より翠石書院樓上に開会。来会者は左記（挿図の）合作の如く十二名。来会し自作品を陳列しこれを抽籤にて頒ち河井荃廬先生は拓本書物等を来会者に抽籤にて頒ち同人の歡喜を受け名古屋から植松香城君も出席晚餐を共にし十一時散会印会近來になき面白き会合なりし」。（『筆之友』353）。本合作は『印章世界』第六十五号（印章世界社）の表紙にも掲載される。

二月二〇日 平凡社『書道全集』（全二十七卷、完結七年五月）を纂修、刊行が開始される。纂修：岩井鶴臯、尾上柴舟、河井荃廬、中村不折、比田井天来。顧問：伊東忠太、黒板勝美、佐佐木信綱、関野貞、内藤湖南。（45）
五月二八日 三村竹清のもとに平凡社『書道全集』のことで野本白雲を向かわせる。（42）

八月 『東印競技会印譜』（東京印判業組合）の題字「叢芳」を揮毫。（前出「荃廬先生の事ども（五）」『書品』18）

十一月 泰東書道院創立、審査顧問として参加する。同月第一回展を開催。（46）

一九三一年（昭和六年）辛未 六一歳

三月二日 支那書道視察団（泰東書道院推薦、外務省後援）の団長として東京を出発。（46）（47）

二二日 神戸三ノ宮からの船便にて出航。（46）

二三日 上海に到着し各地を視察。（46）

四月一九日 神戸に帰国、最後の訪中となる。帰京後、辞表を提出し泰東書道院を脱退。（46）

杭州・靈源寺にて（支那書道視察団・一九三一年）（松本芳翠『臨池六十年』一九六二年二玄社）



（上段左から二番目が荃廬）

「篆刻を語る」（『書藝』第三卷第一号 一九三三年 平凡社）



二八日（三週間）収蔵の「鄭燮蘭竹図」、「趙之謙花卉八軸之内其一」、「趙之謙花卉八軸之内其二」を「日華古今名絵画展覧会」（於東京府美術館）に出陳。（『宋元明清名畫大觀』1933・大塚工芸社）

五月二三〜三十一日 収蔵の「鄭燮蘭竹図」、「趙之謙花卉八軸之内其一」、「趙之謙花卉八軸之内其二」を「日華古今名絵画展覧会」（於大阪府立貿易館）に出陳。（前出『宋元明清名畫大觀』）

六月一〇日 三井源右衛門に電報を打つ。（32）

一九三三年（昭和七年）壬申 六二歳

一月下旬 柳田泰麓来訪、十七帖について諸々の質問を受ける。（『書契』24・泰麓書道会）

四月三日 赤坂山王下の幸楽にて東方書道会発会式、顧問となる。（46）

五日 「翁と十七帖」を執筆。（『書契』24）

六月一二日 山内敬齋歿（四五歳）。（山内敬齋編『篆源』1932・緑地社）（48）

八月一五日 日華古今名画展覧会編『宋元明清名畫大觀』（大塚工芸社）に収蔵品三点を掲出。

十一月二五〜十二月四日 第一回東方書道会展（於東京府美術館）開催、審査顧問として参加。収蔵品を参考出陳。

（46）（『東方書選』1933・晚翠軒）

この頃 植松香城編『荃廬印存』（二帙二本）が刊行される。

この頃 満州国建国に際し、「皇帝御璽」の刻印を依頼されるも断る。（1）

一九三三年（昭和八年）癸酉 六三歳

三月一日 『書藝』（『書道春秋』改題第一号・平凡社）刊行、編集顧問となる。

五月二九日 平凡社『和漢名家習字本大成』（全四十二冊、完結一〇年一月）刊行開始。監修：岩井鶴皋、尾上柴舟、河井荃廬、田中親美、中村不折、比田井天来。顧問：伊東忠太、黒板勝美、佐佐木信綱、関野貞、内藤湖南。（45）

六月六〜一六日 第二回東方書道会展（於東京府美術館）に審査顧問として参加。（46）

二〇日 『支那名家墨蹟』（晚翠軒）を西川吉陽（寧）と共編にて監修。

八月八日 『書藝』発展懇談会（於緑風荘）に参加。河井荃廬、井土靈山、梅園方竹、藤原楚水、石井双石等が一同に会す。（『書藝』39）

一〇月六日 「書聖弘法大師を語る」座談会に参加。（『書藝』3-10）

八日 芝の紅葉館において『大師筆蹟全集』に関する第一回の会合に参加。（『書藝』3-11）

二〇日 満洲文化視察（外務省文化事業部及び満鉄の後援）のために渡満、帰京した仁賀保香城、土屋竹雨の慰労会に参加。（『東方書道會報』2・東方書道会）

十一月五日 「篆刻を語る」座談会に参加。（『書藝』3-11）

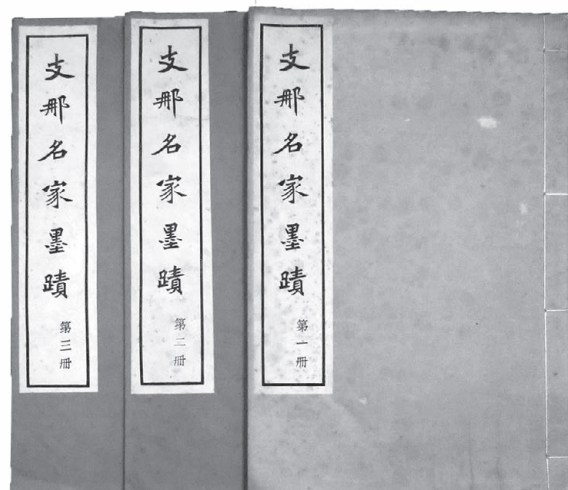
一六日 三村竹清を訪問し、「高芙蓉先生百五十年祭」に配る絵葉書を相談。（49）

一九日 三村竹清が来訪し、「高芙蓉先生百五十年祭」の出品目録を手渡される。（49）

『楊守敬を語る座談会』（前出『書藝』第四卷
第一一〇号）



『支那名家墨蹟』（一九三四年 晚翠軒）



二六日 「高芙蓉先生百五十年祭」の会場当番。朝に三村竹清の使いより芙蓉の印譜や刻印を受け取り、午後、同展に
来訪した三村竹清と会う。（49）

同日 「高芙蓉先生百五十年祭」が挙行され（於東京麹町清水谷公園）、企画と指揮にあたる。（『書藝』411）
この頃 東都大学高専書画道連盟が結成され、審査を担当する。（『大東文化大学五十年史』1972・大東文化学園）
一九三四年（昭和九年）甲戌 六四歳

一月一日 『書道新聞』第一号に「創刊の言葉 万難を排して」を寄稿。

五日 東方書道会の新年会が開催され、会報に関する意見交換を行う。（『東方書道會會報』2）

二六日 荃廬と高塚竹堂の発議により、東方書道会事務所において蘇孝慈墓誌銘についての座談会を行う。（『東方書道會會報』2）

二月一日 「支那趣味座談会」参加。（『書藝』423）

四月一九日 出先で偶然三村竹清に会う。（50）

四月 『弘法大師真蹟全集』（一〇年四月まで一回にわたり配本）を監修、刊行が開始される。監修 岩井鶴臯、尾上柴舟、河井荃廬、中村不折、比田井天来。（45）

六月 東方書道会第三回展（会場：東京府美術館）に審査顧問として参加。（46）

七月四日 『書藝』編輯顧問会議に出席（於晚翠軒）。（『書藝』48）

九月頃 平凡社『和様習字手本大成』の編集会議に出席。（『書藝』410）

一〇月二九日 『和様習字手本大成』刊行開始。編集顧問：尾上柴舟、河井荃廬、田中親美、中村不折、比田井天来。
顧問：伊東忠太、黒板勝美、佐佐木信綱、関野貞、内藤湖南。（45）

この頃 東方書道会主催『藝輯雙楫』の講演を行う。（松丸東魚「河井先生の思ひ出（一）」『印奴』1・1955・白紅社）

十一月九日 一誠堂即売会（会場：三越）を訪ねる。（51）

一〇日 「楊守敬特輯号」の編集を指導し、「楊守敬を語る座談会」に参加。（『書藝』411）

一八日 緑風荘にて董康、野本白雲、村田某と夜宴。（52）

二五日 晚翠軒『支那名家墨蹟』第一冊の掲載作品の選定と解説を西川吉陽とともに担当。

一九三五年（昭和一〇年）乙亥 六五歳

二月 平凡社『書道全集』（全二六巻、和綴、完結一二年四月）を纂修、刊行開始。纂修：岩井鶴臯、尾上柴舟、河井

荃廬、田中親美、中村不折、比田井天来。顧問：伊東忠太、佐佐木信綱、関野貞、塚本靖、辻善之助。（45）

三月一日 「回顧 河井荃廬氏に聴く 談書會、書勢の思出」。（『書道新聞』20）

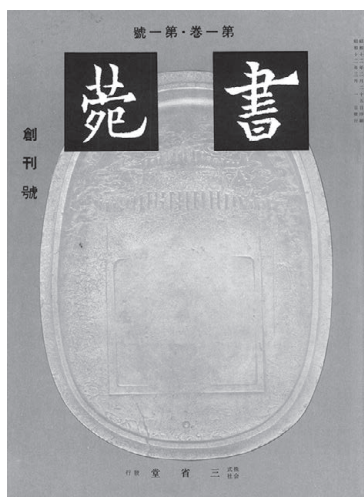
四月一日 「清朝南畫家之一瞥」を執筆。（『南畫鑑賞』44）

六月九日 「河井荃廬氏に書道を訊く会」が晚翠軒に於いて開催される（主催：書道新聞社）。会費は一元。（『書道新聞』折込告知）

松丸東魚主催の会での集合写真（『印奴』第一集 一九五五年 白紅社）



『書苑』第一巻第一号（一九三七年 三省堂）



二〇日 晩翠軒『支那名家墨蹟』第二冊の掲載作品の選定と解説を西川吉陽とともに担当。

七月二五日 「京都時代 河井荃廬翁のむかし話（上）」。（『書壇新報』6）

同月 東方書道会参事を辞退。（『書壇新報』6）

八月一三日 野本白雲来訪。中村不折、晩翠軒の松尾兼三も同席。清談夜半に及ぶ。（『書藝』59）

二五日 「渡支前後 河井荃廬翁のむかし話（下）」。（『書壇新報』7）

九月 興文社『支那南畫大成』十六卷、『同續集』三卷、『同補遺』一卷を監修、刊行開始。

一〇月一日 「石濤に就て・疑点二題」執筆。（『南畫鑑賞』4・10）

十一月一〇日 説文会主催、「狩谷掖斎百年祭」を神田明神において挙行。（『書壇新報』13）

一月中旬 松丸東魚、新聞静郵を伴い来訪。（前出「河井先生の思ひ出」）

二八日 松丸東魚の招待会に出席。（前出「河井先生の思ひ出」）

一九三六年（昭和十一年）丙子 六六歳

二月三日 赤木邦彦来訪。（『書壇新報』16）

四月五日 林朗庵来訪。（53）

七月二日 林朗庵来訪。（54）

三日 林朗庵来訪。（55）

同日 平凡社『千字文十種』（全七函一四冊）を監修、刊行開始。監修：岩井鶴皐、河井荃廬、中村不折、比田井天来。（45）

八月三〇日 晩翠軒『支那名家墨蹟』第三冊の掲載作品の選定と解説を西川吉陽とともに担当。

一〇月一五日 『支那名畫寶鑑』刊行。収藏品四八点が掲載される。

例言に、「この集は昭和三年の唐宋元明名画展覽会及び同六年の宋元明清名画展覽会に出品せる者の精萃を主とし、加ふるに波士敦美術館中国画帖その他より転写したるものを以てし、更に明代画の数幅と清代画の大半は河井荃廬氏その他の秘蔵を借影して之を増補した」という。（三版より『中国名画宝鑑』に改題）

三一日 茅原東学『千字文考正』（東学社）に序文を寄稿。

十一月一日 書評「支那名畫寶鑑の出現」執筆。（『學鐙』11・丸善株式会社）

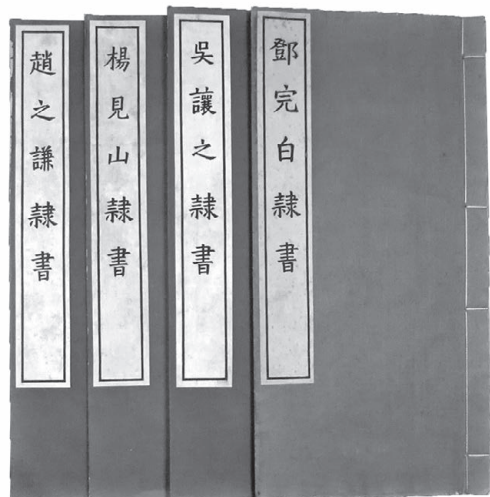
四日 『書苑』発刊披露会を柳橋柳光亭にて開催。参加者：国分青厓、市村瓊次郎、中村不折、小室翠雲、河井荃廬、比田井天来、仁賀保香城、原田尾山、石田幹之助、土屋久泰、郭開貞、錢瘦鉄、西川寧（以上、『書苑』顧問および客員）、亀井社長、亀井専務、藤原主幹、平井出版部長、渋沢記者（以上、三省堂）。（56）

一八日 林朗庵来訪。（57）

一九三七年（昭和十二年）丁丑 六七歳

二月二日 東方書道会研究会にて、石鼓文の時代考証に関する講話を行う（『書壇新報』40）。

『清人隸書集』(一九三七年 晚翠軒)



三月一日 『書苑』 発刊開始 (監修: 河井荃廬、主幹: 藤原楚水、三省堂)。表紙は荃廬收藏の宋洮河緑石大硯、創刊から終刊までを飾る。河井荃廬の姓号に加え趙且雪、何蟬巢の戲号や継述堂の堂号を使用し、多数の収蔵品を提供する。(4)(58)

二八日 林朗庵来訪。(59)

四月九日 虎ノ門の晚翠軒にて『書苑』編集会議が開かれる。参加者: 河井荃廬、仁賀保香城、土屋竹雨、吉田苞竹、川村驥山、松本芳翠、相沢春洋、上田桑鳩、松井如流、藤原楚水主幹、服部幾三郎三省堂出版部長代理、渋沢墨楼記者。(『書苑』14)

二九日 半風山観音寺本山での半風子まつりを参詣。(『書壇新報』45)

同月 松丸東魚、個展の相談のため来訪。(『印奴』3)

同月 松丸東魚個展を訪ねる(前出『印奴』3)

五月八日 日本橋の経済倶楽部にて『書苑』編集会議が開かれる。参加者: 河井荃廬、西川寧、江川碧潭、大沢雅休、池田古日、平尾白家、日下部道寿、藤原楚水主幹、渋沢墨楼記者。(『書苑』15)

六月一日 林朗庵来訪。(60)

七月一八日 『書苑』の口絵図版選定のため、麴町の高島槐安邸を訪ねる。参加者: 河井荃廬、西川吉羊、吉田苞竹、松本芳翠、小野鍾山、川村驥山、松井如流、柳田泰雲、藤原楚水主幹、渋沢墨楼記者。(『書苑』17)

八月二〇日 晚翠軒『清人隸書集』(二帙四本)の監修と刊行。

同年、翌年 東学社『國譯書論集成』(全一二巻)刊行。監修: 河井荃廬、中村不折、比田井天来。翻訳注解: 角田孤峰、伊藤如亭、野本白雲、平尾白家、角田秧村、小川静湖、高田桂下、梅園方竹、藤原楚水、真田収軒、三好凌石、西川寧、岡本素泉、池田古日、中村環樹、八幡関太郎。

一九三八年(昭和十三年) 戊寅 六八歳

五月一日 収蔵の「吳昌碩富貴神仙図」、「張照詩余」が掲載され、口絵解説を執筆。(『好古』創刊号・日本美術社)

一三日 興文社『支那墨蹟大成』(十巻、補遺一卷)を監修、収蔵品が掲載される。

六月一日 収蔵の「冒襄白菊詩」が掲載され、口絵解説を執筆。(『好古』2)

七月一日 収蔵の「細川林谷馬乳川を渡る図」が掲載され、口絵解説を執筆。(『好古』3)

二八日 収蔵品二一〇点の画人名、作品名、釈文等が掲載される。(原田尾山『日本現在支那名画目録』)

八月一日 収蔵の「趙之謙花卉図執扇」が掲載され、口絵解説を執筆。(『好古』4)

一〇月二二日 新井琢斎の息女、梅子の挙式に媒酌人として夫婦で列席。(『東亜書道新聞』79)

一二月一日 収蔵の「任伯年人物図」、「金爾珍山水図」が掲載され、口絵解説を執筆。(『好古』8)

一三日 林朗庵来訪。(61)

一九三九年(昭和十四年) 己卯 六九歳



『好古』創刊号(一九三八年 日本美術社)

「吳昌石と王一亭」(『書畫骨董雜誌』第三八七号 一九四〇年 書畫骨董雜誌社)

吳昌碩と王一亭

[illegible]

二月二日 收藏の「銭杜長廊飯僧」が掲載され、口絵解説を執筆。（『好古』9）

五月二日 林朗庵來訪。(62)

(45)

二月一八、二一日「缶廬先生十三週年追憶展」開催（主催：尚友会、会場：晩翠軒）。作品の選定と指揮にあたる

同月 興文社『増訂寰宇貞石圖』（全四冊）を監修。

一九四〇年（昭和十五年）庚辰 七〇歳

二月二〇日 己卯印会第二回総会開催。（『東亜書道新聞』109）

六月九日 林朗庵來訪。(64)

九月一日「吳昌碩と王一亭」を執筆。（『書畫骨董雜誌』387）

一九四一年（昭和一六年）辛巳 七二歳

三月一日 林朗庵來訪。(66)

二日 林朗庵來訪。(67)

四日 林朗庵來訪。(68)

四月三日 林朗庵來訪。(69)

七月三日 林朗庵來訪。(70)

八月二八日 林朗庵來訪。(71)

二月六日 林朗庵來訪。(72)

この年 小林庸浩（後の斗盦）、新井琢斎に伴われ来訪し門生となる。（73）（74）

一九四二年（昭和一七年）壬午 七二歳

二〇日 林朗庵來訪。(76)

六月一六日 林朗庵來訪。(77)



九月十五日 林朗庵来訪。(78)

十一月三日 「趙之謙逝世六十年展」（尚友会後援、於東京美術倶楽部）開催。收藏の書画刻印一三五点を陳列。
（趙搗叔先生遺作展覧会陳列目録『書苑』612）

三日 趙搗叔先生遺作展覧会を參觀。園田湖城と対談する。（『印印』81・同風印社）

二五日 林朗庵来訪。(79)

一九四三年（昭和十八年）癸未 七三歳

二月二八日 林朗庵来訪。(80)

一四日 大日本書道報国会に篆刻界も合流。（『東亜書道新聞』185）

六月一日 林朗庵来訪。(81)

七月四日 林朗庵来訪。(82)

九月一〇日 第一回朝聞会展參觀。於銀座画廊。手島右卿、川村驥山、松井如流、熊谷恒子、鈴木汪亭と集合写真。(83)

二七日 林朗庵来訪。傳雲龍『日本金石志』三冊を貸与する。（前出『朗庵過眼録』）

一九四四年（昭和十九年）甲申 七四歳

一月八日 林朗庵来訪。(84)

九日 林朗庵来訪。(85)

二月二六日 林朗庵来訪。(86)

一九四五年（昭和二〇年）乙酉 七五歳

この頃 当時「浩堂」であつた号に替え小林庸浩に「斗盞」を与える。(73)

一月二〇日 新橋蔵前会館において「陳曼生書画展観」を開催、收藏品十数点が陳列される。（『書品』11）。

三月一日 小林斗盞、自作を持参し来訪。(73)

一〇日 東京大空襲により自宅焼失。多年蒐集する万巻の珍籍・法書・名画が失われる。(87)

同日 荃廬の死が確認される。

同日 林朗庵来訪。(88)

三月二日 荃廬夫人、西川寧、松尾謙三、赤木邦輔（中西慶爾）、小林斗盞、被災した荃廬邸にて遺品を搜得す。(4)

一二日 林朗庵、松尾謙三、新井琢斎が焼跡を訪ねる。(89)

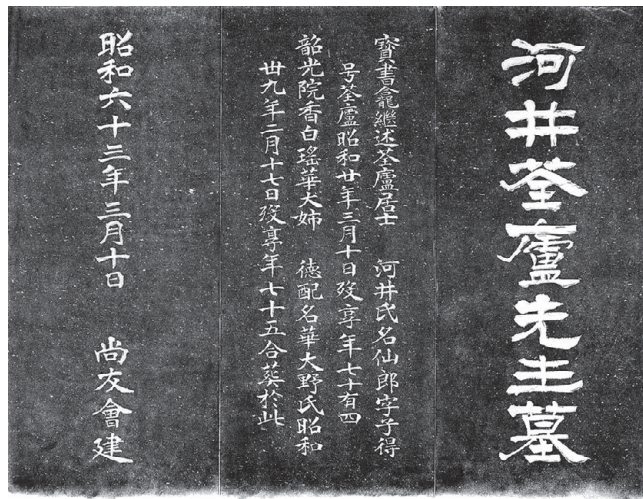
六月一六日 河井荃廬百ヶ日忌。遺骨は未亡人の手により京都市寺町今出川下ル清浄華院の塋域に埋葬される。法名

「無涯院空誓殉国荃廬居士」を園田湖城が揮毫する。（『印印』64）

一九四六年（昭和二十一年）丙戌 没後一年

一一月三日 尚友会編『二金蝶堂遺墨』刊行、荃廬旧蔵の趙之謙書画刻印一二二点を掲載。

河井荃廬先生墓拓本（前出『高芙蓉・河井荃廬両先生塋域完成記念冊』）



一九四七年（昭和二年）丁亥 没後二年

三月九日 東京芝増上寺にて三回忌法要が営まれ、記念品として印影ハガキ四枚（「荃廬先生三周忌辰追薦会記念」）が配布される。『先師荃廬先生刻印』（『継述堂印存』）が成譜される。（83）

八月 小林斗盞が河井章石より荃廬直筆の呉昌碩宛書簡草稿等を譲り受ける。（2）

一九五一年（昭和二六年）辛卯 没後六年

三月一日 京都河原町清浄華院御墓所にて荃廬七回忌法要が行われる。各地の印人が多数参加し、遺墨の展観、故人を偲ぶ座談会等を行う。（『印印』83）

この頃『荃廬先生印存』の計画が始まる。（4）

一九五六年（昭和三二年）丙申 没後一年

一二月二〇日『荃廬印譜』上下冊刊行（白紅社）。

一九五七年（昭和三三年）丁酉 没後二年

この年、「河井荃廬先生追薦会」が営まれ、河井荃廬の建墓が尚友会により発議される。（6）（83）
五月一日『近代書道グラフ』五号「河井荃廬篆刻集」刊行（近代書道研究所）。

一二月一〇日『荃廬印譜』続集刊行（白紅社）。

一九五八年（昭和三三年）戊戌 没後一三年

三月二二日『印奴』第一集「河井荃廬号」刊行（白紅社）。

一九七三年（昭和四八年）癸丑 没後一八年

四月『再続荃廬印譜』刊行（白紅社）。

一九七四年（昭和四九年）甲寅 没後一九年

四月 遺骨を清浄華院より東京に移す。（6）（83）

一九七六年（昭和五一年）丙辰 没後二十一年

三月三十一日 尚友会編『荃廬先生印存』刊行（二玄社）。

一九七八年（昭和五三年）戊午 没後二十三年

五月二五日 西川寧編『河井荃廬の篆刻』刊行（二玄社）。

一九八九年（平成元年）己巳 没後三十四年

一〇月一日 東京港区虎ノ門三丁目の天徳寺に印聖高芙蓉の墓石と並んで河井荃廬の墓が建立。法名を「宝書龕繼述荃廬居士」と改める。（6）（83）

〈年表作成の典拠とした主要出版物・原文〉 ＊通し番号は、年表中の（ ）付き番号と対応している。

（1）須羽源一「河井荃廬翁の生いたちとその学問」中田勇次郎『日本の篆刻』一九六六年・二玄社

- (2) 西川寧『河井荃廬の篆刻』一九七八年・二玄社
- (3) 松丸東魚『河井荃廬略伝』『印奴』第一集・一九五八年・白紅社
- (4) 尚友会編『荃廬先生印存』一九七六年・二玄社
- (5) 平野宣東編『平安紀念印集』一九九五年
- (6) 『高芙蓉・河井荃廬 両先生塋域完成記念冊』一九八九年・尚友会
- (7) 『書論』第三二号・二〇〇一年・書論編集室
- (8) 川内伯豊「杭州で発見 河井荃廬印譜『日本何井僊郎印譜』」『書道会』二〇一五年七月号・藤樹社
- (9) 丁輔之『鶴廬老人遺印』二〇一一年・西泠印社出版社
- (10) 『近代四家印選』二〇〇六年・扶桑印社
- (11) 羅振玉「扶桑両月記」『羅振玉學術論著集』第十一集・羅繼祖主編・二〇一三年・上海古籍出版
- (12) 「河井荃廬訪中日記」『書論』第三〇号・一九九八年・書論編集室
- (13) 佐藤祐豪編『現代書作家生年別名鑑』一九五八年・六合書房
- (14) 『西泠印社展』一九八八年・読売新聞社
- (15) 『西泠印社志稿』一九五七年・西泠印社
- (16) 「訳注西泠印社記」『中国近現代文化研究』第六号・二〇〇三年・中国近現代文化研究会
- (17) 北川博邦「新聞紙上の篆刻欄」『近代日本の書』一九八四年・芸術新聞社
- (18) 松村茂樹『吳昌碩研究』二〇〇九年・研文出版
- (19) 中西慶爾『比田井天来伝』一九八六年・木耳社
- (20) 近藤高史編『明治・大正・昭和書道史年表』一九八五年・木耳社
- (21) 「回顧 河井荃廬氏に聴く 談書会、書勢の思出」『書道新聞』第二〇号・一九三五年・書道新聞社
- (22) 中西慶爾『日下部鳴鶴伝』一九八四年・木耳社
- (23) 羅振玉「扶桑再遊記」前出『羅振玉學術論著集』第十一集
- (24) 「三村竹清日記 不秋草堂日曆(一)」『演劇研究』第一六号・一九九三年・早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
- (25) 「翻刻『春城日誌』(二〇)——『双魚堂起居注』大正二年一月〜六月——」『早稲田大学図書館紀要』第五〇号・二〇〇三年・早稲田大学図書館
- (26) 前出「不秋草堂日曆」の(二)、第一七号・一九九四年
- (27) 同右の(三)、第一八号・一九九五年
- (28) 同右の(四)、第一九号・一九九六年
- (29) 同右の(五)、第二〇号・一九九七年
- (30) 同右の(六)、第二一号・一九九八年
- (31) 同右の(七)、第二二号・一九九九年
- (32) 富田淳「槐安居コレクションと聴水閣コレクション——高島菊次郎氏と三井高堅氏——」『関西中国書画コレクションの過去

と未来』二〇一二年・関西中国書画コレクション研究会

- (33) 前出「不秋草堂日曆」の(九)、同誌第二四号・二〇〇一年
- (34) 同右の(一〇)、第二五号・二〇〇二年
- (35) 同右の(一一)、第二六号・二〇〇三年
- (36) 同右の(一二)、第二八号・二〇〇五年
- (37) 同右の(一四)、第二九号・二〇〇六年
- (38) 同右の(一五)、第三〇号・二〇〇七年
- (39) 同右の(一七)、第三二号・二〇〇九年
- (40) 松丸長「解説」『荃廬印譜』下冊・一九五六年・白紅社
- (41) 前出「不秋草堂日曆」の(一八)、第三三号・二〇一〇年
- (42) 同右の(一九)、第三四号・二〇一一年
- (43) 西嶋慎一「広風姿花伝Ⅱ」⁴⁶ 吉田苞竹2 戊辰書道会陳列参考品『大東書道』二〇一九年五月号・大東文化大学書道研究所
- (44) 下田章平「菊池惺堂日記第二冊」『中国近現代文化研究』第二〇号・二〇一九年・中国近現代文化研究会
- (45) 『平凡社六十年史』一九七四年・平凡社
- (46) 佐藤祐豪『東方書道会史』一九八四年・六合書房
- (47) 松本芳翠『臨池六十年』一九六二年・二玄社
- (48) 佐藤祐豪編『現代書作家生年別名鑑』一九五八年・六合書房
- (49) 前出「不秋草堂日曆」の(二四)、第三九号・二〇一五年
- (50) 同右の(二五)、第四〇号・二〇一六年
- (51) 同右の(二六)、第四一号・二〇一七年
- (52) 董康『書舶庸譚』卷七・二〇一三年・中華書局。「傍晚、野本偕村田来、約赴緑風荘夜宴、順道為田中賀年、欲拉同行、辭以小恙。緑風荘為日本式之支那料理、長廊広畳、令人心曠神怡。河井仙郎繼至、此君工鉄筆、屢客海上、為雪堂叟之旧友。久耳其名、曾用高寸許之田白託京都書友巧巧其刻篆、嗣其人身故、無從查詢。今因年齡高、刻印謝不作矣。評論當代書画家、多与余合、尤不以吳昌碩派為然、可見賞鑑自有真也」。
- (53) 林熊光著述・高峰編集・林昌子校閲『朗庵過眼録』二〇一七年・神保町摩訶書林。「到河井先生処將硯拓本囑其鑑定取捨」。
- (54) 同右。「訪河井先生上海金君寄鄰露寄天風吹夜泉硯及馮登府拓本題跋冊来」。
- (55) 同右。「午後再訪河井先生函金君鄰硯出価三百五十円」。
- (56) 藤原楚水『図解書道史』第一卷月報・一九七一年・省心書房
- (57) 前出『朗庵過眼録』。「夜訪河井荃廬先生適上海金君亦来」。
- (58) 権田瞬一「河井荃廬旧蔵中国書画目録稿」『大東書道研究』第十八号・二〇一〇年・大東文化大学書道研究所
- (59) 前出『朗庵過眼録』。「早到河井先生処觀金氏寄售書画有張大風人物高其佩筆画人物頗佳」。
- (60) 同右。「三時半赴晚翠軒山本次峰中村不折河井仙郎諸先生均在觀不展之宋元書画冊真偽相雜可惜借董其昌仿楊昇峒関蒲雪図

及張照梅花」。

- (61) 同右。「午後訪文求堂以四百八十金購趙之謙雙鉤漢碑一冊又訪河井先生以趙冊以示之極喜云欲複製云」。
- (62) 同右。「大兄送鄭板橋書代一五〇金來飯後訪河井先生看蒲作英遺印三十余顆材太壞」。
- (63) 同右。「午後訪河井荃廬先生雜談復見化度寺碑河井先生似未贊許」。
- (64) 同右。「午後に河井家示以石谷冊大為贊賞」。
- (65) 同右。「訪河井先生談發行印譜雜誌事」。
- (66) 同右。「午後赴河井先生處示以劉松年卷云李東隅跋非真還川合劉卷」。
- (67) 同右。「午赴晚翠軒河井先生為主山崎常盤井上諸君唱白社將發行欣賞」。
- (68) 同右。「赴河井先生處交其影印及掲載書畫材料前將軍印先生云雖不是偽恐是六朝末辺地之物也」。
- (69) 同右。「下午訪河井先生示以異魚図卷」。
- (70) 同右。「下午訪河井先生示以漢印惟公孫姓璽一顆云有研究価値云々」。
- (71) 同右。「午後河井先生商起藁日本現存唐宋名家墨迹事」。
- (72) 同右。「早訪荃廬示以原稿受其注意添增唐摹右軍大令帖數種及米四帖一種」。
- (73) 『小林斗盒篆刻作品集』一九七五年・谷川商事株式會社
- (74) 『斗盒印選』一九九八年・北斗文會
- (75) 前出『朗庵過眼録』。「午後訪河井先生留示鄧完白印云或不仮取歸胡鼻山印」。
- (76) 同右。「早訪河井先生示以蔡忠惠冊云雖未敢言的真然亦不可輕棄」。
- (77) 同右。「早訪河井仙郎先生交給呂西村伝藁并參考品示稻垣君托鑑定之印二対云乃其師篠田芥津為大谷勝尊師所刻者午稻垣君來還其印沼尻來交与江藤君所托改綾之弘画外下文瑜石庵冊齊白石小幀等改綾」。
- (78) 同右。「訪河井先生取回鄧完白印先生鑑定是真」。
- (79) 同右。「晚至河井先生處趙画仍是文画趙題者非之謙筆」。
- (80) 同右。「在山本書店候稻垣君來同至河井先生處稻垣君以其藏大谷氏遺印求其鑑定」。
- (81) 同右。「十時稻垣君來同訪河井先生代稻垣君託先生作篠田芥津印譜事」。
- (82) 同右。「九時半稻垣君來同其訪河井先生借贖村硯歸石有罨中溶蓋有張叔未銘細看恐是覆刻者也」。
- (83) 西嶋慎一『風姿花伝 書をとりまく100の回想』二〇一五年・芸術新聞社
- (84) 前出『朗庵過眼録』。「午後訪河井先生適臥病不晤與讓之硯求其鑑定」。
- (85) 同右。「早稻垣君來同訪河井先生仍適臥病不晤與讓之硯求其鑑定」。
- (86) 同右。「午後訪河井先生還紀曉嵐大冊子借遺集」。
- (87) 「現代の巨匠」②小林斗盒『墨』第五九号・一九八六年・芸術新聞社
- (88) 前出『朗庵過眼録』。「早至九段河井先生處近隣均成焦土先生焚死道傍可憐可哀屍由区役所人収檢夫人外唯余一人在傍助其夫人搬物至曹秋舫宅顔寓火至隔壁而止幸無恙」。
- (89) 前出『朗庵過眼録』。「午后至河井先生燒跡逢松尾新井両君」。

おわりに

これまでに荃廬の生涯にわたる業績を総括したものととして、須羽源一「河井荃廬翁の生いたちとその学問」、西川寧「河井荃廬先生のこと」（『書品』七八号・一九五七年・東洋書道協会）、小林斗盦「河井荃廬展の開催に当って」（『河井荃廬展』一九九五年・篆刻美術館）がある。また、刻印における作風の変遷についても日中の研究者によって論じられてきた。

稿者は、今回の事績整理と年譜作成により、荃廬の業績は以下の六期に分類できると考える。

第一期 一八八九年（二九歳）～一九七年（二七歳）

最も多作な時期である。若年時の集中力をもつて数多くの印を刻している。当時流行していた徐三庚や趙之謙の作風を目にし、その刻風を習得しようとする熱気に溢れていた時期といえる。

第二期 一八八八年（二八歳）～一九〇二年（三二歳）

呉昌碩との交流にみられる清国の印人への憧憬と西泠印社への参画に注力していた時期といえる。

第三期 一九〇三年（三三歳）～一九〇九年（三九歳）

東京に居を移し、篆刻の普及に励む。新聞『日本』や後継の『日本及日本人』において篆刻作品の選定と掲載、作品に対する講評を行い、篆刻の見方や刻印への古典の応用の仕方等、短文ながら作品の要諦を示した。また、丁未印社や明治印学会を創設し篆刻の啓蒙に努める。

第四期 一九一〇年（四〇歳）～一九二九年（五九歳）

『書苑』、『書道及畫道』、『談書會誌・談書會集帖』、『書勢』、『藝苑』などに収蔵品を提供し、いくつもの雑誌を介して書壇に中国書画の名品を普及すべく奔走していた時期といえる。加えて、これらの雑誌に篆刻（印章）に関する著述を寄稿するなど斯界の発展に寄与している。

第五期 一九三〇年（六〇歳）～一九三四年（六四歳）

戦前版『書道全集』をはじめ、平凡社から出版された多くの書道関係書籍の監修者として名をつらね、

同社の雑誌『書藝』での四回にわたる座談会では威容すら感じさせる。書道界の要職にも就き、書壇印壇を先導していく。

第六期 一九三五年（六五歳）～四五年（七五歳）

編集顧問を務める『書苑』（主幹は藤原楚水）が刊行された頃で、自身の收藏品や書字を同誌を介し、日本に浸透させるために情熱を傾けていた時期といえる。また、『好古』で骨董界、『南畫鑑賞』で画壇といった書壇印壇以外にも中国書画の浸透を促すべく尽力していた。

以上、可能な限り荃廬の事績を探索、整理し年譜の作成を試みた。もちろん遺漏や誤謬も多々あろう。それら反省点を踏まえ、今後は、さらに日本だけでなく中国における足取りと交友関係を詳細に調査し、荃廬の人物像を浮かび上がらせていきたい。

〈河井荃廬著作目録〉

○著述・談話（文章、談話、撰文、解説）

- 「篆刻」『篆刻当選』『日本』一九〇五～〇七年・日本新聞社
- 「鉄筆一斑」「帛魚鱗」『日本及日本人』一九〇七～〇九年・政教社
- 「篆刻瑣言」『日本及日本人』一九〇八～〇九年・政教社
- 「続書論是非 不折氏の「書談」を讀みて」『手紙雜誌』第八卷第一号・一九〇七年・手紙雜誌社
- 「書談を讀みて」『繪畫叢誌』二六一号・一九〇九年・東洋繪畫會
- 「篆刻瑣言 丁敬」『日本及日本人』第五〇二号・一九〇九年・政教社
- 「篆刻瑣言 蔣仁・黃易」『日本及日本人』第五〇三号（前出同年）
- 「篆刻瑣言 奚岡・陳豫鍾」『日本及日本人』第五〇四号（前出同年）
- 「篆刻瑣言 陳鴻寿・趙之琛」『日本及日本人』第五〇五号（前出同年）
- 「篆刻瑣言 錢松」『日本及日本人』第五〇六号（前出同年）
- 「篆刻瑣言 摹印述一～十四」『日本及日本人』第五一四～五二七号（前出同年）
- 「書画に於ける篆刻の調和」『日本美術』一二一号・一九一一年
- 「宋拓戲魚堂帖」『繪畫叢誌』二八九号・一九一一年・東洋繪畫會
- 「序文」『印章備正』山田寒山校訂・一九一二年・民友社
- 「印章の來歴」『美術之日本』八一三・一九一六年・審美書院
- 「印章の沿革（中井敬所稿・河井荃廬訂）」『書道及畫道』一二・一九一六年・書道及畫道社

「印章瑣談」『書畫骨董雜誌』一一三号・一九一七年・書畫骨董雜誌社
 「書・画・篆刻三絶」『書道』一一・一九二八年・日本書道作振會
 「篆刻の沿革及現状」『書道名鑑』一九二八年・美術日報出版部
 「翁と十七帖」『書契』二卷四号・一九三二年・泰麓書道會
 「書聖弘法大師を語る」『書藝』第三卷第十号・一九三三年・平凡社
 「篆刻を語る」『書藝』第三卷第十一号（前出同年）
 「支那趣味座談會」『書藝』第四卷第二号・一九三四年・平凡社
 「楊守敬を語る座談會」『書藝』第四卷第十一号（前出同年）
 「創刊の言葉 万難を排して」『書道新聞』第一号・一九三四年・書道新聞社
 「清朝南畫家之一瞥」『南畫鑑賞』第四卷四月号・一九三五年・南畫鑑賞會
 「回顧 河井荃廬氏に聴く 談書會、書勢の思出」『書道新聞』第二十号・一九三五年・書道新聞社
 「京都時代 河井荃廬翁のむかし話（上）」『書壇新報』第六号・一九三五年・書壇新報社
 「渡支前後 河井荃廬翁のむかし話（下）」『書壇新報』第七号（前出同年）
 「石涛に就いて・疑点二題」『南畫鑑賞』第四卷十月号（前出同年）
 「千字文考正」卷頭言二種（孫呂吉謙益原注・茅原東学刪定并訳文）一九三六年・東学社
 「支那名畫寶鑑の出現」『學鐙』十一月号・一九三六年・丸善株式会社
 「作品解説」『好古』一九三八〜三九年・日本美術社
 「吳昌碩と王一亭」『書畫骨董雜誌』三八七号・一九四〇年・書畫骨董雜誌社

○編・共編・監修

『亀甲獸骨文字』全二卷・一九一八年・法書會出版部
 『書道全集』全二十七卷・一九三〇〜三二年・平凡社
 『和漢名家習字本大成』全四十二冊・一九三三〜三五年・平凡社
 『弘法大師真蹟全集』全十八卷・一九三四〜三五年・平凡社
 『和樣手本大成』全十二函二十四帖・一九三四〜三五年・平凡社
 『書道全集』（和装）全二十六卷・一九三五〜三六年・平凡社
 『支那名畫寶鑑』一九三六年・大塚巧藝社
 『千字文十種』全七函十四冊・一九三六〜三七年・平凡社
 『支那南畫大成』十六卷・一九三五〜三六年・興文社
 『同解説』六卷・一九三五〜三六年・興文社
 『同續集』三卷・一九三六〜三七年・興文社
 『同補遺』一卷・一九三六〜三七年・興文社

『國譯書論集成』全十二卷・東学社・一九三七～三八年
『支那墨蹟大成』全十二卷・一九三七～三八年・興文社
『增訂寰宇貞石圖』全四冊・一九三九年・興文社
『書體大字典』全十二卷・一九三九～四〇年・平凡社
『談書會誌・談書會集帖』全百号・一九〇九～二七年・談書會
『大東美術』全十二冊・一九二五～二七年・大東美術振興會
『支那名家墨蹟』全三冊・一九三四～三六年・晚翠軒
『清人隸書集』全四冊・一九三七年・晚翠軒
『書苑』全八十四冊・一九三七～四四年・三省堂

〈収藏品掲載雑誌—図版提供を行ったもの—〉

『東洋藝術 名品綜覧』美術資料刊行会
『書道及畫道』書道及畫道社
『談書會誌・談書會集帖』談書會
『書苑』法書會
『書勢』大同書會
『藝苑』帝国美術社
『書藝』平凡社
『美術寫真畫報』博文館
『興亜書報』興亜書道聯盟
『南畫鑑賞』南畫鑑賞會
『好古』日本美術社
『詩書畫』談藝社
『書苑』三省堂

【附表 1】荃廬の刻印

西暦	年齢	月日 (季節)	印文	辺款・識語
1891	21	1.17	熊谷家印 (朱文)	川井得
1892	22	5	朴泳孝印 (白文) 瓠船 (朱文)	川井得
		初夏	朴泳孝印 (朱白相間印) 子純氏 (朱文) (両面印)	〈莚生河井仙郎〉
		7	雲窓之印 (白文) 伊東氏 (朱文) 大塊仮我 (白文)	荃楼川井得
		8	臣卯兵衛 (白文) 山子春氏 (朱文) (両面印)	〈仙郎〉
		9	伊奈波神社々務所之印 (朱文) 伊奈波神社会計係印 (朱文)	(識語の筆跡より)
		10.7	岡田釧印 (白文) 雪堂 (朱文)	川井得
		10	朴小菴 (朱文)	荃楼川井得
		〃	巖谷修印 (白文)	〈川井得〉
		〃	金栗道人 (朱文)	〈荃楼作〉
		〃	長耳 (朱文)	〈仙郎〉
		〃	塩谷其印 (白文)	〈川井得〉
		〃	子華 (朱文)	〈仙楼作〉
		11	清白家風 (朱白相間印)	〈荃楼〉
		〃	有情痴 (白文)	〈荃楼作〉
1893	23	11	公敬私印 (白文) 子華 (朱文)	〈得〉〈荃楼〉
		12 下	大谷勝真 (白文) 翠芳 (朱文)	〈川井得篆〉〈荃楼作〉
		12	朴泳孝印 (朱白相間印) 子純印 (朱文) 紹隆三宝 (朱文)	川井僊郎
1895	25	6	小衰 (朱文)	荃楼生
		10	春犁 (朱文)	〈荃楼〉
		〃	布袋盒 (朱文)	荃楼生作
		11 下	晃印 (白文) 九華 (朱文)	荃楼
1896	26	2	熊谷直之 (朱白相間印) 直之 (朱文)	荃楼得刻
		5 上	文求堂 (朱文)	〈荃楼作〉
		5 下	妙心寺派議事前田誠節 (朱文) 妙心寺派議事積等顧章 (朱文)	井得、刻於今是艸堂
		5	妙心寺派執事関鉄堂印 (朱文) 妙心寺派執事稲葉元厚 (朱文)	作於今是艸堂、荃楼得
		7 下	凌霜盒 (朱文)	荃楼河井得
		7	晦堂 (朱文)	荃楼生、作於今是艸堂
		8 中	北米州文人武威印 (朱文)	荃楼生作
		8	北米州文人武威印 (朱文)	日本河井得刻
		〃	(平野宜東住所印)	荃楼生、擬魏始平公造象記
		9 望	金栗 (朱文) 古樸 (朱文)	荃楼得
		9 中	一六居士 (白文) 古梅 (朱文)	河井得
		10 上	碧泉 (朱文)	荃楼生、作於今是艸堂
		10	易堂 (朱文)	荃楼生得
		〃	鼎印 (白文) 易堂 (朱文) (連珠印)	〈得〉
		〃	森川英絢 (朱白相間印)	〈得〉
		〃	全国絵画共進会々頭印 (朱文)	荃楼生得
		〃	方竹山房 (朱文)	(為書の筆跡より)
		〃	新町三井家 (朱文、楷書)	荃楼生、河井得作
		10 下	竹泉 (朱文)	荃楼生得作
		11	許身奉国 (白文)	〈弟仙郎并拝〉
		〃	暗中出牛 (白文)	〈荃楼更刻〉
		11 下	阪本登字香升 (白文) 泰山生 (朱文)	荃楼生作
		12	景年 (朱文)	荃楼生得
		〃	片岡政印 (朱白相間印) 三軒居士 (朱文) 醉禪 (朱文)	荃楼得
1897	27	1.1	鳩居 (朱文、楷書)	荃楼得
		2.3	下邨郷印 (白文) 柳外書画 (朱文)	〈河井得〉
		2 下	巖谷一六 (朱文、楷書)	荃楼河井得
		〃	邨連吉 (朱文、楷書)	荃楼河井得
		3.5	(手島知徳住所印)	荃楼河井得
		3 中	全国絵画共進会幹事印 (朱文)	荃楼得作

		3	虹外（朱文、楷書）	〈荃廬〉
		〃	今井兼正（白文） 碧泉生（朱文）	作於忘荃樓、井得
		3下	源雅文印（白文） 子文甫（朱文）	荃廬河井得
		4.4	画神堂（朱文）	〈荃廬得作〉
		4.6	址（朱文）	荃廬生
		首夏	今尾景年（朱文）	荃廬河井得
		4下	寛道（白文） 不孤庵（朱文）	荃廬河井得
		5 初吉	審査長岡倉寛三（白文）	河井得
		仲夏	柳外翰墨（白文） 田寛之印（朱文）	荃廬河井得
		〃	孝嶺（白文）	荃廬河井得
		〃	前川長印（白文） 孝嶺所画（朱文）	忘荃廬主人、得
		観蓮節	聖華房（朱文）	忘荃廬主人、得
		〃	无我（朱文）	荃廬河井得
		〃	景年（朱文）	荃廬河井得
		6	正四位勳三等巖谷修（白文） 貴族院議員錦鶏間祇候（朱文）	河井得
		〃	貞字子堅（白文） 雲外生（朱文）	荃廬河井得
		夏日	鶴伴堂（朱文）	作於忘荃樓、得
		〃	愚庵（朱文、楷書）	〈荃廬河井得〉
		除夕	万卷堂記（朱文、楷書）	荃廬
1898	28	1	鉄眼（白文） 愚闇（朱文）	〈得〉〈荃廬作〉
		〃	吉井新印（朱白相間印） 李傒（朱文）	〈河井得〉〈荃廬生〉
		3	星舫（朱文）	〈知幻道人、河井得、作於忘荃廬〉
		首夏	旭野坐章（白文） 懐成学僭（朱文） 上善如水（白文）	河井得、作於忘荃樓
		6	妙心五百六十又九世（朱文）	〈荃廬〉
		〃	暉月画印（朱文）	知幻道人、河井得、作於忘荃樓
		中秋前一日	日下東作（白文） 子暘（朱文）	荃廬河井得
		9	鳩居堂制香場（朱文）	〈荃廬作〉
		10	松雲堂（朱文）	〈荃廬〉
		11.5	容安（朱文） 讀陶軒（白文）	荃廬河井得
		嘉平月	曾信舜台（朱白相間印） 青城道人（朱文） 毋多言（白文）	荃廬河井得
		〃	妙心寺派総鑑普通学林（朱文） 妙心寺派普通学林総鑑之章（朱文）	荃廬生、河井得
		12	容安軒主（白文） 蹟陶詩舍主人（朱文）	知幻道人、得
1899	29	立春後三日	勝尊之印（白文）	荃廬得
		暮春	楳白松青会印（朱文）	荃廬河井得
		5.8	武徳（白文）	荃廬
		5.28	全国絵画共進会審査長之印（朱文）	荃廬河井得
		6 中	衆緑会印（朱文）	荃廬河井得
		観蓮節	河邨寧印（白文） 子遠（朱文）	（識語の筆跡より）
		7.17	吉岡脩印（白文） 華堂（朱文）	荃廬河井得
		7	（峰岸周南住所印）	〈荃廬作〉
		8	日下東作長寿（白文） 老鶴（朱文）	〈河井得并記〉 〈荃廬作、於六不刻菴〉
		桂月	悠然棲図書記（朱文）	菴生河井仙郎、作於六不刻菴
		秋杪	峨山門迹（朱文）	孫廬河井得刻
		12.21	静中天趣（朱文）	荃廬記
		〃	悠然樓（朱文）	荃廬河井得
		12.25	饅春館印（朱文）	荃廬河井得
		12	二休道人（朱文）	〈荃廬〉
		〃	丁亥出家（朱文）	〈作於六不刻菴、菴生〉
1900	30	清明節	金谷（朱文）	（識語の筆跡より）
		4	神田醇子醇氏（朱文）	〈作於亡荃廬、河井仙郎〉 作於亡荃廬、菴生河井仙郎
1901	31	春初	曼宣（朱文）	〈荃廬作〉
		4	尚樹（朱文）	西京河井仙郎作
		5	高堅之印（白文） 達卿（朱文）	荃廬作
		〃	汲古子（白文）	〈作於聴水閣、荃廬〉
		仲夏	岳陽（朱文）	作於六不刻菴、荃廬

		(干支のみ)	高堅印信 (朱文)	〈荃廬擬漢印〉
		10	高堅印信 (白文)	〈河仙郎作〉
		11.8	仙郎印 (白文)	〈荃廬自作、戊戌五月、辛丑十一月初八補〉
1902	32	6	鉄頑 (白文) 愚闇 (朱文) (両面印)	〈荃廬〉
		7	敬円之印 (白文) 融照 (朱文) (両面印)	〈河逸作両面印〉
1903	33	10	東作之印 (白文) 埜鶴 (朱文) 用生為熟 (朱文)	〈河仙郎刻〉〈荃廬〉〈荃廬〉
		〃	三井高堅持贈 (朱文)	〈荃廬〉
		〃	達卿持贈 (白文)	〈作於孤松亭、仙郎〉
1904	34	1	三井高堅持贈 (朱文)	〈仙郎作〉
		〃	正臣 (朱文)	〈仙郎〉
		2	自適齋珍藏記 (朱文)	〈荃廬〉
		4	一片氷心 (朱文)	〈荃廬〉
1905	35	6.29	宝書 (朱文)	〈乙巳六月念九〉
1908	38	1	園城後学 (朱文) 伝持三宗吉羊金剛敬円之章 (白文) (両面印)	〈河逸〉
		6	河井 (朱文)	〈戊申六月〉
1909	39	2	西川鉄印 (朱白相関印) 萱南 (朱文)	〈河逸〉〈荃廬〉
1910	40	3	立憲国民冀本部之印 (朱文)	〈荃廬作〉
		5	敬円融照 (白文) 恒游月輪中 (朱文) (両面印)	〈荃廬作両面印〉
		10	敬円之印 (白文) 融照 (朱文) (両面印)	〈仙郎〉
1911	41	7	松田正久 (白文)	〈仙郎作〉
1914	44	3	玄同 (朱文)	〈荃廬〉
1915	45	6	守明之印 (朱文)	〈荃廬居士〉
		10	竹窓留月夜平詩 (白文)	〈荃廬〉
1916	46	3	熏字万春 (白文) 榛開卷石 (朱文)	〈遷〉〈荃廬〉
		5	源護立印 (白文) 晴川 (朱文) 穆如晴風 (朱文引首印)	〈河遷刻〉〈荃廬〉〈九節〉
1919	49	6	大塚小印 (白文) 衣浦漁民 (朱文)	〈河遷刻〉〈荃廬〉

- 1) 刻印制作の年月・季節等が明確なものを『荃廬先生印存』より抽出した。
- 2) 月日の表示において、「下」以下は日を、「上」は上旬を、その他は二十四節気などを表わす。
- 3) 辺款・識語は荃廬の姓名・字・号や刻した場所を表わす一節のみ抽出した。
- 4) 辺款には〈 〉を附した。

【附表2】『日本』『篆刻』『当選篆刻』欄での別号と当選者、『日本及日本人』『篆刻募集』『鉄筆一斑』『帛魚鱗』の当選者

西暦	年齢	月日	別号 / 連載	当選者名	誌名・号数
1905	35	7.15	幻道人	東京・村田蔚堂	『日本』5739号
		18	〃	近江・仏骸生	同5742号
		20	〃	近江・仏骸生	同5744号
		21	〃	越後・川村松一郎	同5745号
		22	〃	越後・小林鮮哉、美濃・水野有次	同5746号
		8.12	〃	伊勢・桃沢如水	同5767号
		17	〃	羽後・松田雲臥	同5772号
		19	蒼羊子	下野・伊矢野杏堂	同5774号
		21	幻道人	尾張・岩堀巨僊	同5776号
		22	〃	陸中・香雪生	同5777号
		24	蒼羊子	東京・高畑翠石	同5779号
		26	幻道人	信濃・八幡郊処	同5781号
		9.13	〃	東京・村田蔚堂	同5797号
		15	〃	東京・助川夢湘	同5799号
		17	〃	下総・八木杏邦	同5801号
		19	〃	備前・片岡高立	同5803号
		21	〃	美濃・水谷華山	同5805号
		24	〃	美作・横山古硯	同5810号
		26	〃	尾張・岩堀巨僊	同5812号
		28	蒼羊子	(無記名)	同5817号
		10.3	幻道人	常陸・久保巴篋	同5820号
		6	〃	東京・香遠居士	同5827号
		15	〃	紀伊・鈴木三重子	同5829号
		17	〃	武蔵・松井豊次郎	同5831号
		21	〃	越後・方壺道人	同5835号
		25	〃	京都・野田盛吉	同5839号
		27	〃	横浜・山本雨石	同5841号
		29	蒼羊子	土佐・島崎雪泉	同5843号
		11.1	幻道人	東京・稲葉青瀾	同5846号
		4	蒼羊子	東京・江守柏舟	同5849号
		6	〃	岩代・大橋臥江	同5851号
		18	幻道人	仙台・浦川蹈香	同5861号
		22	〃	下総・八木杏邨	同5867号
		26	〃	備前・片岡高立	同5871号
		28	〃	紀伊・鈴木鬼水	同5873号
		30	〃	羽後・渡辺五車	同5875号
		12.2	〃	武蔵・本田永年	同5877号
		4	〃	下野・佐藤大年	同5879号
		6	〃	東京・菊池修軒	同5881号
		11	〃	東京・小林素江	同5886号
		13	〃	東京・田口逸所	同5888号
		16	〃	横浜・山本不大	同5891号
		19	〃	備前・小橋吟瘦	同5894号
		22	〃	仙台・内藤宕山	同5897号
		23	〃	信濃・八幡郊処	同5898号
		25	〃	東京・村田蔚堂	同5900号
		27	〃	備前・片岡萱	同5902号
		29	〃	東京・菊池惺堂	同5904号
1906	36	1.8	忘荃子	東京・蘇香生	同5914号
		9	〃	備前・片岡高立	同5915号
		11	幻道人	遠江・村松雨石	同5917号
		16	忘荃子	東京・慶応生	同5922号
		18	〃	紀伊・鈴木鬼水	同5924号
		22	幻道人	甲斐・堀内松堂	同5928号
		24	〃	仙台・鈴木随雲	同5930号
		27	忘荃子	東京・星石道人	同5933号
		2.8	〃	東京・黙鳳道人	同5945号

		11	〃	東京・猿渡告水	同 5948 号
		12	幻道人	備前・片岡重	同 5949 号
		16	〃	信濃・萩野露舟	同 5953 号
		19	〃	岩代・一円井素十	同 5956 号
		22	〃	讃岐・黒木欣堂	同 5959 号
		25	玄道人	信濃・八幡効処	同 5962 号
		3.21	幻道人	常磐・相川益所	同 5986 号
		22	〃	東京・小野崎気仙	同 5987 号
		25	〃	東京・村田蔚堂	同 5990 号
		27	〃	西京・脇田氷山	同 5992 号
		29	〃	東京・化蝶庵主	同 5994 号
		7.2	〃	横浜・山本雨石	同 6089 号
		3	〃	紀伊・福本一瓢	同 6090 号
		10	〃	東京・高畑翠石	同 6097 号
		11	〃	西京・脇田氷山	同 6098 号
		12	〃	紀伊・鈴木鬼水	同 6099 号
		14	〃	武蔵・石井雙石	同 6101 号
		23	〃	信濃・八幡郊処	同 6110 号
		8.19	〃	武蔵・石井雙石	同 6137 号
		26	〃	日向・奥邨竹亭	同 6144 号
		10.14	〃	日向・奥邨竹亭	同 6193 号
1907	37	1.15		備前・小橋吟瘦 日向・奥村竹亭	『日本及日本人』451 号
		2.15		東京・小野崎気仙 京都・脇田氷山	同 453 号
		3.15		宮崎・奥村竹亭 東京・村田蔚堂	同 455 号
		4.15		東京・待賈居士 紀伊・北條万山	同 457 号
		6.15		東京・村田蔚堂 東京・土井梅堂	同 461 号
1908	38	10.1	「篆刻瑣言」連載開始	甲府・山内退思	同 493 号
		10.15	〃	越後・高橋樞堂 東京・梨岡素岳	同 494 号
		11.1	〃	近江・多羅尾物外 甲府・山内退思	同 496 号
		15	〃	東京・破悶居士 甲府・山内退思	同 497 号
		12.1	〃	東京・吉村楽軒 東京・松田夢雲	同 498 号
		15	〃	東京・藤原欣哉 東京・蠣崎広之	同 499 号
1908	39	1.1	〃	甲府・山内退思 西京・脇田氷山	同 500 号
		15	〃	甲府・山内退思 東京・藤原欣哉	同 501 号
		2.1	〃	東京・黙鳳道人 東京・村田蔚堂	同 502 号
		11	〃	東京・破悶居士 東京・蠣崎広之	同 503 号
		3.1	〃	神戸・太田夢庵 近江・多羅尾物外	同 504 号
		15	〃	東京・助川夢湘 甲府・山内退思	同 505 号
		4.1	〃	東京・破悶居士 甲府・山内退思	同 506 号
		7.1	〃	神戸・太田夢庵 東京・藤原欣哉	同 512 号
		15	〃	甲府・山内退思 信濃・八幡郊処	同 513 号
		8.1	〃	東京・蠣崎広之 東京・寺町滄水	同 514 号
		15	〃	甲府・山内退思 信濃・八幡郊処	同 515 号
		9.1	〃	東京・松田夢雲 東京・寺町蒼水	同 516 号
		15	〃	東京・学古道入 京都・脇田氷山	同 517 号
		10.1	〃	備前・小橋吟瘦 台南・沢谷星橋	同 518 号
		15	〃	備前・小橋吟瘦 東京・塩冶蘇江	同 519 号
		11.1	〃	甲府・山内退思 東京・破悶居士	同 520 号
		15	〃	東京・学古道入 名古屋・野田盛	同 521 号
		12.1	〃	甲府・山内退思 備前・小橋吟瘦	同 522 号
		15	〃	備前・小橋吟瘦 東京・松田夢雲	同 523 号
1910	40	1.1	〃	東京・学古道入 甲府・山内退思	同 524 号
		15	〃	宮崎・奥村竹亭 東京・村田蔚堂	同 525 号
		2.1	〃	山城・田中観水 東京・酒井支山	同 526 号
		11	〃	東京・寺町蒼水 甲府・山内退思	同 527 号

1) 月日の表示において、「.」以下は日を表わす。

2) 「別号 / 連載」には、『日本』の部分では荃廬の別号を、『日本及日本人』の部分では連載欄の名称を示した。

3) 『日本』『日本及日本人』の選者は荃廬と浜村蔵六（五世）が担当した。本表では荃廬が担当した号数のみ抽出した。

【附表3】雑誌・書籍等に掲載された荃廬収蔵の作品

西暦	年齢	月日	作者・作品名	雑誌名・巻数号数
1913	43	1.5	「漢碑五鳳二年拓本」	『書苑』2-5
1915	45	3.5	「精拓秦權刻銘」	同 5-1
1916	46	10.1	「趙之謙書」	『書道及畫道』1-1
1917	47	6.1	「胡伯讓画」二点	同 2-6
		8.1	「吳讓之篆書」	同 2-8
1918	48	1.5	「龜版文」	『書苑』8-5
		8.1	「朱昂之書」「吳大澂筆」	『書勢』2-7
		9.1	「陳曼生書」「張子羊筆」「馮洽筆」	同 2-8
		10.1	「包慎伯書楹聯」	同 2-9
1919	49	9.1	吳昌碩画幅三点	『藝苑』1-4
1920	50	3.1	「趙之謙筆」	『書道及畫道』5-3
		5.5	吳昌碩画幅六点	『吳昌碩畫譜』
		5.20	「吳熙載臨漢靈台碑」	『談書會集帖』68
		6.1	「張璠圖書」「李鱣筆」	『書勢』4-6
		7.30	「吳熙載臨漢靈台碑」「皇象急就章」	『談書會集帖』69
		8.1	吳昌碩画幅四点	『美術寫真畫報』8
		9	「趙之謙牡丹図」	『名品綜覧：東洋藝術』1-3
		9.30	「吳熙載臨漢靈台碑」「皇象急就章」	『談書會集帖』70
		10.1	鄧石如隸書拓幅二点 鄧石如楷書拓幅二点	『書道及畫道』5-10
		11.1	鄧石如隸書拓幅二点	同 5-11
		11.30	「吳熙載臨漢靈台碑」「皇象急就章」	『談書會集帖』71
		12.1	鄧石如隸書拓幅二点	『書道及畫道』5-12
1921		1.1	「楊見山隸書聯」「吳昌碩画幅」	『書道及畫道』6-1
		2.20	「吳熙載臨漢靈台碑」「皇象急就章」「吳大澂聯」	『談書會集帖』72
		3.1	「翁印若画幅」	『書道及畫道』6-3
		3.30	「吳熙載臨漢靈台碑」「皇象急就章」	『談書會集帖』73
		4.1	「趙士鴻行書扇面」「趙士鴻花卉扇面」	『書道及畫道』6-4
		5.20	「吳熙載臨漢靈台碑」「皇象急就章」	『談書會集帖』74
		6.1	「鄧石如弟子職拓本連幅」 趙之謙画幅四点	『書道及畫道』6-6
		7.20	「吳熙載臨漢靈台碑」「皇象急就章」	『談書會集帖』75
		9.25	「吳熙載臨漢靈台碑」「皇象急就章」	同 76
1922	52	4.26	「皇象急就章」	同 79
		6.20	「皇象急就章」	同 80
		9.30	「楊沂孫篆書威儀篇」	同 82
		11.30	「楊沂孫篆書威儀篇」「李憲墓誌銘」	同 83
1923	53	2.20	「楊沂孫篆書威儀篇」「李憲墓誌銘」	同 84
		3.25	「楊沂孫篆書威儀篇」「李憲墓誌銘」	同 85
		6.15	「楊沂孫篆書威儀篇」	同 86
		8.9	「楊沂孫篆書威儀篇」	同 87
1925	55	11.1	「查昇書」	『書勢』9-11
1926	56	3.31	「吳讓之隸書神清洞題記」	『談書會集帖』94
		6.1	「蔣山堂行書」	『書勢』10-5
1927	57	3.10	「瞿子治画」「楊見山隸書」「朱夢廬画祝沈汲民寿幅」	『詩書畫』創刊号
		6.10	「趙之謙画」	同 3
1928	58	4.25	「陳曼生書」「張子祥画」	同 7
1930	60	7.18	「王時敏筆隸書幅」「冒襄筆行書幅」「法若真筆草書幅」「高士奇臨顏真卿爭坐位帖」「汪士慎筆行書帖」「查昇筆行書卷」「何焯筆東坡和陶詩帖」「查慎行筆蹟」「孫岳頌筆王右軍陣図」「丁敬筆行書卷」「丁敬筆蹟」「蔣仁筆行書幅」	『書道全集』21
1931	61	10.20	「甲骨大片」	同 1
1932	62	4.24	「元五面印」「元六面印」「明印（万曆丁酉劉喩鄉刻）」「繼志述事之宝」「大清受命之宝」「竹田深处（文後山刻）」「馮咸私印（陳曼生刻）」「字聖泉号友梅（趙次閑刻）」「子京秘玩（吳熙載刻）」「顧伯近作（趙鶴叔刻）」「汪行忠恕齋（吳昌碩刻）」「清印（吳讓之刻、包世臣詞）」	同 27

1933	63	4.30	「陳鴻寿草書黔中名勝語軸」「趙之琛臨周遼敦銘軸」「趙之謙行書七言對聯」「楊峴隸書十言對聯」	『東方書選』
		7.1	「貫名海屋書山田公雪冤碑および碑影」	『書藝』3-7
		11.5	「鄧完白書」「吳讓之書」「趙之謙書並二画」「徐三庚書」	同 3-11
1934	64	1.5	「梁山舟「寿」大字」	同 4-1
		11.10	「楊守敬楷書楹聯」	同 4-11
		11.25	「張問陶行草書五言古詩軸」「張問陶行草書五言律詩軸」「吳熙載楷書敬齋箴屏」	『支那名家墨蹟』1
1935	65	1.1	「吳雲臨智永千字文」「吳俊卿肖像」	『書藝』5-1
		4.1	「趙之謙筆富貴図」	『南畫鑑賞』4-4
		6.20	「梁同書行書大寿字軸」「阮元行書律詩軸」「吳熙載篆書扁」「吳熙載隸書扁」「雷浚篆書八言聯」「楊峴臨漢華山廟碑軸」	『支那名家墨蹟』2
		7.1	「鄭板橋筆蘭竹」	『南畫鑑賞』4-7
		8.1	「李復堂筆蓮」「改七鄰筆蓮」「趙之謙筆蓮」	同 4-8
1936	66	1.1	「虚谷筆梅花艸堂図」	同 5-1
		8.30	「蔣仁行書七言律詩二首軸」「包世臣楷書八言聯」「達受飛白書七言聯」「徐三庚篆書六言聯」	『支那名家墨蹟』3
1937	67	3.1	「鄧石如行草書七言律詩條幅」「王鐸臨各帖字卷」「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	『書苑』1-1
		4.1	「趙之謙牡丹図立軸」「王鐸臨各帖字卷」「張子祥画冊」「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	同 1-2
		5.1	「陳鴻寿松石図」「包世臣臨書譜屏」「王鐸臨各帖字卷」「張子祥画冊」「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	同 1-3
		6.1	「王鐸臨各帖字卷」「張子祥画冊」「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	同 1-4
		7.1	「笪重光草書漫詠立軸」「朱昂之仿思翁山水立軸」「王鐸臨各帖字卷」「張子祥画冊」「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	同 1-5
		8.1	「汪士鋐行書五言律詩軸」「李鱣荷花図軸」「王鐸臨各帖字卷」「張子祥画冊」「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	同 1-6
		8.20	「吳讓之隸書」	『清人隸書集』
		9.1	「王鐸臨各帖字卷」「張子祥画冊」「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	同 1-7
		10.1	「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	同 1-8
		11.1	「張子祥画冊」「吳讓之篆書武帝与臧熹敕」「完白山人篆刻偶存」	同 1-9
		12.1	「張子祥画冊」「完白山人篆刻偶存」	同 1-10
1938	68	1.1	「梁同書大寿字立軸」「吳雲淡彩九如図立軸」「吳讓之臨天堯神識碑」「張子祥画冊」「完白山人篆刻偶存」	同 2-1
		2.1	「吳讓之臨天堯神識碑」「張子祥画冊」「完白山人篆刻偶存」	同 2-2
		3.1	「吳讓之臨天堯神識碑」「完白山人篆刻偶存」	同 2-3
		4.1	「汪鏞仿唐六如高士觀鵞図」「吳熙載臨玉枕蘭亭」	同 2-4
		5.1	「吳讓之臨天堯神識碑」「完白山人篆刻偶存」	同 2-5
		6.1	「奚墨筆山水立軸」「阮元草書橫幅」「吳讓之臨天堯神識碑」	同 2-6
		7.1	「張問陶行草書七言聯」	同 2-7
		8.1	「任薰寫坡公像立軸」「吳讓之臨天堯神識碑」	同 2-8
		9.1	「吳讓之臨天堯神識碑」	同 2-9
		10.1	「徐禎卿行草書詩翰幅」	同 2-10
		11.1	「祁豸佳墨筆山水図軸」「吳讓之臨天堯神識碑」	同 2-11
		12.1	「張問陶仙鹿図立軸」	同 2-12
1939	69	1.1	「梁同書大寿字立軸」	同 3-1
		3.1	「曹寅艸行書元人詞立軸」「任熊設色孔雀図立軸」	同 3-3
		4.1	「張庚摹冷謙山水立軸」	同 3-4
		5.1	「朱爲弼臨襄陽帖立軸」「任熊画錐進士図立軸」	同 3-5
		6.1	「張敬罍粟花図横軸」	同 3-6
		9.1	「趙執信行書七言律詩立軸」	同 3-9
1940	70	1.1	「張廷濟楷書古語對聯」「吳大澂富貴平安図立軸」	同 4-1
		2.1	「吳雯行書七言律詩立軸」	同 4-2

		3.1	「盛大士墨筆山水立軸」	同 4-3
		4.1	「朱湘草書立軸」	同 4-4
		5.1	「張子祥山水冊」	同 4-5
		6.1	「張子祥山水冊」	同 4-6
		7.1	「馮金伯觀泉図立軸」	同 4-7
		8.1	「改琦荷花図立軸」「張子祥山水冊」	同 4-8
		9.1	「張子祥山水冊」	同 4-9
		10.1	「張子祥山水冊」	同 4-10
		10.10	「吳讓之仙桂新枝図」	『興亜書報』2-10
		11.1	「張子祥山水冊」	『書苑』4-11
		11.10	「雪舟江山釣艇図」	『興亜書報』2-11
1941	71	1.1	「趙之謙歲朝清供图立軸」「趙次閑画石冊」	『書苑』5-1
		2.1	「趙次閑画石冊」	同 5-2
		3.1	「朱鶴年画漁洋竹垞二先生像」「包世臣臨稿書萃百花園五樂詞」「趙次閑画石冊」	同 5-3
		4.1	「張賜寧山水墨筆立軸」	同 5-4
		5.1	「吳嵩梁書七絶二首立軸」	同 5-5
		6.1	「陳鴻寿行草書立軸」「趙次閑石冊」	同 5-6
		7.1	「成親王五言詩軸」「趙次閑画石冊」	同 5-7
		9.1	「吳育篆書立軸」	同 5-9
		10.1	「文嘉秋景山水軸」	同 5-10
		11.1	「胡震行書立軸」「趙之謙設色秋容図」	同 5-11
		11.10	「蔣霞竹秋庭孤鶴図」	『興亜書報』3-11
1942	72	1.1	「張雲章行書五言律詩立軸」「姚元之設色大夫君子富貴寿考図立軸」	『書苑』6-1
		2.1	「今积草書五言截句軸」「王士慎設色梅花軸」	同 6-2
		3.10	「張子祥山水」	『興亜書報』4-3
		4.1	「翁方綱稿書七言截句立軸」	『書苑』6-4
		5.1	「何天龍行草書立軸」	同 6-5
		7.1	「徐堅風壑雲泉図軸」「馮金伯臨邢書立軸」	同 6-7
		11.1	「李元直行書五言古詩立軸」「文點設色山水冊」	同 6-11
		11.10	「張浦山黄山図」	『興亜書報』4-11
		12.1	「趙之謙行書屏」「趙搗叔尺牘」	『書苑』6-12
1943	73	1.1	「武億臨漢鏡銘」「文与也山水冊」	同 7-1
		3.1	「馮洽孤鶴図」「郭霽行書七言絶句軸」「文与也山水冊」	同 7-3
		4.1	「汪啓淑行書樂府立軸」「張孟舉牡丹立軸」「文与也山水冊」	同 7-4
		5.1	「朱昂之行草書立軸」「張熊山水立軸」	同 7-5
		8.1	「胡公寿蘭竹図軸」「曾紀沢行草書七律二首軸」	同 7-8
		9.1	「屠倬竹菊図横幅」「包世臣臨破羌帖幅」	同 7-9
		10.1	「王文治題夢相僧図横幅」「陳務滋小停雲山館図立軸」	同 7-10
		11.1	「蔣仁行書七律二軸」	同 7-11
		12.1	「陳洪綬臨古帖立軸」「吳熙載蠟梅直幅」	同 7-12
1944	74	2.1	「楊峴節臨西嶽華山廟碑立軸」	同 8-1
		7.1	「曾谷学川隸書五言詩立軸」「楊沂孫篆書立軸」	『書苑』新 1-1

1) 月日の表示において「.」以下は日を表わす。

2) 雑誌の第○巻第○号との表示は簡略し「○-○」としている。

3) 作品名表記は原著に従ったため、統一性を欠く場合がある。

4) 本表を書と画に別け、時代別、作家別に整理した拙稿「河井荃廬旧蔵中国書画目録稿」(『大東書道研究』18号、2011年、大東文化大学書道研究所、「河井荃廬旧蔵印譜典籍刻印目録稿」(同22号、2015年)も参照されたい。

【 Research-aid resulting papers vol.5 】

Shosha Education in Japanese Elementary and Junior High Schools: Case Studies in Asia and Oceania
MATSUMOTO Takako

Development of Higher Education and Research Institutions in the Postwar Calligraphy World and its Background
YANAGIDA Sayaka

A Practical Research Aimed for Children's Learning Stable Brush Stroke on Writing: With a Focus on the Angle of Horizontal Stroke Rising to the Right
SERIZAWA Mamiko

The Chronological of table Kawai Senro and his Works
GONDA Shunichi

研究助成審査委員一覧

研究助成審査委員長

古谷 稔（東京国立博物館 名誉館員）

（1）幼児から小学校２年生までを対象にした文字教育に関する研究分野

審査委員

瀬川賢一（大阪教育大学 准教授）

森 哲之（広島文教大学 教授）

（2）小学校３年生から中学校３年生までを対象にした習字・書写書道教育に関する研究分野

審査委員

大橋修一（埼玉大学 名誉教授・川口短期大学 教授）

松本仁志（広島大学 教授）

（3）わが国又は東アジアの書学・書道史に関する研究分野

審査委員

福田哲之（島根大学 教授）

永由徳夫（群馬大学 教授）

（4）文字を用いた生涯学習に関する研究又は、美術館・博物館等における習字・書写書道教育（鑑賞・ワークショップ等を含む）に関する研究分野

審査委員

萱 のり子（東京学芸大学 教授）

丸山猶計（東京国立博物館 室長）

（5）教育史的立場から論じた習字・書写書道教育に関する研究又は文房具に関する研究分野

審査委員

樋口咲子（千葉大学 教授）

宮里 司（元大東文化大学書道研究所 室長）

学術研究助成成果論文集の刊行にあたって

当財団の研究助成事業は、日本習字創立六〇周年を記念して始めたもので、その願いは一重に書道文化、書道教育の振興発展に寄与し、次代を担う若手研究者の一助になればとの思いであつた。

こうした趣旨に賛同した数多くの研究者が、これを活用し、その後も目覚ましく活躍されていることは、誠に喜ばしい限りである。

本論文集の刊行も、当該事業の成果を発表する場として位置付け、斯界発展のために役立つことがあるれば、望外の喜びである。

公益財団法人 日本習字教育財団

公益財団法人 日本習字教育財団 学術研究助成成果論文集 vol.5

発行日 令和2年3月31日

発行所 公益財団法人 日本習字教育財団
福岡市中央区警固1丁目12番11号
TEL 092-721-4555
www.nihon-shuji.or.jp

©2020 公益財団法人 日本習字教育財団
本書の一部を無断で転載・複写することを禁じます。

協力 平出秀俊・勢力洋幸